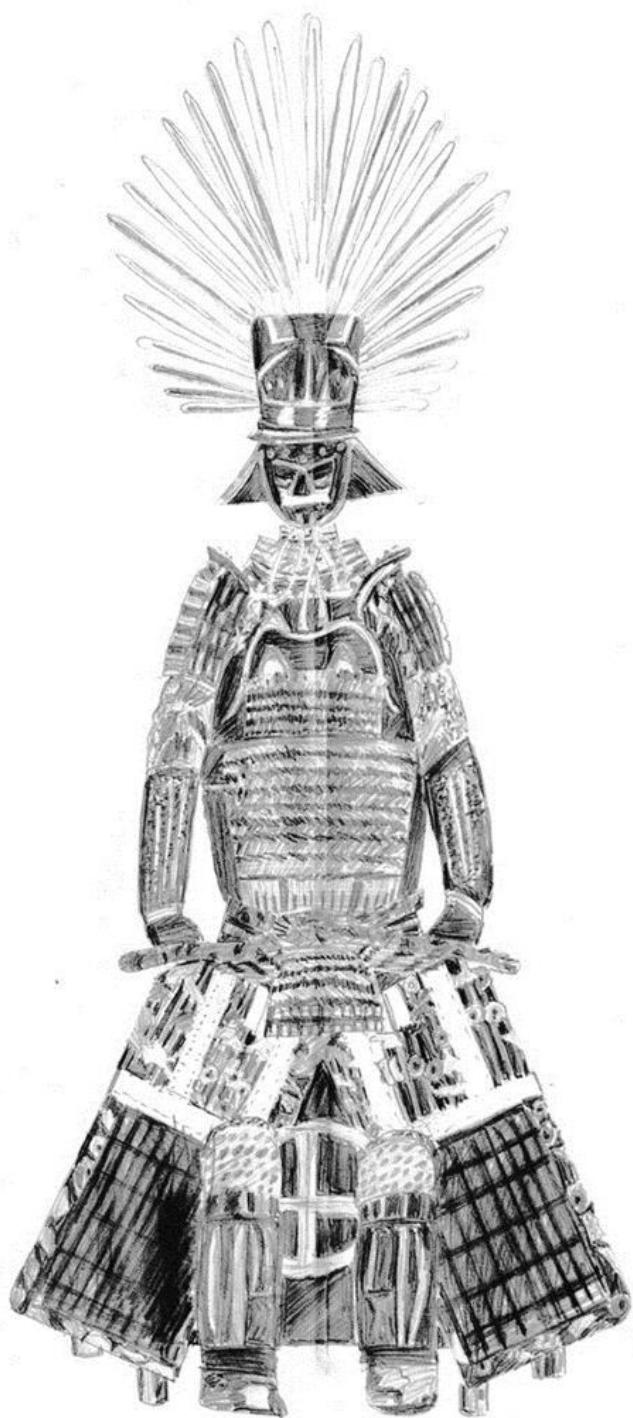


# 地歴の部屋 2024



# 目次

菅原道真 中（七十七回生 佐藤智成） .....	- 2 -
安直戦争に関する考察（79回生 主藤慧悟） .....	- 26 -
世界の移動を「中継する」ハブ空港（79回生 重永 真拓） .....	- 29 -
佐世保鎮守府の設置と発展（77回生 羽根田達英） .....	- 33 -
第二次世界大戦期機銃、20ミリ機銃と7.7ミリ機銃（81回生 大越智悠） .....	- 42 -
神戸市近辺の城（79回生 青木凱人） .....	- 43 -
武田信玄の西上作戦（79回生 小西櫂世） .....	- 45 -
巡検記（77回生 佐藤智成） .....	- 49 -
八幡製鉄所の歴史（77回生 佐藤智成） .....	- 51 -
筑豊炭田 江戸～戦前（77回生 大月遙太郎） .....	- 61 -
筑豊三都：直方・田川市の産業～第二次世界大戦中～戦後の転換 そして現代～ (77回生 石戸慎之助) ..	- 65 -
菅原道真 下（77回生 佐藤智成） .....	- 72 -
板付遺跡（77回生 大月遙太郎） .....	- 98 -
多々良浜古戦場について（80回生 田中康太郎） .....	- 101 -
福岡城～概要・歴史・黒田騒動・構造～（79回生 青木凱人） .....	- 104 -
福岡城～黒田孝高（官兵衛）・黒田長政～（79回生 小西櫂世） .....	- 105 -
大宰府鴻臚館について（77回生 佐藤智成） .....	- 108 -
元寇防壘について（77回生 羽根田達英, 80回生 竹市拓真） .....	- 119 -
三重津海軍所（79回生 青木凱人, 80回生 竹市拓真） .....	- 121 -
三池炭鉱（79回生 小西櫂世, 80回生 田中康太郎） .....	- 124 -

# 菅原道真 中

七十七回生 佐藤智成

## 一. はじめに

「菅原道真 中」では道真の、出世と暗転の時代についてみていきます。

なお、「菅原道真 上」では上編・下編に分けると予告していましたが、上編・中編・下編に変更いたしました。下編は「巡検記」の第5章1節の「太宰府天満宮班事前学習資料」として掲載しておりますので、是非ご覧ください。

## 二. 顯栄への道

### 亡き橘広相の後釜として

八九〇（寛平二）年閏九月十二日、宇多天皇は儒士を宮中に召して、「未だ旦ならざるに衣を求むるの賦」と「霜菊の詩」を詠させました。これは単なる文学作品を作るのでなく、君主が政治を思う道と臣下が正しい行いをする情を述べさせるものでした。道真も作品を献上しています（文草、巻七、五一六「未旦求衣賦一首」・文草、巻四、三三二「霜菊詩」）。宇多天皇が側近として、頼りにしていた故・橘広相の跡を嗣がせようとしたきっかけは、こうした道真の詩才、それも花鳥風月を詠むだけではない、政治的な作品を作り出せる才学を知ったことがあります。

また、「菅原道真 上」でもみましたように、道真は藤原基経とも親交がありました。宇多天皇が道真を選んだのは、このことも考慮されたのでしょう。

八九〇年冬、基経は病に伏せっていました。十月三十日には天下に大赦が行われ、基経の病

氣平癒を祈るために度者（=出家する権利を認められた者）三十人を賜りました。

さらに宇多天皇は見舞おうとしましたが、基経は謝絶しました。それに対し、宇多天皇は勅を下しました。勅には基経が「先帝（=光孝天皇）を輔翼し、朕が躬を推し進めた」と、先帝からの輔弼についても記されていますが、これを書いたのが道真です（文草、卷八、五七三）。

基経は自分の病気のために大赦が行われ、度者を賜ることについても謝絶したのですが、これに答える勅を書いたのも道真です（文草、卷八、五七四）。

通常、詔勅は内記の職にある者が起草するのですが、阿衡の紛議（=橘広相が書いた勅答の中にあった「阿衡の任を以て、卿の任と為すべし」の句をめぐり、宇多天皇と太政大臣・藤原基経が政治の主導権を争って対立した事件）で基経に対する勅を執筆したのが宇多天皇の側近・広相であったように、ここで道真に勅を起草させたのも、道真を広相と同様に扱おうとする姿勢からでしょう。

このように宇多天皇は、積極的に道真を登用しようとしています。この時期道真は、都で交代事務を行ったこともあり、次の官職に就いていませんでした。それにもかかわらず、勅という天皇の言葉を起草する役割を、その職を務める内記ではなく、道真に任せたのです。

## 官僚復帰—蔵人頭に

八九一（寛平三）年正月十三日、太政大臣・藤原基経が薨じました。享年五十六歳でした。前年冬から病に伏せっていました。後嗣の藤原時平は、三月十九日に参議に任じられましたが、まだ二十一歳です。これ以後、宇多天皇が積極的に国政に関与する天皇親政とされ、「寛平の治」と称されます。

八九一年二月二十九日、道真は蔵人頭に補されました。蔵人頭は、蔵人所の長官で、定員は二名です。所の職員として、五位蔵人や六位蔵人などがいますが、天皇の代替わりによって新任されることからも、天皇との結びつきが強い職であり、近臣といつてよいです。

蔵人頭の後任は五位蔵人から選ばれるのが通例です。八九〇年十一月二十八日に時平が従三位に叙されて頭から離れ、後任として、翌年の二月に道真が頭に補されました。道真は五位蔵人を経ずに蔵人頭になったのです。これは宇多天皇の抜擢といえます。

しかし道真は、補された翌日、蔵人頭を寵めたいと上奏します（文草、卷九、五九九）。蔵

人頭には、「潢流（=皇室の血統）」や「鼎族（=高い身分の家柄）」の出自であること、「芝蘭」や「鸞鳳」のような優れた人を守る「徳」、率いる「威」が必要で、自分では人望に背く、だから別に相応しい人を選んで欲しいと願ったのです。ところが、それは認められませんでした。

## 式部少輔・左中弁兼任

三月九日、道真は蔵人頭に加えて式部少輔に再任されました。道真は讃岐守に任じられるまで少輔を務めており、五年ぶりの再任です。

しかし、道真の兼官はこれだけに留まりませんでした。四月十一日には左中弁も兼ねます。弁官は、左右弁官局からなる行政事務担当機関で、太政官の庶務を処理し、文書を扱い、諸宮司や諸国との連絡・仲介に当たる太政官行政の事務部局で、極めて重要・多忙な職です。

道真は、二月二十九日に蔵人頭、三月九日に式部少輔、四月十一日に左中弁と、一ヶ月半で、これだけを兼任することとなったのです。

式部少輔は以前も務め、紀伝道出身者が就くに相応しい官です。また弁官も、文書行政の中核で、紀伝道出身で実務に秀でた者が任じられる場合が多いです。したがってこの二官については、紀伝道出身官僚として、道真にとって違和感はなかったでしょう。

しかし、蔵人頭は違いました。四月二十五日、道真は再び、蔵人頭を辞する表を奉りました（文草、卷九、六〇〇）。先に蔵人頭を辞する表を奏上したものの却下されて以来六十日、道真是過ちを犯しつつ務めていましたが、式部少輔・左中弁を兼ねることとなり、さらに、「滝口の撰書所」に宿直し、「御前の侍読（=天皇の学問を教える役割）」に伺候することになったのです。式部少輔・左中弁という二官職に、撰書・侍読という「両役」まで務めることになり、全ての仕事を成し遂げることは難しいので、蔵人頭を解くことを願いました。道真は、三官を兼任するだけでなく撰書と侍読も務めていましたが、解いて欲しいと願ったのは、蔵人頭だったのです。それだけ、自分に相応しくない職だと考えていたのでしょう。なお、「撰書」が具体的に何を指すのかは明らかではありません。また「御前の侍読」についても、何を講義したのかは未詳です。

ところが、二度目の辞表も受け入れられず、道真は二年間、蔵人頭を務めることになります。八九二（寛平四）年正月七日、道真は従四位下に叙されました。

### 三. 寛平の治

#### 時平と道真

世間一般で藤原時平と菅原道真すがわらのみちざねといえれば、のちの大宰府左遷と関わって、関係は険悪に、あるいは対立的に捉えられがちです。しかし、実際はそう単純ではないのです。

先に述べましたように、いわゆる「寛平の治」は、八九一（寛平三）年の基経の死を契機としています。その翌年秋、宇多天皇・時平・道真是詩のやり取りをしています。

それは時平の「秋の日に懷おもひを遣る」という詩から始まりました。そしてそれに対し、道真是本韻（=元の詩と同じ韻字を同じ順番で用いること。韻字で記述を制限されながら相手の心を汲まなければならないだけに、贈答する詩としては最も手の込んだ、丁寧なものになる）によって贈答しました（文草、卷五、三五二）。

道真が贈答詩を詠んだ後、さらに時平が漢詩を送ってきました。道真是その詩にも応えました（文草、卷五、三五三）。その題辞をみると、時平の詩に応えて道真が詩を詠んだ後、宇多天皇が漢詩を作ったといいます。時平・道真的贈答詩を見たのでしょう。そしてそれに感激した道真が詩を作り、君主に仕える道を詠み、さらに私情を加えて、時平に送りました。

時平の元の詩は残らないものの、道真詩の内容から、時平が宇多天皇に忠節を誓う詩を詠んで道真に送り、それに対して道真が時平への謝意を詠む。その間、宇多天皇の作があり、道真はさらに、時平の作を称賛しつつ、臣下としての道（=宇多天皇への忠節）を詠じたという流れになります。

この八九二年の秋、時平は二十二歳の若き参議として太政官の一員であり、道真は蔵人頭として宇多天皇の側近です。その二人が宇多天皇を間に置いて忠節を誓った作品を詠み合ったのです。それも、時平から詠みかけているのです。基経亡き後、寛平の治が始まるとされるだけに、興味深い事柄です。宇多朝の実質的首班は大納言・源能有みなもとのよしありで、能有は道真と親しかったです。寛平の治の始発は、その能有を筆頭に、基経後嗣の若き時平と、蔵人頭という天皇側近の道真がいるという体制だったのです。

時平と道真の詩のやり取りは、これだけに留まりません。おそらく同年の冬、時平は嵯峨院

に遊覧に行き、道真に「冬日嵯峨院即事」<sup>そくじ</sup>という詩を送りました。道真はそれに応えた詩を詠んでいます（文草、卷五、三五八）。

また翌八九三年、道真の参議就任を祝って時平は、「<sup>ていしゅう</sup>鄭州の玉帶」<sup>ぎょくたい</sup>を贈りました。道真はそれを謝す詩を詠んでいます（文草、卷五、三六八）。

このようなやり取りは、道真が左遷される直前まで続きます。こうした情況をみると、時平と道真が対立していたと単純に考えることは難しいです。

## 参議となる

八九三（寛平五）年二月十六日、道真は参議に任じられました。左中弁は引き続き兼任で、式部少輔から大輔に上りました。一方、蔵人頭・左京大夫（八九二年十二月五日に任官）からは離れました。道真は四十九歳にして、参議に任じられて公卿の地位に至り、太政官の議政に参加するようになったのです。父・菅原是善に続き二代にわたる参議職ですが、是善は六十一歳での就任であり、早い昇進といえます。

この時、時平から玉帶を贈られたことは先に述べました。時平の方は、道真の任参議と同日に中納言に昇っています。

六日後の二月二十二日、道真は左中弁から左大弁に昇りました。さらに三月十五日、勘解由長官も兼ねました。勘解由使は官人らの交替を監査する役所です。多く儒家が任じられ、父・是善や橘広相も務めました。これで、参議兼左大弁・式部大輔・勘解由長官を帯びることになりました。

## 醍醐天皇と道真

さて、醍醐天皇と道真は四十歳差と、孫と祖父程に年が離れていましたが、必ずしも表面的な付き合いに終始する間柄ではありませんでした。両者の交流をしばらく追ってみることにします。

醍醐天皇（八八五～九三〇）は宇多天皇がまだ源定省と呼ばれていた頃に生まれ、<sup>みなもとのさだみ</sup>これ<sup>き</sup>と名付けられました。三歳の時に父親が即位し、五歳で親王宣下を受け、翌年に敦仁と改名しました。

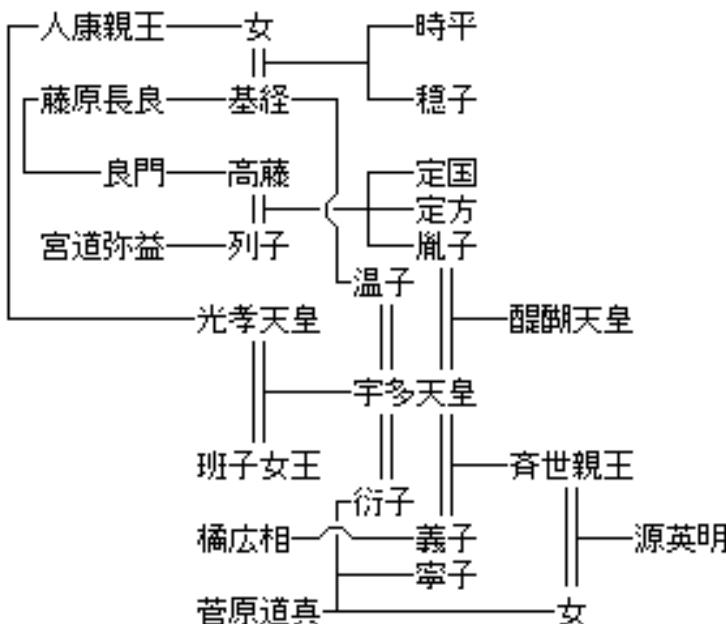
八九三（寛平五）年四月二日に九歳で皇太子に立てられましたが、この時、誰を皇太子にするか宇多天皇が相談したのは、末席の参議に過ぎない道真でした。

敦仁親王は長男ですから妥当な選択ですが、問題はその時期です。天皇は二十七歳と若く、急いで皇太子を決める必要はありませんでした。

親王の母・藤原胤子は基経の従兄弟・藤原高藤の娘で、同じ藤原北家でも傍流に過ぎません。しかし基経の娘・温子が皇子を産めば、彼女の兄弟である時平が外戚として実権を握る可能性があります。阿衡の紛議で基経に煮え湯を飲まされた天皇としては、大きなリスクを背負う前に、まして政治手腕のない高藤・定国親子を皇太子の外戚にした方が、親政を続ける上では有利だったのです。

果たしてこの選択で周囲を納得させられるのか？内密に意見を求める理由は、このあたりにあるのでしょうか。

### 天皇家略系図



以来道真は、春宮亮あるいは春宮權大夫として皇太子に近侍する立場にあり、経費節減のために東宮学士（=皇太子の教育係）の仕事を代行することもありました。

時には皇太子の命令で詩を作りましたが、その中で特筆すべきは、八九五（寛平七）年の二度の即吟です。

三月二十六日、皇太子が「一日に百首を詠んだという唐の故事に倣い、二時間で七言絶句を

十首作るように」と題を指定して命じたところ、道真はたった一時間で作り終えました（文草、卷五、三九一「七年暮春二十六日、・・・（一）送春」）。そして夏になり、改めて二十首の題を与えられ、今度は二時間で五言律詩を詠んでいます（文草、卷五、四〇一）。

渤海使相手に即席で詩を詠み（文草、卷七、五五五）、大使から「白居易のような詩だ」と讃められた（文草、卷二、一一九（二）「余、近ごろ『詩情怨』一篇を叙べ、・・・（二）」）ことのある道真だけに、無謀な挑戦ではありませんでしたが、一首六分とは、詩人の面白躍如たるものです。

## 時平と雁行

八九五（寛平七）年十月二十六日、道真は、参議から中納言に昇りました。父・是善は参議が最終官職でしたので、それを超えたことになります。もちろん、菅原氏としては初の任官です。

また同日、従三位に叙されました。これで時平と同じ官位となります。

さらに翌八九六年八月二十八日、道真は民部卿を兼任しました。民部省は、戸籍・課役・交通・田地など、諸国の民政や国家財政に関わる省で、極めて多忙です。

それから十一月十三日、道真は春宮権大夫も兼ねました。それまで春宮亮として、春宮坊の次官であったのですが、権官という定員外の形で、時平と同じく大夫（=長官）となります。これまで時平の下位であった道真ですが、雁行する形となりました。

## 源能有薨去

八九七（寛平九）年五月に左大弁を離れた道真は、六月十九日に権大納言に任じられ、同日、右近衛大将を兼ねました。民部卿と春宮権大夫は兼任のままです。これはこの月八日の、右大臣・源能有の薨去と関わります。

道真と同日、時平は大納言に昇り、左近衛大将を兼ねました。源光は道真と同じ権大納言となり、按察使を兼ねました。時平のみが正官の大納言で、道真らは権官となったところに差が設けられ、筆頭公卿は時平となりました。

「菅原道真 上」で触れましたように、道真は能有とは長い交友がありました。個人的な関係はもちろんにしても、昇進し政治に携わる責任が増大する道真にとって、上位にいる能有は頼

るべき存在でした。能有の死によって、時平と共に政権運営を担当する重大な責任を負うことになります。

しかも後程、宇多天皇が譲位することによって、新帝・醍醐天皇の輔弼を時平と共に行うように宇多天皇から命じられることとなるのです。

#### 四. 宇多天皇の譲位

道真との合議の結果、八九三（寛平五）年に敦仁親王を皇太子とした宇多天皇ですが、それからわずか二年弱で譲位を考えました。

その意を内密に漏らした相手は、やはり道真でした。煩わしい政務から離れて仏道と風流の世界に遊びたい、そんなことを思う天皇に対し、道真は「譲位などという一大事には時機がある以上、思いつきでするものではありません！」と、即座に反対しました。書面、あるいは面と向かって反論を繰り返す道真を前に、天皇は譲位を取り下げる他ありませんでした。

ところが、それから二年後の八九七（寛平九）年、天皇は再び譲位の意を漏らしました。

道真の言う「天時」に叶った時期だったのか、あるいは天皇に押し切られたのか、道真は内密に準備を進めます。しかし秋七月、計画が漏れ、譲位が噂されるようになると、天皇は狼狽え、譲位を延期しようとしました。

それを聞いた道真は、「中止する方が危険です」と、譲位を決行するよう進言しました。六月八日に右大臣・源能有が薨去し、藤原時平が台閣（=中央政府）の最上位を占めることになり、いずれ譲位するという不安定な状態を継続するより、早く少年皇太子を即位させ、宇多天皇が上皇として援護し、道真が補佐する格好で親政路線を継承させる方が、時平を牽制するには有利と読んでの判断でした。

このように、譲位のタイミングを決めたのは、道真だったのです。

## 五. 醍醐派と宇多派の対立

### 醍醐天皇の即位

そして七月三日、皇太子・敦仁親王は十三歳で元服し、そのまま即位しました。

宇多天皇は、政務について詳細に書き記して新帝・醍醐天皇に与えました。これが『寛平御遺詔』と呼ばれるのですが、道真を政務に明るく反論を厭わない学者だと評し、立太子と譲位に関与したことを明かして重用するよう命じました。こうして道真は、単なる儒家官僚としてではなく、天皇を補佐する政治家として、時平と共に政権のトップで政治を担当することになったのです。

翌八九八年四月二十六日、昌泰と改元されました。

### 諸納言の出仕拒否

しかし内々に命ずると、公然と命じるのでは話が別です。

讓位の詔に「大納言・時平と權大納言・道真が政務を総覽するように」という趣旨の記述があったことから、權大納言・源光、中納言・藤原高藤、中納言・藤原国経の三名の公卿はひどく反発しました。阿衡の紛議の基経に倣ってか、彼らは「天皇への奏上・天皇からの下達は両者でなければできないのだ」と言って外記序（=政務を審議する場）への出仕を拒むという行動に出ました。

いくら違うと説明しても埒が開かないので、八九八（昌泰元）年九月、詔の内容に公卿達を排除する意図はないことを直接説明するよう、道真は上皇に懇願しています（文草、卷九、六〇六「太上天皇に上り、諸納言等をして共に外記に参らせしむることを請ふの状」・六〇七「重ねて太上天皇に上り、諸納言の疑へる所を決むる状」）。

この一年二ヶ月の間、彼らがいつ出仕拒否を始めたのかは明らかではありません。また、「諸納言等」（文草、卷九、六〇六）・「諸納言」（文草、卷九、六〇七）と、道真の表記も揺れており、納言三名に同調した者がどれほどいたのかもはっきりしません。

ただ、『公卿補任』を見ると、この三人が実力行使に出たのも納得できます。

まず權大納言・源光。彼は、仁明天皇（醍醐天皇の曾祖父）の息子です。醍醐天皇が即位し

た直後の八九七年七月十三日に叙位<sup>じょい</sup>が行われましたが、従三位から正三位<sup>じゅさんみ じょうさんみ</sup>になったのは時平・道真・高藤の三人だけで、上席だった光を道真が飛び越す格好になりました。

そしてその中納言・高藤は、天皇の外祖父でありながらずっと道真の下位にありました。

残る一人、中納言・藤原国経は基経の兄です。八九五(寛平七)年十月二十六日、道真を従四位下<sup>じゅうよんいのげ</sup>から従三位に四階級特進させて参議から中納言に引き上げるという、異常としか言い様のない人事異動が行われました。道真を抜擢<sup>ばつてき</sup>して時平を牽制しようとする宇多天皇の政治構想によるものですが、この時道真が抜いた六人の中にいたのが国経です。

さらに、高藤以外の二人は道真がまだ文章博士<sup>もんじょうはかせ</sup>だった元慶年間に参議に任じられており、台閣入りしてから既に十年を越えていました。

道真の下風<sup>かふう</sup>に立つということは時平の下位に立つということです。しかし摂関家の嫡男<sup>ちやくなん</sup>であり、若年ながら政治に熟達した時平に比べ、参議の嫡子<sup>ちやくし</sup>とはいえ、道真は学者に過ぎません。たまたま抜擢<sup>ばつてき</sup>されただけの学者が名家の子弟を差し置いて上位に座していること、この事実が不満の核心だったのです。

さて、道真から窮状<sup>きゅうじょう</sup>を知らされた上皇は、八九八年九月十八日になって詔の趣旨に他意はないことを諸納言に説明し、出仕拒否はようやく解消しました。しかし道真は、收拾を天皇ではなく上皇に依頼したこと、上皇に依存しているという印象を周囲に与えてしまう結果となりました。

結局は自分達の参政権についてきちんとした説明を求めての実力行使だったわけですが、道真に対する反感は依然として伏在し、右大臣就任をめぐって再び火を吹くことになります。

## 宮滝御幸

八九八(昌泰元)年十月二十一日、宇多上皇は、廷臣<sup>ていしん</sup>を引き連れて吉野宮滝<sup>よしのみやたき</sup>への遊覧に出ました。十一月一日に都へ戻るまで、十日程の御幸<sup>ごこう</sup>です。筆頭の大納言・時平は参加しませんでしたが、次席の権大納言・道真は従<sup>したが</sup>いました。

『古今和歌集』の巻九・羈旅歌<sup>きりょか</sup>・四二〇をみてみましょう。

## [原文]

朱雀院の奈良におはしましたりける時に、手向山にてよみける 菅原朝臣  
このたびは幣もとりあへずたむけ山 紅葉の錦神のまにまに

## [口語訳]

宇多上皇が奈良にいらした時に、幣（=神に捧げる供え物）を手向ける山で詠んだ歌 菅原朝臣  
今度の旅は慌ただしく、手向山に手向ける幣も用意できておりません 美しい紅葉を手向ま  
すから、どうぞ神の御心のままにお受け取りください

## [解説]

八九八（昌泰元）年十月、宇多上皇の吉野宮滝御幸に同行した際の作と言われます。  
百人一首に採られていることもあって、「このたび」が「この度」と「この旅」の掛詞なのは  
周知のことでしょうが、「手向山」は固有名詞ではないことはご存知でしょうか。「旅の安全を  
祈って幣を手向ける山」を一般に「手向山」というのです。

紅葉の美しさを、幣を引き合いに出して述べたのが本意です。  
この歌に対して、素性法師の  
たむけにはつづりの袖もきるべきに もみぢに飽ける神や返さむ  
という歌があります。

「神様は紅葉に御満足ですから、粗末な僧衣を切って幣にしても返されますね」というので  
す。

さて、この御幸に従った者は、宇多の天皇・上皇時代の近臣・近親です。この前にも宇多上  
皇主催の御幸や詩宴が何度か行われており、前朝の近臣・近親を集めての御幸や詩宴が頻繁に  
行われていたとすれば、上皇・宇多の近臣・近親、天皇・醍醐の近臣・近親との間に対立を引き  
起こす要因になりましょう。先の諸納言の出仕拒否も、宇多上皇の勅による両名に対するもの  
なので、そうした対立が窺えないわけではありません。

ただしその場合、時平は上皇側です。時平は前年、宇多上皇の船遊の御幸に参加しています。  
しかし、今回の宮滝御幸は、十日程も都を離れる旅で、従った人員は、一昼夜で行われる詩宴や  
御幸とは違って、宇多上皇にとって格段に近しい臣下と考えられます。

十四歳の醍醐天皇を置いて、十八人の近臣を率いて遊覧に行く宇多上皇を、残された廷臣

たちはどう思つたでしょうか。

「宮滝御幸記」の末尾に道真は次のように記しています。

嗚呼、人の心は同じではない、例えてみればちょうどその顔のようなものだ。御幸に相従う者は眞を見てそして頌歎（=褒め称えること）をするし、相従わなかつた者は、偽りを聞いてそして誹謗をなすのである。世の常であり、怪しむべきことではない

道真がこのように記すのは、宇多上皇の行動を中傷する者の存在を推測させ、宇多上皇の行動自体が、誤解を招きかねないものであったことを窺わせます。宮滝御幸に参加した者は真実を知るというのですから、批判は、都の醍醐天皇の側に残つた廷臣たちから起り、上皇やその近臣への「誹謗」となるというのです。

### 齊世親王の元服

宇多上皇の第三皇子・ときよしんのう齊世親王が元服しました。おそらく八九八（昌泰元）年十一月一日のことでしょう。

道真は齊世親王の後見役こうけんやくでしたが、この元服後に、道真の娘（名前は不明）と齊世親王の婚姻こんいんがなされたようです。こうして道真は、宇多上皇との結びつきを一層強めることになります。

### 右大臣となる

上皇の説得で先の諸納言の出仕拒否は解決しましたが、五ヶ月後の八九九（昌泰二）年二月十四日、さらに彼等を刺激しかねない人事異動が行われます。時平を左大臣に任じると同時に、道真を右大臣に昇進させたのです。

『公卿補任』により台閣たいかくの構成を示せば、次の通りです。

藤原時平 (29)	天納言 → 左大臣	北家、太政大臣・基経の嫡子
菅原道真 (55)	權大納言 → 右大臣	参議・是善の嫡子
藤原高藤 (62)	中納言 → 大納言	北家、基経の従兄弟、天皇の外祖父
源 光 (55)	權大納言 → 大納言	仁明天皇皇子
藤原国経 (72)	中納言	北家、基経の異母兄
源 希 (51)	参議 → 中納言	嵯峨天皇の孫、大納言・弘の子
藤原有実 (52)	参議	北家、基経の従兄弟
源 直 (70)	参議	嵯峨天皇の孫、左大臣・常の子
源 貞恒 (44)	参議	宇多上皇の兄
千世王 (67)	参議	宇多上皇の伯父
藤原有穂 (62)	参議	北家
源 澈 (55)	参議	嵯峨天皇の孫、左大臣・融の子
源 昇 (41)	参議	嵯峨天皇の孫、左大臣・融の子

実は源希も藤原有実から源澈までの六人を抜いての中納言抜擢なのですが、批難の鋒先が向けられたのは、やはり道真でした。

道真是三度辞表を提出しました（文草、巻十、六二九「右大臣の職を辞するの第一表」～六三一「重ねて右大臣の職を解かれんことを請ふの第三表」）が、全て却下されました。それらに共通して述べられているのは、門地が低く学者出身の人間が、宇多上皇の恩顧により高い地位を占めている現状に、他の貴族が強い不満を持っている事実でした。

## 時平の妹の入内

八九九（昌泰二）年三月五日、敦仁親王（醍醐天皇）が元服した夜に入内した為子内親王が没

しました。為子は光孝天皇と班子女王の間の子で、宇多上皇の同母妹であり、醍醐天皇には叔母に当たります。

『九曆』の天暦四年（九五〇）六月十五日条に、為子内親王の入内や薨去について記されています。

それによれば、為子内親王が入内する際、時平の妹・穏子も入内させようとしていましたが、宇多天皇が班子女王の命を受けて止めたそうです。その後、為子内親王は出産時に没しました。班子女王が聞いた「浮説（=根拠のない話）」によれば、穏子の母の靈によって殺されたといいます。この時穏子の入内が画策されていましたが、このためにまたもや入内は止められました。

ところが、時平が強引に入内させました。宇多上皇は怒りましたが事が成った後で、もはや止めることができなかったといいます。穏子の入内の時期については明確ではなく、九〇〇（昌泰三）年四月の班子女王没後とも考えられています。

いずれにせよ、時平が強引に妹・穏子を入内させたこと、それに対して宇多上皇が怒り持ったことなど、醍醐天皇と時平の接近、宇多上皇と時平の対立をみることができます。

## 宇多上皇、道真邸に御幸

八九九（昌泰二）年、道真の妻・島田宣来子が五十歳となりました。『北野天神御伝』によれば、宇多上皇の女御である娘の菅原衍子が、母の五十歳の祝いを行い、その際、宇多上皇も道真邸に御幸しました。そして、宣来子に従五位下の位が授けられました。

これは『北野天神御伝』にしかみえない記事ですが、事実だとすれば、道真にとって極めて名誉あるとともに、宇多上皇と道真の緊密な結びつきをさらに世間に広める機会となつたでしょう。衍子自身が母の五十歳を祝うのはともかく、そこに上皇がやってくるのは異例だからです。

## 宇多上皇の出家

十月十五日、宇多上皇が東寺で灌頂（=仏門に入る際、頭上に水を注ぐ儀式）を受け、二十四日に仁和寺で落髮入道しました。

この間、二十日に太上天皇の尊号の停止を請う状を醍醐天皇に出しました。これは道真によ

る執筆で、『菅家文草』卷八に四通が収められています。十月二十四日にはそれを謝絶する勅書が出されました。この勅書は紀長谷雄の作です。醍醐天皇の勅書を書くのは、それだけ醍醐天皇にとって長谷雄は儒家として評価される人物であったことになります。

結局十一月二十五日に、尊号は停止されることになりました。これより、宇多「法皇」と呼びます。

宇多上皇が出家してしまい、道真は殆ど唯一の後ろ盾を失ってしまったのでした。

### 右近衛大将の辞職を願う

九〇〇（昌泰三）年二月六日、道真是右近衛大将の辞職を請う表を出しました（文草、卷九、六〇九）。道真が大将に任じられたのは八九七（寛平九）年六月十九日で、足掛け四年が過ぎていきました。「儒館」から出て「武官」を職とし、三・四年來、罪が深く責任が重い、だから大将の職を辞めさせて欲しいと願うのです。

しかし、翌日に醍醐天皇の使・藤原菅根がやってきて、辞職を認めないという天皇の意志を伝えました。道真是これに従って大将を務めましたが、夏から秋に掛けて「心胸」がふさがれたようになったといいます。

そして十月十日に、二度目の辞職を出しました（後集〈貞享板増補〉）。その辞表の中で道真是、

自分は醍醐天皇の東宮時代の臣下であったことから抜擢された。当時誇りの声があったが、醍醐天皇の期待がある以上、戦々競々としつつも辞職せず務めていた。しかし、今の公卿の中で、この職に堪える者は五・六人居る。私の武官を寵させ、私を専ら花月の席（=詩宴）に供奉させて欲しい

と醍醐天皇に願うのです。

ところが、この辞表も却下されてしまいました。

道真是右大臣の辞職を願う際にも、儒家出身であること、宇多法皇の抜擢であることを述べています。このように、醍醐天皇の東宮時代の旧臣であったことをいう場合もありました。「宇多法皇や醍醐天皇の抜擢が今の自分の地位を作り上げたのだが、儒家出身の自分にはそれは相応しくなく、周囲から誹謗があった」というのです。道真是、分不相応な立場にあることは自

覚しており、誹謗中傷が起こるのもそのためだと考えています。自分の家柄・能力と現状のずれを感じていたのです。

## 家集献上

さて九〇〇（昌泰三）年八月、道真は、祖父・清公、父・是善、そして自身の家集全二十八巻（『菅家集』全六巻・『菅相公集』全十巻・『菅家文草』全十二巻）を醍醐天皇に献上し、天皇から賞賛されましたが、思えばこれが絶頂期でした。

## 宮中の詩宴にて

九月九日に重陽宴、十日に重陽後朝宴と、宮中で詩宴が開かれますが、多分に形式的な重陽の詩（後集、四七二）に比べ、翌日作られた「九日後朝、同じく『秋の思ひ』を賦す、制に応ず（後集、四七三）」は随分深刻な内容を含むものでした。

大臣就任以来、私は今まで<sup>たの</sup>嬉しいと思ったことなどありませんが、まして今宵は外の物音だけで物悲しくなります、老い先短い私はどうすれば帝の御恩に<sup>こた</sup>応えられるのでしょうか？せめて白居易に倣って酒と琴と詩で気を紛らわせようと思うのです・・・

このように、少数の人間だけが出席した場で苦しい胸の内を明かした道真に対し、天皇は後で自らの衣装を褒美として与えました。一年後の同じ日、大宰府で過去の記憶と共に搔き抱いたのは、この御衣です（後集、四八二「九月十日」）。

道真は八九九（昌泰二）年に右大臣に昇り、儒家出身として異例の昇進を遂げました。しかし、本人も自覚している通り、まさに異例であり、大臣も大将も儒家としては相応しくない職でした。儒家出身でそのような地位に就いたために、誹謗中傷も受けっていました。何度も辞職を願う表を、宇多法皇・醍醐天皇に出してきたことはこれまでに触れてきた通りです。しかし、この地位は、宇多法皇・醍醐天皇の抜擢の結果であり、辞職を願い出ても、許されるものではなかったのです。

九〇一（昌泰四）年、道真の人生は大きく暗転します。

## 六. 昌泰の変

### 孤立と引退勧告

道真は、儒家としては異例の出世によって妬まれ、誹謗され、また、宇多法皇の側近として醍醐天皇側と対立する存在として捉えられていたようです。もちろん、道真自身が醍醐天皇と対立する意識を持っていたとは考えにくいです。なぜなら道真は、醍醐天皇の立太子・即位に関わり、敦仁親王（醍醐天皇）の春宮亮をも務めていたからです。問題は、宇多法皇が道真をずっと側に置いていたことでしょう。さらには、醍醐天皇の弟・齊世親王と道真の娘が婚姻を結んだことは、宇多法皇側に一層接近する意図が道真にはなかろうとも、醍醐天皇側からすれば、宇多法皇側の立場を取ったということになります。

道真の左遷は、道真自身に問題があったという以上に、宇多法皇の、道真に対する過度の厚遇・信頼が要因の一つに数えられます。

九〇〇（昌泰三）年十月十日、先述の通り、道真は重ねて右近衛大将辞職を請う表を出したが許されませんでした。

そしてその翌日、道真の許に一通の手紙が届きました。差出人は、当時文章博士だった三善清行です。これが「菅右相府に奉る書」（『本朝文粹』卷七、一八七）です。清行は五十四歳で、五ヶ月前に文章博士に任じられたばかりです。

その手紙には、

占いによれば来年（=九〇一年）二月に革命が起こります。貴殿は学者でありながら大臣にまで登られたのですから、災いに巻き込まれないうちに身を引かれてはいかがですか？  
と書かれていました。文体こそ遜っているものの、脅迫とも取れる内容でした。

しかし道真はこの書状を黙殺しました。辞職しようにもできない状況にまで追い込まれていたからですが、何しろ相手が清行でした。しがない下級官吏の家に生まれ、やっとの思いで学者の地位を手に入れた清行は、二歳年上の紀伝道の申し子に対し、羨望と嫉妬の入り交じった視線を向けていたようです。しかし道真は侮蔑と嫌悪の対象としか思っていませんでした。彼を「詩人」の名に値しない、権力者に追従する「通儒」（=博識でも論争に明け暮れるだけの学者）と見なしていたためですが、本当に侮辱する態度を取ったことまでありました。

昨年の重陽宴において出席者が黄菊を詩に詠んだ時、清行は自分の詩の「てきけん そんりよ酈県の村閭は皆富貨／陶家の兒子は垂堂せず」という対句に自信を持っていました。しかしそれを見た道真は何も言わず、紀長谷雄の「廉士は路中に疑ひて拾はず／道家は煙裏に誤ちて焼くべし」の対句を讃めるばかりでした。清行は納得がゆかず、退出する道真を追いかけ、意見を求めました。道真はただ「『富貨』を『潤屋』とした方が・・・」とだけ言い残して立ち去りました（『江談抄』卷四、一一一および紀長谷雄「『延喜以後の詩』序」〈『本朝文粹』卷八、二〇一〉）。自負心を打ち碎かれた清行が、どんな思いでその場に立ち尽くしていたかは想像に難くありません。

そもそも、二十年程前の八八一（元慶五）年に清行が方略試を受験した際、道真は一度不合格にしています。その成績判定文は現存していませんが、道真や菅野惟肖が受験した時のものは『都氏文集』に収められています。合格と結論づけてはいるものの、試験官・都良香は問題点を挙げては容赦なく批判しており、不合格の場合は更に痛烈な内容になったことと思います。

そして、二年後に判定を覆して漸く合格します（『公卿補任』延喜十七年条尻付〈=任官または叙位者の名簿で、人名の後に細字で書かれた前官位、任官叙位の理由となった年給や功勞、履歴等についての注〉）がこの時、大蔵善行から届いた推薦状を道真が書き換えて清行を嘲弄したという一件（『江談抄』）もあります。

ただし『江談抄』の説話は、史実とは取れないでしょう。

## 清行の立場

清行は、宇多朝では阿衡の紛議に際し紀伝道側として、藤原佐世・紀長谷雄と共に勘申（=先例や典故を調べて報告すること）し藤原基経の意を体しました。しかし、基経が薨去すると、ひがのすけ肥後介に任じられます。またこの時、佐世も陸奥守に左遷されました。清行はさらに備中介に任じられ、任期を終え帰洛した時には醍醐朝となっていました。宇多朝の清行は、基経の死後、地方官として過ごしたのです。

阿衡の紛議の時点で、清行が基経とどのような交流を持っていたかは不明です。しかし、基経死後に、阿衡の紛議で基経の意向を忖度したかのような勘申をした二人が地方官に任じられたのは、事件に対する報復人事といえるでしょう。清行自身も自著・『円珍伝』に、「清行もまた備州長吏に左遷された」と記しています。佐世は奥州から帰洛途中に死に、両名とも宇多朝は

不遇のうちに過ごしたのです。

ただ、彼らと共に勘申した長谷雄に関しては、その後、文章博士に任じられ、順調に出世しています。これは、宇多天皇の近臣としての地位を獲得した道真と、親しかったことにあります。

こうした経緯から清行は、宇多法皇、また道真へは<sup>おだ</sup>穏やかでない心情を抱いていたでしょう。

### 「預め革命を論ずる議」

それから清行は、次の行動に出ます。翌月の九〇〇年十一月二十一日、朝廷に「<sup>あらかじ</sup>預め革命を論ずる議」(『本朝文集』卷三十一)を提出しました。「来年(=九〇一年)二月は革命の時ですから、陛下の周囲に異心の者がいないか御注意下さい」というのです。

果たして、清行は反道真派の貴族達と共に鬭していたのでしょうか?道真左遷後もなかなか昇進できなかったところを見ると、利害が一致したところをうまく利用されただけだったかも知れません。清行がいてもいなくても、「役者」と「舞台」は充分過ぎるまでに揃っているのです。

○娘を宇多法皇・<sup>ときよしんのう</sup>齊世親王(醍醐天皇の弟、橘廣相の孫)に嫁がせ、もう一人を後宮女官とした、道真

○妹・穏子を入内させようとする度に班子女王・宇多法皇親子に阻止されていた、時平

○道真の異常な昇進に前々から不満を募らせていた、<sup>みなもとのひかる</sup>源光以下<sup>くぎょう</sup>の公卿達

○政治に介入しようとする父・宇多法皇に反発する、思春期の醍醐天皇

### 道真、大宰權帥に落とされる

さて年が明け、九〇一(昌泰四)年の正月になりました。天命が改まるときの年は、元旦の日食から始まりましたが、七日には例年通り叙位が行われ、時平・道真は揃って從二位を叙されました(『公卿補任』昌泰四年条尻付)。時平は三十一歳、道真は五十七歳です。

しかしわずか十八日後、事態は急展開を見せます。二十五日、嚴戒体制が敷かれる中、「道真を大宰權帥に左遷し、源光を右大臣に任ずる」という宣命が清涼殿において出されました。そこには「低い門地から大臣にまでなったのに身の程を弁えず、廢立を行おうとした」からだと記されていますが、「娘婿の齊世親王を天皇に立てて実権を握ろうとした」という意味だろうと

理解されています。

天皇廢立の罪状については、冤罪えんざいというのが通説です。外記序出仕拒否の顛末てんまつを振り返れば、道真が政権を独占したところで、政局運営は困難を來すに違いありません。法皇に説得を依頼した時、「政務より弟子の指導に当たりたい」と、無責任と批判されかねない発言をしているのですが、周囲の協力が期待できない状況で実権を握るには、公卿全員を更迭する程の辣腕らつわんが必要です。ですから、理論家肌の道真にはそこまでやってのける力量も利点もないだろう、というのが正直なところです。

醍醐天皇が宣命に署名・捺印なつひんした事について、是非を問うのは酷な話でしょう。年齢の離れた道真に比べ、時平は三十歳と若いながらも政務に熟達し、果斷で明るい性格の持ち主でしたから、数え年十七歳の天皇とは相性が良かったことと思います。加えて道真の背後には父親がいます。時平、あるいは他の公卿が疑惑を持ち出したところで、不審を抱いて父親に相談するとは考えられません。

そして何より道真にとって不幸だったのは、政界にも学界にも、法皇以外に異議を唱える人物がいなかった事です。「官吏かんりの半数は菅原家に学んだ」という清行の言葉(『本朝文粹』卷七、一八八「左丞相(=時平)に奉たまつる書」)には誇張も含まれるのでしょうが、道真が一大学閣を率いていたことは事実です。それにもかかわらず、巻き添えを恐れるばかりで、敢然と立ち向かう者は誰一人としていませんでした。学問は飽くまで立身出世の道具であって、命と引き換えにするだけの価値はなかったということです。

## 近臣たちの対立

醍醐天皇・時平と宇多法皇・道真の対立らしき気配は、道真の娘と齊世親王との婚姻(八九八〈昌泰元〉年頃?)、多くの廷臣ていしんを引き連れた吉野宮滝御幸(八九八年冬)、時平の妹・穏子と醍醐天皇の婚姻に対する宇多法皇・班子女王の拒否と、時平による強引な入内(八九九・九〇〇年頃)あたりから仄ほのみ見えます。これが表面に出るのは、右大臣となった道真への誹謗ひぼうが端緒たんしょでしょう。

道真自身が辞表で述べていましたように、この地位の獲得は宇多天皇によります。道真の「不次の(=順序によらない)登用」(『寛平御遺詔』)、さらに譲位後も近臣を集めて遊宴・御幸を

行ったこと、それらが結果として醍醐天皇側と宇多法皇側への分裂・対立を招いたのでしょう。もちろん、宇多法皇自身、あるいは醍醐天皇自身にどれ程の対立感があったかは疑わしいですが、それぞれの近臣たちは別でしょう。

そのトップに位置するのが時平と道真ですが、二人は少なくとも宇多朝までは対立的ではありませんでした。また醍醐天皇の即位時、なごみ 納言として政務を執っていた二人は、共に諸納言の出仕拒否に遭いました。それが醍醐天皇や齊世親王の婚姻、譲位後の宇多法皇と近臣の結びつき（たとえ政治的意図がなくとも）などを経て、徐々に対立感が醸成された結果が、この道真左遷に繋がったのではないでしょうか。

## 宇多法皇、参内できず

道真左遷の知らせを聞いた宇多法皇はそれを止めようと、慌てて宮中に駆け付けますが、  
蔵人頭・藤原菅根らに阻止され、天皇への直談判は叶いませんでした。

ここで、醍醐天皇との面会を阻止した人物として、『江談抄』は菅根の名を挙げますが、  
『扶桑略記』では紀長谷雄となっています。菅根は蔵人頭の立場から法皇と天皇のパイプを完全に遮断し、法皇に近しい長谷雄は直接説得を終日続けたようです。左大臣・時平の圧力があったとは言え、愛弟子とて危急存亡のときを救ってくれるというわけではなかったのです。

## 左遷人事

道真の大宰府左遷が決まった二日後の九〇一（昌泰四）年正月二十七日、関係者の処分が発表されました（『政事要略』卷二十二）が、官途に着いていた息子三人も累を免れませんでした。

○菅原高視は、大学頭兼右少弁から土佐介へ。

○菅原景行は、式部丞（=式部省の三等官）から駿河權介へ。

○菅原兼茂は、蔵人兼石衛門尉から飛驒權掾へ。

ただ、この頃文章得意生であった菅原淳茂は、左遷の除目にみえず、都に残ったようです。

道真の嫡男・高視は、三十五・三十六歳の大学頭で、右少弁も兼任していました。また兼茂は、蔵人を兼ねていました。弁官は太政官の実務行政に携わる多忙な職であり、それだけに充

実していたといえましょうし、兼茂は醍醐天皇の蔵人として天皇の側に仕えていました。これからの官途が望まれた息子たちの将来は、ここで一旦断ち切られたのです。

## 都を発つ

そして同日、左衛門少尉・善友益友、左右兵衛から各一人が、道真を護送する領送使に定められました。前の大宰權帥・藤原吉野の前例に従って、道真には俸給も従者も支給されず、政務に与ることも禁じられました。吉野は、「菅原道真 上」で触れました承和の変で、中納言から大宰權帥へ左遷された人物です。

道真に対しては、山城・摂津国は、食料や駅馬を支給しないように、また路次の諸国もこれに准ぜよとの命が下されました。道真の下向は極めて辛い道のりになりました。

そして二月一日、革命の時とされた月に入り、道真は都を後にします。

『拾遺和歌集』の巻十六・雑春・一〇〇六をみてみましょう。

## [原文]

流され侍りける時、家の梅の花を見侍りて 贈太政大臣  
東風吹かばにほひをこせよ梅の花 主なしとて春を忘るな

## [口語訳]

流された時、家の梅の花を見て 贈太政大臣  
東から春風が吹く時期になれば、香りを（風に乗せて、西の果て九州の地まで）送り寄こしなさい、梅の花よ 主人が居ないからと言って、春を忘れるなよ

## [解説]

ほとんどの方がご存じだと思います。昌泰四（九〇一）年自宅での作です。  
京都を出たのは、二月一日で、太陽暦（グレゴリオ暦）に直せば二月二十七日のことです。  
ここで梅が擬人化されているのは興味深いのですが、人事に関わりなく自然は移り変わり行くもので、同じ光景が違って見えるのは人間の心境によるものです。

しかも、「梅の香りは恋しい人を思い出させるもので、妻への思いを込めた」という解釈もあります。彼には自身の運命を嘆くだけでなく、家族を思いやる余裕がありました。それが自責

の念を一層煽ったのですが。

### 紅梅殿別離のシーン（承久本『北野天神縁起絵巻』）



ところで、承久本『北野天神縁起絵巻』の紅梅殿別離のシーンで、目を左に転じると対屋（=寝殿造りで、主人の起居する寝殿に対して東・西や北に造った別棟の建物。妻や子女が住み、すまわたりの渡殿で寝殿と結ばれる）で嘆き悲しむ女性達の姿が見えます。そのうち几帳の陰に伏しているのが北の方（=正妻・島田宣来子）とされ、夫婦を左右に配置して永遠の別れを暗示しているのです。

### 参考文献

- ・[神戸の空の下で。～街角の歴史発見～ \(goo.ne.jp\)](#)
- ・滝川幸司 著 『菅原道真 学者政治家の栄光と没落』
- ・坂本太郎 著 『人物叢書 菅原道真』
- ・阿部猛 著 『菅原道真 九世紀の政治と社会』
- ・平田耿二 著 『消された政治家 菅原道真』
- ・藤原克己 著 『菅原道真 詩人の運命』
- ・今正秀 著 『敗者の日本史 摂関政治と菅原道真』
- ・波戸岡旭 著 『宮廷詩人菅原道真—『菅家文草』『菅家後集』の世界』
- ・谷口孝介 著 『菅原道真の詩と学問』

- ・滝川幸司 著 『菅原道真論』
- ・川口久雄 校注 『日本古典文学大系 7 2 菅家文草・菅家後集』
- ・小島憲之・山本登朗 著 『日本漢詩人選集 1 菅原道真』
- ・文草の会 著 『菅家文草注釈 文章篇 第二冊 卷七上、下』
- ・柿村重松 訳 『本朝文粹註釈（新修版） 上下』
- ・大曾根章介・金原理・後藤昭雄 校注 『新日本古典文学大系 2 7 本朝文粹』
- ・内外書籍株式会社 編 『群書類従：新校』
- ・世界史べーた（仮） - YouTube
- ・所功 著 『菅原道真の実像』
- ・森公章 著 『天神様の正体：菅原道真の生涯』
- ・坂本太郎博士古稀記念会 編 『続日本古代史論集 下巻』
- ・和漢比較文学会 編 『菅原道真論集』
- ・瀧浪貞子 著、永原慶二・児玉幸多・林屋辰三郎 編 『平安建都 集英社版 日本の歴史 5』
- ・弥永貞三 著 『日本古代の政治と史料』
- ・古藤真平 著 『宇多天皇の日記を読む 天皇自身が記した皇位継承と政争（日記で読む日本史 3）』
- ・笹山晴生先生還暦記念会 編 『日本律令制論集〈下巻〉』
- ・渡辺直彦 著 『日本古代官位制度の基礎的研究 増訂版』
- ・所功 著 『人物叢書 三善清行』
- ・Wikipedia
- ・コトバンク [ 辞書・百科事典・各種データベースを一度に検索 ] (kotobank.jp)
- ・◆山陰亭◆ ~菅原道真で遊ぼう！~ ([michiza.net](http://michiza.net))
- ・辞典・百科事典の検索サービス - Weblio 辞書
- ・小島憲之・新井栄蔵 著 『新日本古典文学大系 5 古今和歌集』
- ・Yahoo!知恵袋 - みんなの知恵共有サービス
- ・歴史じっくり紀行 - YouTube
- ・Yahoo!知恵袋 - みんなの知恵共有サービス

# 安直戦争に関する考察

79回生 主藤慧悟

## 1、安直戦争とはなにか？

安直戦争とは1920年に発生した中国における内戦である、直皖戦争ともいう。北洋軍閥内の段祺瑞を中心とする安徽派と曹錕、呉佩孚の指導する直隸派との戦争。

## 2、安直戦争の以前の情勢

### ○中国の当時の政治体制について

当時の中国は大統領とその属する總統府、それに次ぐ権限を持つ国務総理とその属する国務院というような勢力間での対立が起きやすい構造であった。また大統領の選出などを行う議会もそのような対立に關係し、重要な役割を果たした。

### I 府院の争い

袁世凱の死後彼がトップであった北洋軍閥の中では不安定な情勢が続いていた。北洋軍閥はいくつかの軍閥に分かれ互いに対立するようになる。各軍閥間の妥協により黎元洪を大統領とすることに決まったが、国務総理で安徽派のトップの段祺瑞は次第に黎元洪と対立するようになる。この二人の間における対立が府院の争いである。対立を表す事例の一つとして約法問題と呼ばれる問題があった。それは、孫文の起草した約法と袁世凱の起草した約法どちらを正式な憲法にするかというものである。孫文の起草した旧法を支持していた南方の軍閥の取り込みのために黎は旧法を取り入れようとしたが段は強硬にそれに反対し袁世凱起草の新法を用いることを訴えた。段と同じく袁世凱の直属の部下であった副總統の馮国璋の説得などもあり結局、段は旧法に同意したものの二人の間の溝は深まった。また二人は第一次世界大戦の参戦に関しても対立する。段は参戦することによって義和團事件の賠償や関税に関する欧米及び日本からの譲歩や、彼らからの金銭的支援による国内の立て直しや軍隊の整備を考えていた。しかし、参戦については商人や知識人階層及び馮などの反対も強く、すぐに実行に移すことは難しかった。そこで段は彼らに圧力をかけるために暴徒を集めた。それにより中国の対独断交には成功したが、その行動を危険視した黎により段は罷免された。

### II 張勲復辟

このように政界を追われた段は虎視眈々と権力への復帰を狙っていた。実際多くの州は段の罷免に反対した。そのような混乱した状況下で張勲はクーデターを決行した。熱心な帝政の支持者であった張は北京を占領したのち清の最後の皇帝である溥儀を復位させ、清を再建した。黎は北京を追われ、国内はますます混乱した。馮及び段は彼らに従う兵を集め張勲に占領された北京の攻略により混乱に終止符を打った。この事件により黎は自身の無力を呈した。黎は辞職し黎の後任には馮がつくこととなった。しかし、実権は国務総理として段が握ることとなつた。こうして彼は権力への復帰をはたしたのである。

### III 直隸派と安徽派との対立（最終ページに勢力地域の地図を記載）

権力を握った段が最初にしたことは第一次世界大戦参戦であった。これにより日本の寺内閣から軍隊の組織のための武器援助及び西原借款と呼ばれる膨大な援助を取り付けた。援助の表向きの理由は参戦援助であったが欧米に先駆けて中国での基盤を確立するという日本の思惑も多分に含まれていた。これにより日本と安徽派軍閥との関係は強まることとなった。参戦後一か月と立たず段には新たに対応すべき事案が発生した。広州で非常国会が召集され孫文が大元帥に就任し、広東政府が樹立したことである。これに対し、段は兵を差し向かた。ただ、それらの兵を率いていた曹錕及び呉佩孚は戦うことに反対しており馮に対し戦争をやめるよう進言した。彼らの行動は直隸省（現在の河北省の一部）、江西省、江蘇省、湖北省により支持された。こうしてこれらの省を基盤とする直隸派が生まれた。また多くの民衆も戦争に反対した。その結果段は辞任に追い込まれた。

結果として一転して馮が権力を握ることになった。彼は広東政府との戦争の停止を宣言した。しかし、段は翌年の選挙においてわいろなどの手段により安徽派よりの議会を作ることに成功し、それにより政権を奪還した。このように直隸派及び安徽派は対立を続けていたが、直隸派であった曹錕が段を支持していたようにいまだ決定的な対立には至っていなかった。しかし、この状況を大幅に変える出来事が起きてしまう。その出来事とは段の右腕であった徐樹錚による陸建章の暗殺である。彼は高齢だったため軍隊を退職していたが、直隸派の人々に慕われていたベテランだった。これにより段が属する安徽派は曹錕を含む直隸派と激しく対立するようになる。

#### 4 当時の日中関係に関して

彼は1918年に日本との間に日華共同防敵軍事協定を結んだ。これは当時台頭していたソビエトへの脅威の対処を目的としたものであったが、その条項の中には第1条で「日支両国陸軍ハ敵国勢力ノ日ニ露国境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東 全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危険アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適応シ且両 国カ此ノ次ノ戦争参加ノ義務ヲ実行セムカ為共同防敵ノ行動ヲ執ル」とし、第3条で iC 前略〉軍事行動区域内ニ於ケル支配地方官吏ハ該区域内ニ在ル日本 軍隊ニ對シ尽力協力(略)J し、また第7条で「作戦上必要ノ建設例へハ軍用鉄道電信電話等ノ如キコトニ關シ如何ニ設備スヘキヤハ両国總司令官ニ於テ臨時 之ヲ協定」（小松氏の論文より）といったように日本軍の国内駐兵及び中国国内での軍事的な行動の権利が含まれており、日本側が中国の軍事的警察的支配を視野に入れていたことを意味している。加えて、さらに翌年のヴェルサイユ講和会議において日本の山東省での権益が認められると、対華二十一ヶ条の要求への反発も相まって中国国内において五四運動を発端とした抗日運動が盛んになった。これにより親日的であった段や安徽派は人気を失い、民意を反映する形で親日派と目されていた自派の閣僚をやめさせざるを得なくなった。段は民衆からの反対及び直隸派との対立という二つの問題に苦しむようになる。段は逆転のために直隸派に対しての戦争を宣言した。また、彼は当時の大総統に掛け合って曹錕及び呉佩孚の二人のトップの軍からの解任を認めさせた。これにより安直戦争と呼ばれる戦争が始まった。

## 5、安直戦争

安徽派の軍隊や辺防軍（参戦軍より改称）は恐れられていたが、直隸派の軍隊及び直隸派に協力した奉天派はそれ以上に強く、五日の内にそれらの軍隊を壊滅させた。

## 6、戦争の影響

戦争により安徽派の段は政権を追われ直隸派が政権を取ることになった。日本寄りだった安徽派と対照的にアメリカ、イギリス寄りだった直隸派が政権を取ることになった。これは日本にとっては

あまり良い状況とは言えなかった。また、その後の直隸派の強権的な態度は協力して戦った奉天派との対立を招いた。これは日本と奉天派との関係を強め結果的に奉直戦争の遠因ともなった。

## 参考文献

ブリタニカ国際大百科事典 安直戦争

一九二〇年安直戦争をめぐる日中関係の一考察

第一次大戦期寺内内閣の外交及び軍事＝経済政策

Rebellions and Revolutions: China from the 1800s to 2000

日華共同防敵協定はなぜ終結したのか



緑が直隸派、黄色が安徽派、赤が広東政府

# 世界の移動を「中継する」ハブ空港

79回生 重永 真拓

## 0.はじめに

突然ですが、「ハブ空港」というものをご存じですか？危ない蛇がたくさん住み着いている空港・・・ではなく、ここでいう「ハブ」というのは電車などの車輪の中心部のことであり、「ハブ空港」というのは各地からの航空路線が集中し、乗客や貨物を目的地となるほかの空港に中継する機能を備えた空港のこと（以後、定義1）です。また、航空会社が航空機の運用をするときに中心として位置づけた空港（以後、定義2）をハブ空港と呼ぶ場合もあります。定義1の方が一般的のため今回書くハブ空港に関しては、主に定義1を用います。ちなみに、「ハブ空港」という概念は、国内線より、国際線のほうで重要視されるものです。

ハブ空港には重要な点が2つあります。1つめは、1つの便で移動できる空港の数が多いことです。2つめは、便と便の乗り継ぎが短時間でできること、つまり貨物や乗客が様々な場所に効率的に移動することができるという点です。利用する乗客や貨物の数が多いことは、空港がハブ空港といえる直接の要因にはなりません。

また、「ハブ空港」という仕組みは1980年代にアメリカで航空会社によって使われ始めました。ではどのような経緯で使われ始めたかを次の章で見ていきましょう。

## 1.アメリカでの航空の歴史（1930年代～1980年代頃）

第二次世界大戦前後のアメリカでは、USCAB（米国民間航空委員会）の決定により、国際線を運行できる航空会社が限られていました。また、アメリカの国内民間航空政策は、航空産業の新規参入は比較的容易であるものの、安全や機材に対する多額の投資が必要なこと、ある種公益事業であることなどを背景に、運賃や路線などに規制が設けられていました。

USCABによって、ほとんどの新規参入が禁止され、重要路線では強力に競争するのではなく2～3社の稳健な競争が展開されるように規制されていました。

しかし、1970年代に入り、ボーイング7473（ジャンボ機）などの大型機の登場とともに空の大量輸送・大衆化時代に突入し、航空機への利用者の意識が身近になると、次第に航空運賃への不満が高まっていきました。（当時運賃は航空会社やUSCABが一方的に決めていました。）1970年代初め、USCABによる規制の撤廃と競争の圧力がかかり、1975年までに料金の値下げ、規制緩和が行われました。この航空規制緩和政策が導入された大きな理由は、自国経済の再活性化と財政再建でした。そして、1978年に航空企業規制緩和法が成立しました。

これによって規制緩和がたくさん行われ、最初の対象となったのが航空路線の参入規制です。当時のアメリカではたくさんの航空会社がありましたが、その運航権は次の3つに分かれていきました。

1：ある州内だけを運行する権利

2：州と州をまたいで運行する権利

3：アメリカ国内と海外を行き来するという権利

しかし、航空企業規制廃止法により、1981年には参入規制の撤廃が実現し、1982年には運賃の政府許可も必要なくなりました。その後も国際航空企業の国内線参入許可などの規制緩和を積み重ね、1985年には商業的な航空を規制するUSCABが廃止され、完全な航空自由化が実現しました。

航空自由化により何が起こったかというと、航空会社同士の競争です。そこで航空会社が目をつけたのが「ハブ・アンド・スポークシステム（HSS）」です。HSSとは、各方面からの旅客を主要空港にいったん集め、次の飛行機に乗り換えさせて、最終目的地の支線空港に運ぶというシステムです。このシステムによって旅客を効率よく、低コストで運ぶことができます。各航空会社はHSSを利用するため、主要空港を定めました。これがまさに定義2のハブ空港であり、またこれがさらに定義1のハブ空港につながっていくのです。

HSSは世界中に広まっていき、それにともなってハブ空港の考え方も広まっていきました。では、次の章ではハブ空港としての機能が高い空港のランキングを見ていきましょう。

## 2.OMG Megahubs Index

OAGという旅行に関する様々なデータを提供しているプラットフォームでは、ほぼ毎年、「OMG Megahubs Index」という、世界中の国際空港のうちハブ空港としての機能が高い空港を調べてランキングにしたもののが発表されています。図1がその2023年度版のデータです。では、このデータからいくつかを見ていきましょう。

順位	図1					順位					
1	ロンドン・ヒースロー空港		イギリス			11	スワンナプーム国際空港			タイ	
2	ジョン・F・ケネディ国際空港		アメリカ			12	トロント・ピアソン国際空港			カナダ	
3	アムステルダム・スキポール国際空港		オランダ			13	シンガポール・チャンギ国際空港			シンガポール	
4	クアラルンプール国際空港		マレーシア			14	ハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港		アメリカ		
5	羽田国際空港		日本			15	ニノイ・アキノ国際空港			フィリピン	
6	フランクフルト国際空港		ドイツ			16	ドバイ国際空港			アラブ首長国連邦	
7	イスタンブール国際空港		トルコ			17	ニューアーク・リバティー国際空港			アメリカ	
8	仁川国際空港		韓国			18	メキシコシティ国際空港			メキシコ	
9	シャルル・ド・ゴール国際空港		フランス			19	スカルノ・ハッタ国際空港			インドネシア	
10	シカゴ・オヘア国際空港		アメリカ			20	ロサンゼルス国際空港			アメリカ	

### (1) アメリカの空港

このデータを見てみると、20位以内にアメリカの空港が5つもあります。これはさすがアメリカといったところですが次の図2を見てください。

順位	図2					順位					
1	ハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港		アメリカ			11	ジョン・F・ケネディ国際空港			アメリカ	
2	ダラス・フォートワース国際空港		アメリカ			12	ハリード国際空港			アメリカ	
3	デンバー国際空港		アメリカ			13	アムステルダム・スキポール国際空港			オランダ	
4	シカゴ・オヘア国際空港		アメリカ			14	マイアミ国際空港			アメリカ	
5	ドバイ国際空港		ドバイ			15	アドルフォ・スアレス・マドリード=バラバス空港			スペイン	
6	ロサンゼルス国際空港		アメリカ			16	羽田国際空港			日本	
7	イスタンブール国際空港		トルコ			17	オーランド国際空港			アメリカ	
8	ロンドン・ヒースロー空港		イギリス			18	フランクフルト国際空港			ドイツ	
9	インディアナポリス国際空港		インディアナ			19	シャーロット・ダグラス空港			アメリカ	
10	シャルル・ド・ゴール国際空港		フランス			20	メキシコシティ国際空港			メキシコ	

これは国際空港議会が発表した、2022年に旅客数が多かった空港のランキングです。このランキングを見ると、上位20空港のうち、10個もアメリカの空港です。この違いは何でしょうか？

これは僕の考えですが、これはアメリカの主な交通手段に原因があるのではないかでしょうか。アメリカは国土がとても広いです。それによって短距離の移動は車か、長距離の移動は飛行機が主流であり、鉄道はそれらに比べるとほとんど使われません。アメリカ、日本、イギリス、イタリア、ドイツの各国における国内輸送量の割合や、主要航空会社の定期輸送量を示したデータ（「主要5カ国における国別の主要交通統計」より。データの平等性を考えて2010年ではなく2009年のデータを元に書いています。このデータはこの記事には載せていません。これ以上なれないexcelを使っていると、筆者が過労死してしまうからです。）を見てみると次の二つのことがわかります。1つ目は、国内輸送における航空機の割合がイギリスやイタリアやドイツは約1%、日本でも約5.5%なのに対し、アメリカは11.5%もあることです。2つ目は、他の4つの国では国際線の輸送量が国内線の輸送量より多く、2倍以上の国もありますが、アメリカでは国内線の方が多いことです。

これらから、アメリカでは航空機を利用した国内の移動がとても盛んであることがわかります。そのことを考えると、どれだけたくさんの都市の空港とどれだけ便利につながっているかが基準の図1の方が、単純な旅客数が基準の図2よりアメリカが不利になるのはある意味自然といえます。

#### **(2) ロンドン・ヒースロー空港**

図1では1位、図2では8位のロンドン・ヒースロー空港があるイギリスでは、新型コロナウイルスにより厳しい渡航制限が敷かれ、一時期は欧州最悪といえるほどの航空業績の落ち込みも起きましたが、制限が撤廃されてからはヒースロー空港の旅客数は世界最高レベルの増加をしています。（参考：2021年の旅客数のランキングではヒースロー空港は54位）

#### **(3) 羽田国際空港**

羽田国際空港は、ハブ空港としての機能のランキング（図1）では、2019年のデータでは22位でしたが、そこから大きく上がって5位となりました。ハブ空港としての地位は上がっているようです。また、図2のデータにおいては、2019年までは10位以内をとっていたものの、新型コロナウイルスの影響か2021年では32位と大きく順位を落としてしまいました。ただし、その影響が薄ってきた2022年の順位は大きく上げて16位となり、まだ出ていない2023年のデータが見物です。

#### **(4) クアラルンプール国際空港**

図1で4位（2019年のデータでは12位）のクアラルンプール国際空港があるマレーシアは、1980年は原油や天然ゴムや木材が主な輸出品であったのが、ルックイーストという日本や韓国をモデルにした政策を掲げて1980年代に急速に工業力をつけてきた国です。輸出加工区外国企業を誘致し、半導体をはじめとする電気・電子産業を成長させています。その結果、現在では輸出品の半分近くは機械類となっていて、今も着実に経済成長を続けています。

(2024年GDP35位)マレーシアの首都であるクアラルンプールの写真を調べてもらったらわかりますが、高層ビルが建ち並ぶ近未来感あふれる都市で、何かすごいです。

## (5) アムステルダム・スキポール空港

図1で3位のアムステルダム・スキポール空港があるオランダは、16世紀からポルトガル船がアジアからもたらした絹や香辛料などをフランスやバルト海沿岸に運ぶ中継貿易を行いました。その後、インドや東南アジアや日本への交易に直接行くようになり、イギリスなどと貿易の覇権争いをしました。その頃になるとインドや東南アジアや日本との交易品を、ヨーロッパ各地と貿易する中継貿易によってもうけるようになりました。このような歴史があるからなのか、オランダにはヨーロッパ最大の港であるユーロポートがあるとともに、世界最大級の、たくさんの人や物を「中継」するハブ空港であるアムステルダム・スキポール空港も現在ではあります。

### 3. 終わりに

ハブ空港とそれがある国について書きたいことを行き当たりばったりに書いていきました。今回の記事の内容を少しでも面白いと思ってもらえたならば僕は嬉しいです。拙い文章でしたが最後まで読んでくださりありがとうございました。

参考・引用 OAG. 「Megahubs 2023 Most Connected Airports in the World」 .OAG

<https://www.oag.com/megahub-airports-2023>(最終閲覧:2024-3-14)

ACI. 「ACI World confirms top 20 busiest airports worldwide」 .ACI

<https://aci.aero/2023/07/19/aci-world-confirms-top-20-busiest-airports-worldwide/>(最終閲覧:2024-3-14)

Wikiprdia. 「世界最多旅客数の空港一覧」 .Wikipedia

[世界最多旅客数の空港一覧 - Wikipedia](#)(最終閲覧:2024-3-14)

Wikipedia. 「ハブ空港」 .Wikipedia

[ハブ空港 - Wikipedia](#)(最終閲覧:2024-3-14)

国土交通省. 「主要5カ国における国別的主要交通統計」 .国土交通省

(最終閲覧:2024-3-14)

「図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2022」 .帝国書院

西嶋啓一郎(2021). 「21世紀の旅客航空運輸産業」 .セルバ出版

ANNnewsCH. 「英航空業界スタッフら デモで渡航制限緩和など訴え.」 .Youtube

<https://www.youtube.com/watch?v=s140TcBtCI4>(最終閲覧:2024-3-14)

# 佐世保鎮守府の設置と発展

77回生 羽根田達英

## 0. はじめに

佐世保市は、長崎県北部に位置する都市で、2022年度の人口は約25万5000人、県内では長崎市に次いで2番目、九州全体でも9番目に人口の多い都市となっている。しかしこの佐世保という都市は、明治初期までは人口数千人の村落に過ぎなかった。明治22年に海軍の鎮守府が設置されて以降、佐世保は軍港都市として急速に発展していった。第二次世界大戦後は平和産業都市として造船業などを中心にさらなる発展を遂げた佐世保市であるが、今日でも自衛隊やアメリカ軍の基地が設置されており、軍港都市としての側面を保持し続けている。

ここでは、佐世保が海軍の鎮守府として指定された経緯や、その後の佐世保鎮守府および佐世保市街地の発展について、明治期を中心として詳しく見ていく。

## 1. 鎮守府設置までの経緯

1883年8月、佐世保湾に軍艦が初めて訪れた。艦名は第二丁卯である。艦長は後に日露戦争の日本海海戦で英雄となった東郷平八郎少佐で、この軍艦には、通常の乗組員の他に測量班が乗船していた。彼らの目的は、新たに設置される予定の西海鎮守府の場所として、佐世保が適切であるかを調べることであった。

鎮守府とは、所管区域の防衛と警備をつかさどった海軍の官庁のことである。これは元々フランス海軍の制度であり、1880年代後半まで日本海軍がフランス海軍を模範として指導を受けていた中で採用された。日本での鎮守府の起源は、1871年に制度上設置された海軍提督府にさかのぼる。

設置当初、海軍提督府は「要港ヲ撰ヒ府トナシ沿海管下湾港ノ兵備ヲ分轄ス」と定められていた。その具体的な設置場所については、様々な検討が行われたが、1875年10月、糸余曲折を経て第一提督府が横須賀に設置されることが上申されて認可された。その前年1874年には、勝海舟海軍卿と川村海軍少輔によって、鹿児島に提督府を、対馬に分提督府を設置する構想が上申されていた。

横須賀は江戸幕府の頃より軍港として開発されており、当時の海軍の造船の拠点であった。また、鹿児島は旧薩摩藩によって造船設備が整備されていた。これらのことから、提督府の設置にあたっては、当初、軍艦を建造・整備するための設備が整っているかどうかが重視されたよ

うだ。

1875年12月、提督府が鎮守府に改名されると共に、東海鎮守府と西海鎮守府の2つの鎮守府を設置する計画が上申された。この計画では、東海鎮守府は横須賀に、西海鎮守府は長崎に設置される予定だった。1874年の鹿児島に提督府を設置する構想から位置が変更された理由としては、1874年の台湾出兵で出兵の後方拠点として長崎が利用されたこと、江戸幕府時代に海軍の士官養成のための教育が行われており造船設備も備わっていたこと、背後には豊富な石炭を抱えた北九州の炭田があり燃料の補給が便利であったこと、東シナ海に面しており中国・台湾・朝鮮との往来がしやすかったことなどが考えられる。

この計画に基づき、東海鎮守府は1876年に横浜に仮設置され、その後横須賀に移転された。一方、西海鎮守府は、そもそも設置場所が決まらず、仮設置すらもされない状況が続いた。艦艇についても、海軍省は発足当初より軍艦建造計画を提出していたが、財政事情がこれを許さず、採用されないという状況が続いていた。

しかし1883年、前年に朝鮮半島で壬午事変が発生して日清両国が出兵したことを受け、海軍省が提出した軍艦建造計画の予算が初めて認められた。こうして海軍の拡張が開始されたが、これにより、軍港や鎮守府を増設する必要が出てきた。先ほど述べた、軍艦第二丁卯が佐世保を訪れて調査したのはこの時期である。1884年には、後に佐世保とともに鎮守府が設置される広島県呉港の実況検分も行われた。

そして1886年、海軍条例と鎮守府官制が成立した。これにより、日本近海を5つの海軍区に分け、各海軍区に鎮守府を置くことが決定された。これは、フランスの五鎮守府制に倣ったものであった。これを受けて同年5月、勅令により呉と佐世保に鎮守府が設置されることが決定された。

佐世保が選定された理由について、「佐世保市史 軍港史編（上巻）」は、伊藤博文編「兵制関係資料」の中にある「鎮守府設置ノ理由及目的」（「秘書類編」十所収）より、

「佐世保鎮守府ハ最モ枢要ノ位置ニシテ直チニ各隣邦ニ面シ、沖縄・壱岐・対馬及五島等ノ遠隔地ヲ管轄スルヲ以テ、支那及歐州諸國ト事ヲ生ズルハ必ズ此方面ニ在ルコトヲ断言シ得ベシ。故ニ該鎮守府ニ在テハ專ラ出師準備ノ規模ヲ大ニシ造船業ノ如キハ呉長崎ニ製造所アルヲ以テ左ノミ之ヲ拡大セザルモ可ナルベシ。若シ夫レ位置の撰定ニ至テハ九州ノ全土港湾固ヨリ多シト雖ドモ、佐世保ヲ措テ他ニ軍港ニ適スルノ地アルヲ認メズ。是レ佐世保ニ鎮守府ヲ設置スル所以ナリ。」

と引用し、これを「最も確かな資料」と評している。これによれば、外敵と衝突する可能性が高い東シナ海に面していることが佐世保への鎮守府設置の重要な理由であったと考えられる。こ

の他にも、複数方向を陸地に囲まれていて防衛しやすいこと、またこれにより波が静かであること、水深は深く広さも十分であること、さらには先に述べた通り、北九州には炭田があり燃料の供給が便利であることなども軍港として有利な条件であっただろう。

このように、佐世保への鎮守府設置は、紆余曲折の末に決定された。次項では、鎮守府設置後の佐世保の発展を詳しく見ていく。

## 2. 軍港としての発展

佐世保への鎮守府設置が決まってからおよそ 7 か月後の 1887 年 1 月、軍港の建設が開始された。建設に際しては、爆薬による発破作業などの危険な作業が急ピッチで行われたため、同年 12 月までに 80 名を超える殉職者がいた。1889 年 7 月、工事未了のまま佐世保鎮守府は開庁した。翌 1890 年 4 月 26 日、開庁式が挙行され、明治天皇も臨席した。

開庁当初の佐世保鎮守府に配備された艦艇は、木船 5 隻(「海門」、「日進」、「春日」、「磐城」、「満珠」)と鉄船 1 隻(「鳥海」)に過ぎず、第一線級の艦艇は配備されていなかった。また、前述した通り、鎮守府設置以前の佐世保は人口 4000 人程度の村落に過ぎず、鉄道や道路の整備は不十分だった。このため佐世保では、これ以降も海軍関連施設の拡充が続くと共に、市街地の整備も進められていくこととなる。この項では海軍関連施設について詳しく見ていくと思う。

鎮守府開庁と同時に、鎮守府の下には造船部、兵器部、主計部、建築部の 4 部が設置された。しかし、1890 年に第一回帝国議会が開かれ、民党が軍備拡張よりも民力休養を主張したことにより海軍の予算は削減され、佐世保での海軍関連施設の建設も進まなかつた。重要な設備であるドックについても、ようやく第一船渠が 1893 年に着工したばかりという有様だった。なお同時に開庁したはずの呉では、1891 年には既に第一船渠が完成していた。

この状況を一変させたのが日清戦争である。1894 年、日清戦争を控えた海軍の艦艇が佐世保に集結し出撃した。日清戦争で日本海軍の策源地となった佐世保であったが、先ほど述べたような事情で艦艇造修設備が不十分であったため、これらを拡張する必要が生じた。設備の不足を補うため、神戸小野浜造船所から浮き船渠(ドック)を取り寄せることが行われた。あわせて工員の募集も行われたが集まらず、神戸の小野浜造船所や横須賀鎮守府造船部から 260 名の工員らを転入させた。それでも佐世保では様々な設備等が不足していたため、日清戦争の損傷艦は主に呉で修理されていた。

1895 年 4 月に日清戦争は日本の勝利のうちに終結したが、直後の三国干渉により日本は遼東半島を手放した。日清戦争への勝利とロシアの脅威の増大を契機に、海軍の艦隊は増強されていくこととなった。1896 年からは 10 年をかけ戦艦 6 隻、装甲巡洋艦 6 隻が建造されていくこと

となり、佐世保には戦艦 3 隻(富士、敷島、初瀬)と装甲巡洋艦 4 隻(八雲、吾妻、磐手、出雲)を中心とする艦隊が配備されることとなった。

これに合わせて、佐世保の海軍関連設備の建設は一挙に促進され、その造修能力が高められていった。1895 年 12 月には建設されていた第一船渠がようやく開渠した(ただし、防水扉などに亀裂を生じており、水漏れのために 1901 年に補修工事が完了するまで使用できなかった)。1896 年には佐世保鎮守府造船部として建造した初の艦艇として、小型の蒸気船(12 トン)2 隻を竣工させた。1897 年 5 月には第一船台が着工、9 月には第一、第二の 2 つの水雷艇船台が完成した。1897 年 10 月、佐世保鎮守府造船部は佐世保海軍造船廠に改編され、従来の武庫(武器庫)、水雷庫、兵器工場を統合して兵器部が設置された。

1898 年、佐世保初の大型船として、第五震天丸(320 トン)の建造が開始された。1899 年には、原図場、木工場、亜鉛メッキ工場が完成した。1900 年 5 月、海軍省に艦政本部が設立されると、同時に各鎮守府には艦政部が設立され、佐世保鎮守府兵器部は佐世保海軍兵器廠に改編された上、造船廠と共に艦政部に属することとなった。1902 年には、第二船台が完成した。

この頃の佐世保では海外で建造された水雷艇の組み立てによって技術の導入が目指された。イギリスやドイツで建造された水雷艇の組み立てと、その経験を元にして開発された水雷艇の建造が行われ、計 15 隻が竣工した。

1903 年 8 月頃より、日露戦争を控えて常備艦隊は佐世保を拠点に訓練を行った。日露戦争を前にした 1903 年 9 月の佐世保鎮守府の状態について、「佐世保市史 軍港史編(上巻)」は、佐世保鎮守府司令長官鮫島員規中将の上奏文を引用している。これには、ドックの建築は進んでいくが不完全で、不足分を民間の造船所から徵發する応急策を講じること、兵器廠の規模が小さく設備が完全でないことが記されている。同年 11 月には、鎮守府艦政部が廃止され、造船廠と兵器廠が統合され、海軍工廠となった。これにより、倉庫や庁舎といった同一目的の施設や業務を統合して合理化が図られた。

同 11 月 18 日、戦艦「八島」が第一船渠に入渠し、佐世保で入渠した最初の戦艦となった。出撃に備えて艦底の塗り替えを必要とする艦艇が多く、佐世保だけではドックが不足したため、三菱の長崎造船所や広島の呉でも作業が行われた。12 月 28 日、常備艦隊は第一、第二、第三の 3 つの艦隊に分割され、さらに第一、第二艦隊によって連合艦隊が編成された。

1904 年 2 月 5 日、連合艦隊は多数の市民に見送られて佐世保を出撃した。同年 8 月には蔚山沖海戦が、1905 年 5 月には日本海海戦があったが、佐世保では海戦に参加して損傷した艦艇に対する修理が行われた。一方、造船活動も行われており、1905 年 3 月には佐世保海軍工廠で初め

てとなる駆逐艦が起工され、年末までに計4隻が起工された。このように戦時下にあって佐世保海軍工廠では忙しく造修作業が行われており、職工の需要が増加していた。民間の造船所でも状況は同じであったため、海軍工廠は新聞などで職工の募集に努めた。また、人員不足を補うため、女工の雇用も行われた。

ポーツマス条約で日露戦争が終結してからは、戦利艦に対する整備・改修工事も行われた。ロシア海軍の防護巡洋艦「ヴァリャーグ」が二等巡洋艦「宗谷」に、巡洋艦「パルラーダ」が二等巡洋艦「津軽」に、戦艦「レトヴィザン」が戦艦「肥前」に、戦艦「インペラトル・ニコライ1世」が一等海防艦「壱岐」にそれぞれ改造修理された。なお、1905年9月には停泊中に火薬庫が爆発して連合艦隊旗艦の「三笠」が爆沈する事件が起きている（「三笠」は翌1906年8月に引き上げられた）。造船活動としては、1905年11月に、佐世保で初めてとなる軍艦の建造として、二等巡洋艦「利根」が起工された。

設備面でもさらなる充実が図られ、庁舎や工場の増新築や、日露戦争中に起工された第四、第五、第六船渠の建設が進められた。さらに、湾上の2つの島（大蛇島、小蛇島）とその東側の岬を全て岸壁につくりかえ、艦船の繫留場とする大工事も行われた。

### 3. 市街地の整備と発展

佐世保への鎮守府設置が決まってから数か月後の1886年12月、長崎県は、佐世保村がある東彼杵郡（ひがしそのぎぐん）から提出された建設設計画を元に、佐世保市街地の建設に着手した。計画では、道路が碁盤の目状に交わる近代的な都市を建設することが目指されていた。「佐世保とキール 海軍の記憶」は、1887年の「佐世保市街地家屋建設規則」より

「住家其他の建物の屋根は瓦若くは金属を以て葺く」

「石造煉瓦又は塗屋にあらされは其建築を許さず」

を引用し、「鎮守府のある街にふさわしい、風格のある街並みの建設が意図されていたのである」と推測している。しかし、都市の建設の費用は、原則佐世保村の村費から支出されており、その実質的な負担者は村民や地主であった。彼らが負担額の軽減を求めて県に嘆願したため、翌年にこの2つの条文は削除された。

費用面の問題などから計画が繰り返しスケールダウンされ変更されていったことと、佐世保周辺は湿地が広がっていたことから、市街地の工事は計画よりも遅れがちであった。それでも鎮守府開庁から3年後の1892年には、人口は10000人を超え、設置決定以前の倍以上に増加していた。この頃、敷地内に小売店舗を集めた「勧商場」と呼ばれる商業施設も誕生しており、市街地の人口の増加に合わせ商業が発達していったことがわかる。

日清戦争で海軍の拠点となった佐世保では、多くの物資や労働者が集まつた。これにより1895

年の人口は 17000 人を超えた。さらに、日清戦争後、佐世保の海軍関連施設が発展していくにつれて、その工員数も大幅に増加した。加えて、重要な軍事拠点となった佐世保では、陸軍の部隊の駐屯も始まった。人口は、1897 年には 20000 人を超えたが、その後も増加し続け、1899 年には 33000 人、1901 年には 48000 人にまで増加した。街の賑わいは増し、市街地は急激に発展していった。

当然ながら人口の増加と共に商業もさらに発達した。「佐世保とキール 海軍の記憶」は、1896 年に刊行された「佐世保繁昌記」より中心街の様子について

「千商此に集い、百貨此に湊り、往来の軍人は絶ゆる時無く、奔走の衆庶は断る節無し」と引用し、「誇張されているであろうが新興都市——當時佐世保はまだ「村」であった——の喧騒を十分感じ取ることはできよう」と述べている。またこの頃には、市内には飲食店が集中する繁華街や、遊郭街も形成されていた。

このような市街地の発展と人口増加に合わせ、交通も発達していった。1898 年には、九州鉄道佐世保線が開通し、佐世保駅が開業した(それまでは、人力車などで九州鉄道の近くの駅まで移動する必要があった)。また、1900 年代までには、計画されていたような整然とした碁盤の目状の道路が整備された。

こうした市街地の急速な発展により、佐世保村では町制を飛び越し、市制を施行しようという意見が現れた。しかし、佐世保村の中心地域が急速に発展しているのに対し、周辺地域は開発が進んでおらず、市制施行について利害が一致しなかった。最終的には、1902 年に、中心部は佐世保市として市に昇格し、周辺部は佐世村として分離されることとなった。

この時期には、各種社会基盤の整備も行われた。ここでは主に、水道、電気、ガス、通信の 4 種類について見ていこうと思う。

水道は当初、艦艇の飲料水を供給する目的で海軍向けにのみ整備されており、市内の給水源は井戸に頼っていた。しかし 1902 年に市内でコレラの流行が発生したことを受け、翌年より佐世保市直営で、海軍の水道水の販売が開始された。海軍にとっても、兵員が上陸し休息する市街地でコレラが流行したことは重大な問題であったためだ。

1905 年には、海軍の水道から分水する許可を得て市内に水道管が敷設された。しかし、当初これは飲料水のみに使用され、それ以外の用途では依然として井戸水を使用していた。この頃海軍では、市街地北部に貯水池と浄水場を建設しており、1907 年にはこれが完成した。1908 年 9 月からは、この山の田水源地から市街地への給水が開始された。以降、佐世保では水道が普及していった。なお、この 1907 年に建設された山の田浄水場は、平成 27 年に同じ敷地内に新し

く浄水場が建設されて稼働開始するまで、100 年以上にわたり稼働し、佐世保市民に水を供給し続けた。

佐世保での電気の導入は、1900 年代前半に進められた。当初、市内の有力者たちが佐世保電燈株式会社の設立を計画しており、市も半官半民で会社を設立することを計画していたが、財政的に困難であった。そこで、当時佐世保進出を計画していた大阪電燈株式会社が、市と協議した上で電燈事業を開始することとなった。1904 年 4 月に火力発電所が起工、8 月には竣工して給電を開始した。

ガスの導入は、電気よりもやや遅れて始まった。1911 年、民営の佐世保瓦斯株式会社が創立された。翌 1912 年、佐世保市との間で契約が締結され、大正改元後の 11 月からガスの供給が開始された。

通信インフラとしては、1888 年には電信局が開設され、電報の取り扱いが始まっていた。さらにその後、東京=佐世保間を結ぶ市外電話線が開通した。当初これは軍用であったが、後に民間にも開放された。1905 年 9 月より市内電話も開通した。

#### 4. まとめ

ここまで、明治期の佐世保の軍港と市街地の発展を見てきた。「日清戦争」、「日露戦争」という二つの戦争を経て、佐世保の軍港としての機能・能力が強化されていったこと、その間、外国からの技術の導入によって造船能力が徐々に高められていったこと、そして、軍港としての機能・能力が強化されるにつれ、市街地も大きく発展していったことがわかった。

この後も佐世保は、日本の国防戦略上重要な軍港として発展を続けていった。第一次世界大戦において佐世保は、ドイツ領であった青島、膠州湾、そして南方諸島への艦隊派遣の策源地となった。さらに 1930 年代の上海事変後の日中戦争、そして太平洋戦争においても、佐世保は海軍の策源地として重要な役割を果たした。そしてこの間、海軍の造船所として佐世保は、戦艦、巡洋艦、駆逐艦、潜水艦など、多数の艦艇を建造した。佐世保で建造された艦艇の中で特に有名なものとしては、大和型戦艦の 2 番艦「武藏」が挙げられるだろう。しかし、日本軍にとって重要な拠点であった佐世保は、当然アメリカ軍の攻撃目標にもなった。1945 年 6 月 28 日から 29 日にかけて佐世保はアメリカ軍による空襲を受け、市街地の 3 分の 1、家屋の 35% が焼失し、1242 人が死亡した。

敗戦後の佐世保市民は、佐世保市が平和産業港湾都市として、これまでの軍都としてのあり方から転換することを望んだ。以下は、1950 年 1 月 13 日、佐世保市議会で当時の中田市長によって朗読され、満場一致で承認された「平和宣言」である。

「巨億の国帑（こくど）と、60年の永きに亘り嘗々として構築された旧軍港は専ら戦争目的のみに供用せられてきた。

膨大なる軍工廠を擁し、軍都として発展してきた佐世保市は、人口30万に達する大都市となつた。然るに今次大戦は日本を殆ど破滅の状態において終末を告げ数代に亘ってここに定着した市民は住むに家なく、帰るべき故郷は既になく荒廃した慘状の中に失業の群衆と化し去った。

解体艦船のスクラップの山、半壊の建物の群は、これを眺める市民に戦争の惨禍と無意義さを沁々（しみじみ）と訴えるのである。

日本は新憲法により非武装平和国家を中外に宣言した。

佐世保市は茲（これ）に180度の転回をもってせめて残された旧軍財産を平和と人類の永遠の幸福のために活用し、速やかに平和産業都市、国際貿易港として更生せんことを冀（こいねが）うのみである。

市民はその総意をもって港を永久に平和港として育成することを、ここに宣言する。」

（「佐世保市の平和に関する都市宣言」より引用）

そして、同年6月4日、旧軍港市転換法の住民投票が行われた。これは、旧軍関係の国有財産（造船設備など）を国家から譲り受けて平和産業港湾都市の建設に活用するための法案であった。この住民投票で、佐世保市は投票率89.43%、賛成票はそのうち97.3%を記録し、法案の施行が決定した。

しかし、この住民投票の僅か3週間後に勃発した朝鮮戦争のために、佐世保は再び軍港として、今度はアメリカ軍によって使用されることとなった。その後の佐世保は、横須賀と共に、アメリカ軍にとって極東の重要な拠点であり続けている。もし今後、朝鮮半島や台湾で有事が発生すれば、再び佐世保は策源地となり、アメリカ軍や自衛隊の拠点として戦うことになるだろう。そのような事態が起こらず、佐世保が将来的には完全な平和産業港湾都市に転換できることを切に祈る。

## 参考文献一覧

佐世保市史編さん委員会「佐世保市史 軍港市編（上巻）」（2002年、佐世保市）

佐世保市史編さん委員会「佐世保市史 軍港市編（下巻）」（2003年、佐世保市）

佐世保市史編さん委員会「佐世保市史 通史編（下巻）」（2003年、佐世保市）

谷澤毅「佐世保とキール 海軍の記憶」（2013年、塙書房）

佐世保市水道局 Web サイト「水道局だより」>PDF ファイル「水道局だより No.15」(2023/08/24 閲覧)

(<https://www.city.sasebo.lg.jp/suidokyoku/suisou/documents/suidoudayori15.pdf>)

佐世保市 Web サイト「佐世保空襲」(2023/08/25 閲覧)

(<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/simian/sasebokusu.html>)

佐世保市 Web サイト「佐世保市の平和に関する都市宣言」(2023/08/25 閲覧)

(<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/jinken/2021heiwasengen.htm>)

## 第二次世界大戦期機銃、20ミリ機銃と7.7ミリ機銃

81回生 大越智悠

皆さんは、零式艦上戦闘機、通称「ゼロ戦」を知っていますか。ゼロ戦は、第二次世界大戦時に日本の主力として活躍した戦闘機であり、名前を聞いたことがある方も多いのではないでしょうか。もちろんゼロ戦は戦闘機なので、敵を攻撃するために機銃が搭載されています。この機銃は、ゼロ戦以外の戦闘機にも搭載されていますが、戦闘機によって搭載されている機銃の口径や機銃の数がちがいます。そこで、日本の戦闘機の機銃について見ていくたいと思います。

### 1. 20ミリ機銃

零式艦上戦闘機、通称ゼロ戦は、翼内、つまり翼の部分に20ミリ機銃を左右に一丁ずつ、そして機首に7.7ミリ機銃が二丁搭載されています。

20ミリ機銃は、ゼロ戦に採用された当初12.7ミリ機銃などに比べて初速が遅くゼロ戦に採用された際は役に立たないとも言われていました。対戦期に日本で活躍した故・坂井三郎氏は、20ミリ機銃は一発の威力は大きいが携行弾数が少なく、おまけに弾丸の直進性が悪くて照準がしにくいと語っており、次に紹介する7.7ミリ機銃の方が取り回しが良かったことが伺えます。

### 2. 7.7ミリ機銃

ゼロ戦には二挺搭載されているこの7.7ミリ機銃は、一発の威力は20ミリより劣るもの正確性に優れています。米軍が機銃を鹵獲した際にもそのことが書かれています。しかし、米軍が鹵獲した際の報告書では、「軍事量産性」に欠けていることが指摘されていました。

機銃の機関部の金属等の板状の部品は相変わらず金鋸を使って手で切断されており、ポンチでの打抜加工を実施している形跡がなく、また鍛造材料から加工された部品も型鍛造で仕上げられた形跡もなく、鍛造された棒状の材料を削り出して加工しており、膨大な機械加工時間をかけ、かつ材料を無駄にしていることがわかります。

銃身に用いている合金は昭和十七年に至っても、昭和十三年製と同じ高級なタングステン鋼であり、すでに米国では炭素鋼に換えている等のことから、戦時量産の努力に知っていると批判しています。金型を用意すれば最初に大きな設備投資が必要ですが、いったん金型ができると打ち抜き作業は非熟練者にでもできる簡単な作業となり、どちらが生産効率が良いかは火を見るより明らかですね。

ゼロ戦には20ミリと7.7ミリがそれぞれ二挺ずつ搭載されており、7.7ミリはコックピットに、20ミリは翼内に搭載されました。ゼロ戦は攻撃にコストをかけるあまり防御が薄くなっていたのは有名な話ですが、20ミリ機銃も7.7ミリ機銃も大戦期に日本の大いなる力となったのは事実です。これをきっかけに戦闘機の機銃に関して興味を持ってもらえた幸いです。

# 神戸市近辺の城

79回生 青木凱人

兵庫県の城と聞いてまず思い浮かぶのは姫路城や竹田城でしょう。しかし全国には城が4~5万と言われており、神戸近辺にも多くの城があったと考えられます。そこで私は神戸近辺の城について書いていこうと思います。

## ・山路城

手水公園(摂津本山駅と住吉駅の間にある)の近くに位置し、南側には西国街道が通っていました。鉄道整備による破壊により現代は城の名残はありません。恐らく灘校から一番近い城でしょう。

## ・平野城

御影小学校に位置していました。近くに「城ノ前」という交差点があり、近くにある深田池は堀跡と考えられています。また山手幹線沿いに位置する中勝寺は城主平野忠勝の菩提寺です。

## ・花隈城

花隈城はJR元町駅や阪急の花隈駅の近くに位置しています。花隈公園として整備されており石垣があるように見えますがこれは復元された模擬石垣でありまた石垣内部は地下駐車場となっています。城の周辺は山から海まで約1.2kmと非常に狭くまた城の南には西国街道が通っていたことから非常に良い立地であることがわかります。

## ・越水城

越水城は阪急夙川駅北方に位置していました。近くには「城ヶ堀町」という地名が残っています。周囲より高い台地の端に築かれていることがわかります。また「日本の副王」という別名を持っている三好長慶が城主の時期もありました。

## ・富松城

富松城は武庫之荘周辺に位置しています。立地上、富松は西摂の拠点として沢山の争奪が行われました。一部土塁や堀が残っていますが城内と思わしき場所には入れません。

## ・兵庫城

兵庫城はイオンモール神戸南周辺に位置していました。平成24、26年に行われたイオンモール建設時の発掘調査により城の詳細が明らかにされました。発掘調査以前は江戸中期に書かれた絵図でしか兵庫城の姿がわかりませんでした。発掘調査で確認された石垣などは埋め戻されてイオンモールの下に眠っています。また廃城後は尼崎藩陣屋や大坂町奉行所の勤番所などがおかされました。

## ・尼崎城

豊臣家の旧臣である建部家を藩主として尼崎藩が立藩されました。その後戸田家が藩主の時に尼崎城が築城されました。江戸期後半は桜井松平家が代々尼崎藩を治めました。

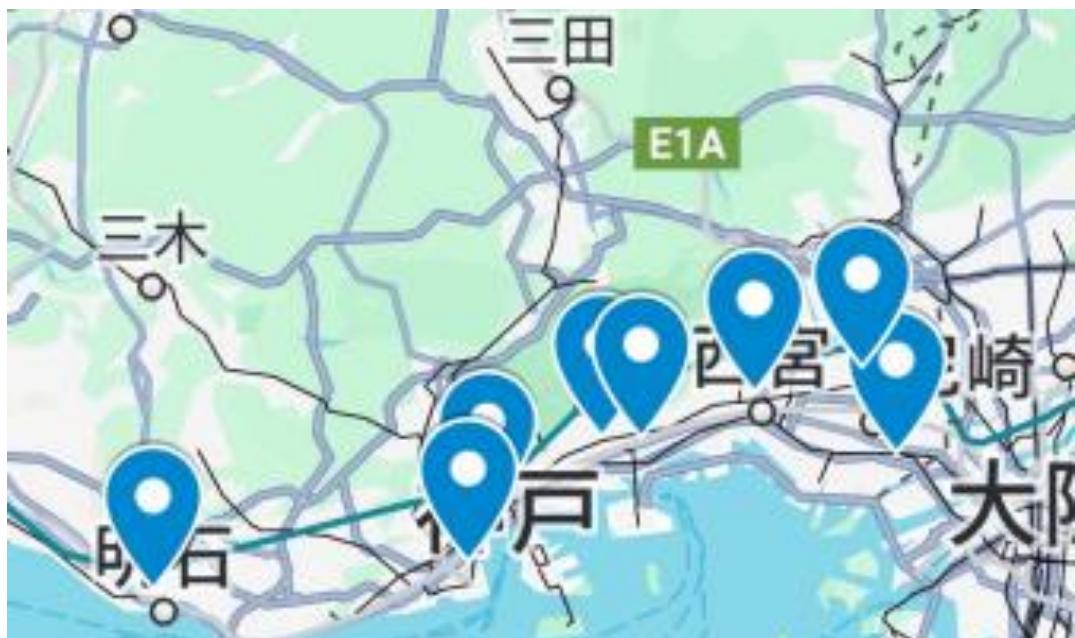
天守や石垣などが復元されています。また天守は平成最後の復元天守です。

#### ・明石城

明石は関ヶ原合戦後は姫路藩の領地に組み込まれていました。しかし 1617 年に姫路藩主である池田家の転封により小笠原忠真を藩主とした明石藩ができました。ちなみに小笠原忠真は徳川家康、織田信長のひ孫に当たります(忠真の母は徳川家康の長男である信康と織田信長の娘である徳姫の娘)。当初は船上城に入った忠真でしたが西国大名への抑えとして明石城を築きました。その後譜代大名や御一門大名が明石を治め、最終的に越前松平家が藩主の時に明治維新を迎えました。

遺構は石垣や堀、三重櫓が挙げられます。特に三重櫓は全国に 12 基現存しているうちの 2 基が明石城にあります。

他にも三田城や瓦林城などの多くの平城、更には山城や陣屋などが存在しますがここでは割愛します。やはり都市開発の影響が大きいのか、遺構のある城は少ないように感じました。



参考文献：江戸三百藩全史 standards 出版

明石城ホームページ <https://www.akashijo.jp/>

尼崎城ホームページ <https://amagasaki-castle.jp/>

近畿の名城を歩く 吉川弘文館出版

# 武田信玄の西上作戦

79回生 小西櫂世

## 作戦開始まで

武田信玄は、織田信長と甲尾同盟を結んでおり、その信長の仲介で今川氏を滅ぼすため信長の同盟国である徳川家康と同盟を結んでいた。しかしその関係が、永禄11(1568)年から始まった駿河・遠江侵攻の際に悪化した。この原因はいくつかあり、永禄12年1月に武田氏重臣である下伊那郡司の秋山虎繁の軍勢が侵攻中の遠江で徳川氏の軍勢と衝突したこと、そしてその後両者の関係修復のために起請文を交換した際に北条氏や今川氏と和睦をしないと誓約したはずの家康が、5月にこれをさっそく破り北条氏と和睦したことなどがあげられる。ともかく、これらにより武田氏と徳川氏の関係はかなり悪化した。

そしてついに元亀元(1570)年10月に家康は武田氏との同盟を破棄し、信玄の宿敵・上杉謙信との同盟を締結させた。ただ、それでも信玄は織田信長との甲尾同盟を保っており、北条氏との戦いも続いているため、すぐに家康を攻めることはなかった。

しかし、元亀2年10月3日に北条氏康が死去すると、後を継いだ北条氏政が上杉謙信との越相同盟を破棄し、駿河侵攻によって破棄されていた武田氏と北条氏の甲相同盟が復活した。これにより、関東方面の不安がなくなった信玄は、元亀3年1月に、信長に攻められていた石山本願寺との先代からの同盟を再確認し、信長を敵とする方針を固めた。そして飛騨に侵攻し、三木氏、さらに美濃郡上の遠藤氏を武田氏に帰属させ、越前朝倉義景や越中一向一揆との連携を強化した。さらに5月には家康の領国である奥三河の国衆、山家三方衆の一員の作手龜山城主の奥平貞能、さらには長篠菅沼氏、田峯菅沼氏に調略の手を伸ばしていた。

## 作戦開始から二俣城開城まで

そしてついに元亀3年9月29日に別働隊・山県昌景が、10月3日には信玄自身がひそかに甲府を出陣し、徳川領国の三河・遠江へ進軍を開始した。山県勢は諫訪から伊那へ入り、秋山虎繁と合流し青崩峠もしくは兵越峠を経由して遠江へ、信玄の本隊は駿河を経由し10月10日に大井川を渡り遠江へ侵入した。

さて、ここで余談である。なお、西上作戦についてはここからの二段落ではほぼ述べないので、二段落先まで読み飛ばしていただいてもかまわない。この青崩峠は、伊那山地と赤石山脈(南アルプス)に挟まれた谷の谷頭に位置しており、静岡県浜松市と長野県飯田市を隔てている。この谷は日本を二分する大断層、中央構造線にそって形成されている。そのため、この峠の周辺では崖崩れなどが頻発する。このように、すぐに崩れてしまうことから「青崩峠」と言う名前がついたらしい。このような地質条件などから、長野県上田市と静岡県浜松市を結ぶ一般国道152号はここで寸断されている。

また、ここは三遠南信自動車道のルートにもなっており、一度はこの青崩峠を回避し、近く

の兵越峠をトンネルで貫く計画がなされていた。しかし、兵越峠も地盤が脆弱であることが判明し、結果ルートは青崩峠の西部の比較的地盤がかたいところにトンネルを掘削することが決定した。このトンネルは、令和5年の5月26日に貫通した。なお、兵越峠ルートのために高速道路の規格で建設された草木トンネルでは、その後のルート変更に伴い、一般国道152号に変更され、歩道が設置されるという珍しい事態も起こっている。

ここまでで余談は終わりとして、本題に戻ろう。山県昌景らの別働隊は、遠江から三河へ抜け、長篠城へ入った。その後、菅沼定盈の野田城に攻め寄せ、さらに柿本城の井伊谷三人衆の一人、鈴木重好を攻めた。重好は、城を開け渡し、伊平城に退いた。山県隊は、その伊平城を攻略するため進軍し、迎撃に来た鈴木勢を仏坂合戦で破った。順調に伊平城まで攻め落とした山県隊は、しばらくここを拠点として、祝田に毎日のように出兵し、井伊谷を掌握した。

一方、本隊である信玄は小山城、相良城を経て、現在の菊川市にある塩買坂を越えて遠江の要衝である高天神城を攻め、城主小笠原氏助を10月21日に降伏させた。また、これと同時に遠江の国衆などを調略していた。高天神城を落とした信玄は、見付に向かって進軍し、懸川を過ぎ太田川の手前の西島、木原に布陣し、久野城主久野宗能を攻撃した。この時に徳川勢の本多忠勝らが三箇野台で物見を行っていたところ、武田勢がそれを見つけ、追撃を行った。本多勢は、見付へ逃れ、家康と合流したのち、家康を先に逃がした。本多勢は見付で武田勢を足止めしようとしたが、武田勢には遠江衆の先導があったため、あまり時間を稼ぐことができず、一言坂でついに追いつかれた。ここで本多忠勝、大久保忠世らが奮戦し、その間に家康は天竜川を渡り切った。本多、大久保らも天竜川を追って渡り、浜松に帰還した。また信玄は見付を掌握了。

見付を掌握したものの本多らを逃がしてしまった武田勢は、磐田原を北上し、二俣城を攻める。この城は、天竜川と二俣川に挟まれた立地で、天然の要害となっているため、武田勢は苦戦を強いられた。そのため武田勢は力攻めを諦め、城内への水の手を断つ戦法へと変更した。これにより、約二か月を要したものの、11月30日に二俣城を開城させた。武田勢はこの後二俣城を改修し、その間の一か月間は活動を停止した。

### 三方原合戦

12月21日、武田勢は二俣城の改修などを終え、再び作戦を開始する。武田勢は浜松城に接近したが、手前で進路を南から西へと向け、三河に向かっての進軍を開始した。籠城の備えをしていた家康は、全軍を率いて浜松城を出て武田勢の後を追った。しかし、武田勢は再び方向転換し、浜名湖水運の要衝、堀江城へ向かった。家康は浜松を孤立させるという信玄の狙いを察知した。また、信玄は徳川勢が後を追いかけていることを察知し、徳川勢、さらに援軍の織田勢との合戦に舵を切った。12月22日の申の刻（午後4時頃）に合戦は始まる。武田勢の投石に反応した徳川勢が反撃をし、小競り合いとなったところから合戦は始まった。家康は全軍に合戦参加を命じ、武田勢も攻撃を命じた。この合戦で織田・徳川勢は総崩れとなり、家康も命からがら浜松城に敗走した。武田軍は徳川勢を追いつつ、犀ヶ崖で停止し首実検を行った。徳川

勢はここに大久保忠世が鉄砲百挺を集め、夜襲をかけたものの、大きな損害は出なかった。この三方原合戦で織田・徳川勢は多数の死傷者を出した。信玄は討ち取った織田の援軍の将、平手汎秀の首級を信長に送り付け、正式に同盟破棄を通告した。

## 信玄の死

三方原合戦後、信玄は以前の予定通り堀江城を攻撃した。攻撃をしたのは三方原合戦の翌日、12月23日から27日までである。しかし落城させるまでには至らず、信玄は三方原に引き上げ、刑部で年越しを迎えた。信玄は年越しの後、三河に向け出陣した。三河に入り、信玄は山家三方衆田峯菅沼氏の分流である菅沼定盈の野田城を標的とした。信玄は激しい城内の抵抗に遭い苦戦するも、本丸に追い詰め降伏させた。しかし、この後信玄の体調悪化に伴い、長篠城で停滞を強いられる。3月12日には長篠城を出たが、またすぐに停滞した。自らの死期を悟った信玄は、三年間自分の死を秘匿することを遺言し、4月12日に信濃の駒場（諸説あり）にて死去した。

## 勝頼の継承から長篠合戦へ

信玄死去後、信玄の四男である武田勝頼が後を継いだ。勝頼は信玄の遺言を守り、死を秘匿した。しかし、信玄死去のうわさはすぐに全国中に広まった。この家督相続の間に、家康は駿府を攻撃、井伊谷にも攻め込んだ。信長も、越前の朝倉義景、北近江の浅井長政を滅ぼした。家康はその後も長篠城を包囲し、同時に山家三方衆の作手奥平氏を調略し、離反させた。長篠城も開城し、かなりの土地を失った。しかし、天正2(1574)年1月に東美濃で軍事行動を開始し、岩村城を拠点とし、明知城などを落とした。4月には再び小笠原氏助の高天神城を攻め、6月に落城させた。翌年3月には軍勢を招集し、先発隊を三河に派遣し、勝頼も信玄の三回忌法要を行い、三河に出陣した。先発隊は足助城を落とし、勝頼と作手城で合流し、奥平信昌の長篠城を包囲した。ここで織田・徳川連合軍に大敗するのが長篠合戦である。このあと、武田氏は滅亡へ向かっていくことになる。

## さいごに

この文章は、下記の参考文献をもとにまとめたものである。もっと詳しく知りたい方は参考文献を読んでみてはいかがだろうか。

## 参考文献

平山優 著 武田氏滅亡

平山優 著 武田三代 信虎・信玄・勝頼の史実に迫る

平山優 著 徳川家康と武田信玄

平山優 著 クロニクルでたどる“甲斐の虎” 図説 武田信玄

本多隆成 著 徳川家康と武田氏 信玄・勝頼との十四年戦争



# 巡検記

77回生 佐藤智成

## 1. はじめに

2023(令和5)年の夏休みに、地理歴史研究部(地歴部)の活動の1つである、「巡検」を行いました。「巡検」では、通例夏休みに、景勝地や史跡をめぐります。行き先は福岡県と佐賀県でした。

巡検前に、参加者の皆さんに「事前学習資料」を作ってもらい、共有しました。巡検の写真に、この資料も加え「巡検記」として発表します。

## 2. 巡検のしおり

8/29(火)

7:30 新神戸駅 集合

8:09 新神戸駅 発

10:43 官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース、東田第一高炉跡 着

11:28 官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース、東田第一高炉跡 発

12:20 直方市石炭記念館 着

—昼食—

15:07 直方市石炭記念館 発

16:33 田川市石炭・歴史博物館、石炭記念公園、伊田堅坑櫓、伊田堅坑第一・第二煙突 着

17:52 田川市石炭・歴史博物館、石炭記念公園、伊田堅坑櫓、伊田堅坑第一・第二煙突 発

20:16 sonic apartment hotel 着

—夕食—

8/30(水)

—朝食—

8:00 sonic apartment hotel 発

8:05 太宰府天満宮 着

10:01 太宰府天満宮 発  
10:57 板付遺跡 着  
12:09 板付遺跡 発  
13:21 多々良浜古戦場の碑 着  
—昼食—  
14:28 多々良浜古戦場の碑 発  
15:33 福岡城址・舞鶴公園、鴻臚館跡 着  
17:02 福岡城址・舞鶴公園、鴻臚館跡 発  
17:33 元寇防塁(西新地区)、元寇防塁(百道地区) 着  
18:04 元寇防塁(西新地区)、元寇防塁(百道地区) 発  
19:54 スマイルホテル福岡大川 着  
—夕食—

※多々良浜古戦場の碑・元寇防塁(西新地区)・元寇防塁(百道地区)は大雨の予報のため、当日に予定を変更し、大宰府政庁跡・観世音寺に代えました。

### 8/31(木)

—朝食—  
8:10 スマイルホテル福岡大川 発  
8:56 三重津海軍所跡 着  
10:18 三重津海軍所跡 発  
12:01 大牟田市石炭産業科学館 着  
—昼食—  
昼食後、以下の近代化産業遺産を巡る  
三池港、三池炭山創業碑、宮浦坑跡、三池炭鉱宮原坑、旧三池集治監外堀、三池炭鉱万田坑  
17:27 三池炭鉱万田坑 発  
21:24 新神戸駅 着  
解散

※三池港は時間の都合上、行けませんでした。

# 八幡製鉄所の歴史

77回生 佐藤智成

## 1. はじめに

(官営)八幡製鐵所(福岡県北九州市八幡東区)は 1901(明治 34)年に誕生した国営の製鉄所で、1880 年に作られた日本初の官営製鉄所・釜石鉱山田中製鉄所(岩手県)に続くものでした。

「鉄は文明開花の塊なり(福澤諭吉 著『民情一新』)」と、日本の近代化のために製鉄は国家の急務でした。八幡製鉄所は、ドイツ人技師らの指導で、鉄鋼一貫製作所としての開業から、数年はトラブルが続いたものの、外国とは異なる独自の製鉄技術で、操業開始からたった 10 年で産業化を成し遂げました。市民生活のための日用品から工業機械の生産まで、その役割を担って民需・軍需を問わず、鉄鋼生産に走り続けたのです。

このように石炭同様に製鉄の歩みは日本の歩みでもあり、その中心的な役割を果たしてきた八幡製鉄所の歴史を深くみていきましょう。

## 2. 明治時代の日本の製鋼状況

### 鉄の国内需要

官営八幡製鐵所ができる前の、日清戦争直後・1896(明治 29)年の鉄の国内需要は、銑鉄 6 万 5000 トン・鋼材 22 万トン余りに上り、これに対し国内供給量は銑鉄 2 万 6000 トン・鋼材はわずか 1200 トンに過ぎず、殆どが海外からの輸入に頼っていました。

また 1894(明治 27)年から 1895(明治 28)年の日清戦争の後、アジアの侵略を図っていた帝政ロシアとの対決を前にして、国防と産業振興から製鉄所の建設が明治国家の急務でした。

このため製鉄所の建設が早くから要望されていました。1891 年から 1892 年にかけて、その建設をめぐり帝国議会(=今の国会にあたる)でも再三にわたって議論はされるものの、最終議決は否決をされるという繰り返しをしてきました。

これでは埒が明かないとして、1892(明治 25)年 6 月、政府は内閣に「製鋼事業調査会」を設置して調査を開始しました。その年の 9 月には、製鉄所は官営とする、原料は豊富、製鉄・製鋼の試験結果も良好、との結果を報告します。

さらに調査続行の途中に日清戦争が起きたため、早急に軍器独立の必要性が生じていたのです。

第2次伊藤内閣において、製鉄所設立目的はあくまでも兵器用の鋼材の製造であり、一般需要は二の次で、年間の生産目標は6万トンとされました。

### なぜ八幡が選ばれたのか

そして政府は、1896年3月29日に、製鉄所を作る旨の「製鉄所官制」を世の中に広く告げ知らせる発布を出しました。そこで製鉄所を作る候補地として八幡の他に、門司の柳ヶ浦・広島の安芸郡坂村、尾道、神戸、大阪が候補地となりました。最終的には、八幡村と広島県の坂村との争いになりましたが、1897年2月6日、「製鉄所は福岡県下・筑前国八幡村に置く」と公示され、製鐵所長官に和田維四郎が就任しました。

八幡が選ばれた一番の理由は、当時は空襲など想像もできない時代で、八幡村は響灘から深く入り込んだ洞海湾に面していて、外敵の砲撃を避けられ、中国や外地からの鉄鉱石の輸入や鉄鋼の積み出しにも便利で、それに加えて燃料の石炭は隣の筑豊炭田でまかなえ、さらに労働力も豊富であり、工場用水も十分でした。つまり日本の国運を左右する製鉄所設置の要件を全て満たしていたのが120年も前の八幡村でした。

## 3. 漁村・八幡村から巨大な工業地帯へ

その頃の八幡村は洞海湾に面した、戸数351・人口1229の小さな漁村でした。そこへ魚と何の縁もない製鉄の話が突然舞い込んできたので地元は困惑し、村長の話に耳も傾けてくれなかったとか。

村長の芳賀種義が体を張っての説得で住民の同意をなんとか取り付け、また明治期の政治を動かしたとも言われる國権主義的政治結社・玄洋社の初代社長で、政治家の平岡浩太郎と、石炭財閥の安川敬一郎・麻生太吉・貝島太助といった人たちの協力も取り付けました。さらに、政府の製鉄事業調査会の委員長だった福岡出身の、農商務次官(現在の農林水産省あるいは経済産業省の大臣にあたる)をしていた金子堅太郎の支援も取り付けたのです。このような官民一体の誘致運動が功を奏したのです。

この金子堅太郎という人は、初代の総理大臣・伊藤博文のブレーンで、後に明治憲法の制定や日露戦争の講和条約締結で功績のあった人物です。それと安川敬一郎は、当時の若松建築株式会社(現・若築建設)と明治炭坑の社長を兼務しており、後に現在の九州工業大学となる明治専門学校を創設したり、安川電機他の事業を創立したりした人です。また麻生太吉と貝島太助と共に、筑豊御三家と言われ、名実ともに当時の実力者でした。

こうして官営製鐵所が、八幡に開業することになります。工場建設決定から完工までの3年間に、労務者延べ150万人が動員され、建設に要したレンガ2800万個・耐火レンガ400万個・

セメント 5 万 3000 庫・建物 164 棟・約 5 万 6400 m<sup>2</sup>, 高さ 27m~77m の煙突 9 基・鉄道線路 212 km・水道延長 11 km・貯水池 6 箇所・船だまり 5 万 m<sup>2</sup>といつた、画期的な大事業となり、一面葦の茂みに覆われていた八幡村は 3 年後には巨大な工業地帯に変貌したのです。

1900(明治 33)年 11 月に、ドイツ人のリュールマンが設計した溶鉱炉が八幡の東田に完成し、当時の総理大臣・伊藤博文も視察に訪れ、第 1 溶鉱炉前で記念写真を撮っています。

翌 1901(明治 34)年 2 月 3 日に、100 トンの東田第 1 溶鉱炉に火が入れられて、官営八幡製鐵所が動き出します。

#### 4. トラブル続きの開業

##### うまくいかない吹き入れ

こうして解説すればいとも簡単に点火式があったようですが、実は製鐵所が動き出すまで悪戦苦闘が数年続きました。それは国の期待を集め製鐵開業でしたが、若松の民間工場から買入された熱源となるコークス(=炭素の塊)の質が良くなく、溶鉱炉がすぐに詰まるなど、1 回目の熱風の吹き入れ作業から 3 回目の吹き入れまで 4 年近くもモタモタしていました。

吹き入れというは「たら吹き」とも言われ、昔は武士の刀を作るため 1300 年以上奥出雲に継承される日本独自の製鐵技術です。現在では鉄を作るための銑鉄工程ができ、原料や設備も当時と比べようもなく、明治時代の製鐵技術とは比較になりませんが、当時は近代的な設備だったのでしょう。

吹き入れがうまくいかないままではいけないと、鉄冶金学会の第一人者だった、製鐵事業調査委員の野呂景義工学博士は、ついには熱源となるコークスをより燃やすために風を送る鞴(=足で踏んで風を送る送風機)を取り寄せ、ブカブカする原始的な手段に打って出ます。工学博士さえこのような手段しか思い浮かばない暗中模索状態が続いていたようです。なにしろ相手は、これまで見たこともやったこともない巨大な溶鉱炉です。

それにしてもこのような原始的なことで、溶鉱炉が風を吸い込んでくれるわけがありません。ここで田中熊吉という人が出てきます。この田中熊吉という人は、後に八幡製鐵所初代宿老・「高炉の神様」と言われた人で、佐賀県三養基郡出身で、製鐵所に入る前は鍛冶屋の経験があり、鞴の扱いに慣れていました。そこで、博士たちの鞴作業を見かね、「それではいけない」と進言しました。そして風が逃げないように鞴に覆いをしてブカブカしたところ、どうにか火がついて煙突からやっと煙が出るようになったのです。

それでも溶鉱炉が故障すれば、修繕のために作業員が入るのですが、中には一酸化炭素がこもっているため、入った途端にバタバタ倒れてしまう作業員がいました。

このように、当時の人たちは大変な苦労されたのです。

## 過剰な作業のツケ

1901(明治 34)年 11 月 8 日は大雪でしたが、伏見宮貞愛親王を迎えて、大相撲の横綱・常陸山一行 300 人も花を添えて、第 1 回起業祭が行われました。この年に生産された鋼材は初期の目標 9 万トンにはるかに追いつかない、わずか 3 万 4000 トン余りでした。それでも生産増加への一筋の光明が見つかったのもこの時でした。

翌 1902(明治 35)年になると、年間生産目標 9 万トンに向けて作業は順調にはかなり出しました。しかしその矢先の 7 月末には、銑鉄ストック 3 万トンが消化できず、8 月には溶鉱炉に故障が出て、溶鉱炉の作業が一時中断されるなど、過剰な作業のツケが出たのです。

## 製鐵所が移転する？

これに加えて、製鐵所が広島へ移転するらしいとの噂が流れたものですから、製鐵所のおかげで突然潤いだした地元はびっくり仰天しました。

この噂をばら撒いたのは、第 1 回起業祭に招かれた衆議院議員たちです。彼らは期待したほど歓迎されず、帰途に立ち寄った広島の呉工廠では大変なおもてなしを受けたそうです。そこで八幡をやり込めんがために腹いせに発した、嘘の移転話だったようです。

## 繁栄も不況も運命を共に

このように四苦八苦の作業が続いていた時、日露戦争が勃発しました。これにより建設が延期されていた第 2 溶鉱炉や、コークス炉などが完成します。

作業は一気に息を吹き返し、1905 年の生産高は銑鉄 9 万トン・鋼材 7 万トンと、当初の目標に近づくようになったものの、鋼材の需要は増大していたため、なお 20 万トン以上が輸入されました。

そして日露戦争で日本が勝利し、大陸における華北・華中・満洲では、鉄鉱石やコークス化しやすい石炭である強粘結炭を確保できるようになって原料の見通しがつき、増大する国内外の需要にも追い付けるようになっていきました。

こうして日本は典型的な資本主義国家の路をたどり始め、その心臓部であった北九州は繁栄も不況も運命を共に歩み出していきました。

## ドイツ人技師と喧嘩

八幡製鐵所の基礎を築いてくれた、15 人のドイツ人がいました。ご紹介します。

最初にやってきたのが、グスタフ・トッペという製鋼専門技師で、この人はドイツ・イタリアの製鋼工場で技師長を勤めた後、清国・漢陽の製鐵所所長をしていました。

官営八幡製鐵所の創業には、経験・知識のある外国の人材が必要でした。しかし当時は、各國とも製鉄業は盛んな事業だったので、鉄関係の技術者は職に困っていました。ですから、何もわざわざ日本まで行く必要があろうかという考え方方が強かったです。そのため、外国人技師を集めには苦労したようです。

このトップという技師を雇う年俸が、当時のお金で1万9200円でした。和田製鉄所長官の年俸が6000円ですから、その3倍以上です。さらに驚くことに、トップと契約したのが1897(明治30)年12月で、八幡「村」が「町」になる前年・1899(明治32)年の八幡村の決算額・8164円と比べれば、超厚待遇だったということが分かります。

そうして1899年に雇われたトップは、和田長官と共にドイツに行って14人の技師を採用しました。

これで工場が動き出すと思いきや、予想以上の支障が起きたのです。

日本人職工の一部を除き、機械も材料も初めて見るものが断然多く、しかも製鋼炉建設に使った部品・材料全てがドイツ製でした。またレンガ1つとっても、日本人のレンガ職人が初めて目にする真っ黒なマグネシア・レンガでした。

その上、技術を教えてくれるのがドイツ人ですから、言葉が全く通じない有様でした。技師たちがドイツ語でまくし立てるものですから両者がいがみ合いになり、ついには床に倒されたり、首筋を絞めたり絞められたりの喧嘩も起こりました。

それでも、ドイツ人技師は彼らなりに努力を惜しまず、溶鉱炉の使い方を分かりやすく解説した本を書いてみんなに配ってくれるなど、1907年に全員が帰国するまで、とにかくドイツ人は仕事熱心でした。

このように官営八幡製鐵所は、誕生から様々な苦労を積み重ねてきましたが、1904(明治37)年7月23日の第3回目の吹き入れからは順調に生産が続きました。

## 5. 河内貯水池

製鐵所の拡張計画による水源確保の一環として、河内貯水池(福岡県北九州市八幡東区)が1919(大正8)年に着工し、8年の歳月をかけて1927年に完成しました。

官営八幡製鐵所の土木課長をしていた、京都大学工学部出身の沼田尚徳という人が中心となって設計・施工にあたりました。堤防は高さ43.1m・幅189mで石造りの立派な造りであり、ほとんど人力で工事は進められ、延べ90万人が動員されました。しかし、1人も殉職者は出なかつたといわれています。

当時は東洋1の規模を誇ったダムの堰堤、つまり堤防は現在まで目立った水漏れはなく、貯水池は現役で稼働しており、日本製鐵九州製鐵所八幡地区(旧・八幡製鐵所)への工業用水の供給を続けています。

## 6. 市民の祭「起業祭」

1959年9月には八幡製鐵所戸畠新工場が完成し、溶鉱炉の火入れ式も盛大に行われました。

2007(平成 19)年 11 月 30 日、近代化産業遺産(鉄鋼一八幡製鐵所関連遺産)に認定されています。

前述しましたように、官営八幡製鐵所の開所式の日を記念して、明治の末頃から起業祭が始まり、それ以降は毎年 11 月 17 日から 19 日までの 3 日間にわたり開催されてきました。

規模は年々大きくなり、大谷広場(現在の大谷体育館がある場所)で、殉職者の慰靈祭や、永年勤続と技術開発の表彰<sup>ひょうしょう</sup>が行われ、前後 3 日間は旧・八幡市と旧・戸畠市をあげてのお祭りとなっていました。大谷広場は露店だけではなく、八幡餃子や小倉焼きうどん、安川電機のソフトクリームロボット・やすかわくんのソフトクリーム屋など、ぎっしり並び、サーカスや見世物も出ていました。八幡・戸畠の小中学校も 18 日は休校で、工場も開放され、子供たちの見学で賑わっていました。

当時は企業の記念式典でしたが、今では市民の祭りへと変わり、「まつり起業祭」となっています。

## 7. 八幡に国会議事堂が登場！？

### 様々な苦難

現在の国会議事堂は、1920(大正 9)年 1 月に起工して 7 年後の 1927(昭和 2)年に、9600 トンの鉄骨の組み立て工事が完了します。

1923(大正 12)年には関東大震災に見舞われたのですが、建設中の新議事堂および第 2 次仮議事堂は無事でした。

この途中の 1934(昭和 9)年には、官営八幡製鐵所が中心となって民間業者と合併し、日本製鉄が発足。同社の八幡製鐵所となっています。

さらに約 10 年を経て、新議事堂の完成が近づいた 1936(昭和 11)年 2 月 26 日には、二・二六事件が発生しており、日本を揺るがしたクーデター未遂事件の渦中<sup>かちゅう</sup>で、同年 11 月に完成しました。

こうした様々な苦難を経て新議事堂が、現在の福岡市中央区出身の廣田弘毅内閣総理大臣、<sup>ひろたこうき</sup>福田幸次郎衆院議長、<sup>このえふみまる</sup>近衛文麿貴族院議長など、約 2800 人の来賓<sup>らいひん</sup>を迎えて竣工式<sup>じゅんこうしき</sup>を迎えたのは、着工から実に 17 年を経た 1936(昭和 11)年 11 月 7 日のことでした。

### 鉄工マンの意地とプライド

議事堂は、高さ約 65m の中央塔を中心に、右が参議院・左が衆議院と左右対称の設計になってしまっており、その鉄骨を八幡製鐵所が請け負ったのです。

国家の要<sup>かなめ</sup>となる建築ですから、厳選した熟練の技術者チームを左組と右組に分けて、その精度とスピードを競わせました。

さらに、この実際の組み立てに 1mm の違いも許されない状況で、鋼材の 1 本 1 本に番号を打

ち、製鐵所の構内で議事堂そのものに鉄骨を組み立てていきました。そして大丈夫と確認してから、解体して東京に送ったのです。つまり、鉄骨だけの議事堂が事前に八幡に出現していたのです。組み立てと解体にもかなりの日数がかかったと思われます。

日本のシンボルとなる建築だからと、工員全員が一体となり、完璧な鉄骨を作りながら納品まで取り組んだ鉄工マンたちの、胸に秘めた誇りと鉄の町・八幡のプライドがあつたのでしょうね。

完成した議事堂は戦時の空襲にも耐え、90年近く揺るぎのかけらもない威風堂々の姿を私たちに見せてくれています。

## 8. 八幡製鐵所焼失の大ピンチ

それから、八幡製鐵所存続の最大のピンチがやってきます。それは第2次世界大戦です。

アメリカが日本の戦力を叩くには、八幡製鐵所が一番の目標ということで、日本で最初のB29空爆が行われました。

八幡製鐵所を中心に狙った空襲は、計5回行われています。

日本最初の空襲は、1944(昭和19)年6月16日未明に、B29とB24が1時間30分にわたり  
えだみつまきやま稜光や牧山地区を襲撃しましたが、この時は八幡製鐵所の被害は僅かでした。

次に大きな被害が出たのが、4回目となる1944年8月24日(日)の空襲でした。

日曜日の午後、八幡製鐵所の工場の爆破を狙ったB29・100機が2時間にわたる波状攻撃を繰り返し、226発の500ポンド爆弾が落とされ、そのうち151発が製鉄の中心・東田と洞岡地区に集中しました。この空襲で46人が亡くなり、重傷者数も多数出ており、被害は甚大でした。  
しかし、製鉄の心臓である高炉とコークス炉は被害を免れてなんとか助かっています。

この空襲では、高射砲で撃墜した1機のB29から、詳細な空撮写真が見つかっています。それには長崎の上空辺りから北九州へかけての海岸線がはっきり撮影されており、八幡上空は赤線が引いてありました。そしてもう1枚には、製鐵所の小さな小屋まで詳細にわたり八幡製鐵所の全景が撮影されており、完全に丸裸にされていたのです。

そして八幡市街地を壊滅させたのが、1945(昭和20)年8月8日B29・120機と大中小の戦闘機120機による5回目の空襲でした。

今度は焼夷弾を主とした爆撃で、旧・八幡市の3分の2が完全に消失しました。工場や社宅、寮が焼かれ、出勤者も半数で製造機能が完全に麻痺しており、製鐵所の死者が87人・被災家族7700人と大変な被害でした。大空襲で壊滅状態となったものの、東田第2号・第4号、戸畠第2号の3高炉は致命的な被害を免れたので、戦後の日本の復興に大きな役割を果たしたのです。

戦時中にはイギリス・オーストラリア・インドの捕虜1200人が、日本人の工員とともに製鐵所で働いていました。

## 9. 官営八幡製鐵所から日本製鉄に至るまで

### 半官半民の国策会社に

1934年1月29日、官営八幡製鐵所を核に、民間5社の輪西製鐵(北海道)・釜石鉱山(岩手県)・三菱製鐵(朝鮮)・九州製鋼(福岡県)・富士製鋼(神奈川県)と合併して誕生した、国内最大の製鉄メーカー・日本製鉄を設立しました。後に東洋製鐵と大阪製鐵も吸収しており、急増する軍需に対応し、鉄鋼の国内自給率の向上を狙った、半官半民の国策会社として歩んでいったのです。

しかし、1950年の財閥解体<sup>ざいばつかいたい</sup>で日本製鉄は解体され、八幡製鐵・富士製鐵・日鐵汽船・<sup>はりまないかれんが</sup>播磨耐火煉瓦の4社に分かれます。

### 地元との別れに涙する従業員

1965年以降、八幡製鐵は鉄鋼の生産拠点として、千葉県君津市に君津製作所を整備し、1968年に君津に第1高炉、1969年には第2高炉を稼働させ、世界最新鋭の製鉄所と言わされました。

このため、多くの従業員が八幡から君津に移っていました。門司駅や小倉駅のホームでは、寝台特急で長年住み慣れた土地から君津に向かう従業員が、家族や仲間と別れを惜しむ光景が連日繰り広げられました。

### 新日本製鉄が発足

そして1970年に、八幡製鐵と富士製鐵が合併して、新日本製鉄が発足しました。

この合併時点では新日鉄の従業員は全国で8万2000人いて、そのうち八幡は2万8000人いました。2011年3月末には全社で1万6250人に、そのうち八幡は2850人と、合併時の10分の1になっていました。

### 新日鉄住金、日本製鉄へ

さらに2012年に、住友金属工業と合併して、世界第3位の生産量を誇る新日鉄住金となつののです。

そして2019年4月1日には、日本製鉄へ社名を復帰することになり、現在に至っています。<sup>いた</sup>

## 10. 7色の煙が社会問題に

北九州では、八幡製鐵所だけではなく黒崎窯業・三菱化成・小野田セメントなど、80社を超える工場がひしめいており、煤や塵などの煤塵が容赦なく吐き出されていました。

高度経済成長の狼煙<sup>のろし</sup>のような存在だった、「7色の煙」に世間がざわつきだしました。当時の新聞記事によると、工場に近い住宅地は洗濯物が乾く間もなく、すぐに汚れてまた洗う、そ

した生活が日常のことだったそうです。

1969(昭和 44)年に公害対策基本法が制定されたのを機に、北九州は素早く動き出しました。製鉄所も早くから煙突に集塵装置をつけて、ピンク、黄、黒、白・・・と俗にいう「7色の煙」を追放し、また高炉には排気ガス回収システムを採用し、公害対策に取り組んでいました。

1973 年には、八幡製鐵の敷地・126 万m<sup>2</sup>の広さにゴルフ場が 1 つできるぐらいの緑化運動を行い、煙の都市から緑の街への変貌に大きく貢献しました。

そして 1982(昭和 57)年には、北九州市が「緑の都市賞」総理大臣賞を受賞しました。

1974(昭和 49)年には北九州市と公害防止協定を結んで、コークス全工場に脱硫酸装置を設置するなど、空気も水もきれいな製鉄の街・八幡、戸畠が実現できたのです。

## 11. 高炉の火が消える

1978 年に八幡地区から高炉の火が消えて、広大な遊休地をどう生かすかが新日鉄の課題となりました。いくつかの活用プランがあった中から、宇宙テーマパーク構想を選択しました。そして 33 万m<sup>2</sup>に及ぶ敷地に、スペースドーム・スペースキャンプなどのパビリオンを完成させ、日本の製鉄発祥の地に 1990 年 4 月 22 日、スペースワールドが開業しました。

しかし 2017 年末に、土地を保有する新日鉄住金と賃貸契約更新の交渉が不調に終わったため、閉園しました。

2022 年 4 月、その跡地にジ・アウトレット北九州がオープンしています。

## 12. さいごに～八幡製鉄所を見学するメリット～

さて、一通り八幡製鉄所の歴史を解説してきました。

八幡製鉄所の、今まで見られなかった施設も一般公開され、見学できるようになりました。

八幡製鉄所を見学するメリットは、日本のものづくりの歴史を肌で感じができる点です。江戸時代までちょんまげを結った侍が歩いていた日本が、近代国家として歩み始めたきっかけが、八幡製鉄所を含めた明治日本の産業革命遺産です。

西洋技術を積極的に取り入れながらも、日本独自のものとして発展させた経緯がそれらの建物から伝わってきます。日本という国がどのように発展してきたのかを知る、良い機会になるでしょう。

また、かつては「産業の母」と呼ばれた鉄鋼・石炭そしてその生産で栄えた北九州市をはじめとする、筑豊地区を実際に歩いてみると、製鉄・製鋼の発展の歴史を体験できることでしょう。

## 参考文献

- ・岩下哲典, 藤村泰夫 編 『明治日本の産業革命遺産』
- ・福岡歴史発見！Fukuoka Memories - YouTube
- ・【世界遺産登録決定】明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業  
(japansmeijiindustrialrevolution.com)
- ・経済産業省の WEB サイト (METI/経済産業省) (METI/経済産業省)
- ・西日本文化協会 編 『福岡県史』
- ・毎日新聞西部本社報道部 著 『北九州市 50 年の物語』
- ・筑豊近代遺産研究会, 北九州地域史研究会 編 『北九州・筑豊の近代化遺産 100 選：ポケット判』
- ・日本製鉄 (nipponsteel.com)
- ・小林正彬 著 『八幡製鐵所』
- ・長野暹 編 『八幡製鐵所史の研究』
- ・八幡製鐵株式会社八幡製鐵所 編 『八幡製鐵所五十年史』
- ・塚本学 著 『歴史・民俗・博物館』
- ・Wikipedia
- ・東洋経済オンライン | 社会をよくする経済ニュース (toyokeizai.net)
- ・日本経済新聞 - ニュース・速報 最新情報 (nikkei.com)

## 3—2. 官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース, 東田第一高炉跡

官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース



## 東田第一高炉跡



### 4-1. 直方市、田川市の産業班事前学習資料

## 筑豊炭田 江戸～戦前

77回生 大月遙太郎

筑豊の炭田が初めて歴史に登場するのは、元禄（1684～1703年）の頃である。『好色一代男』などの浮世草子の作者として知られる井原西鶴の道中記『一目玉鉢』に「戸畠・黒崎石を焼く所也」と記されており、これは石炭を燃やして有煙分を除去することで火持ちのいい燃料のガラとすることを指している。また著したオランダの医師ケンペエルが長崎から2度江戸に参府した経験を記した『江戸参府紀行』では「数箇所の石炭坑あり、我等に甚だ珍奇なるもの、注目すべきものとして示されたり」「木屋瀬は大村にて町とも言ふべき程なり、此地の人々は甚黒く又汚くして行くは石炭を焼くがためなるべし」と書かれている。

豊前では貞享4（1987）年に小倉藩が初めて田川郡宮尾村で石炭採掘箇所4口から「石間符札代」として税を徴収した記録が残っている。

このころ石炭を採掘したところとしては筑前国では木屋瀬・幸袋・立岩・川島・小竹・勝野・赤地・境・頓野・直方、豊前国では宮尾・河原弓削田・糸田などが知られているが、これらはいずれも遠賀川やその支流沿いに位置し、ほとんど現在の直方・飯塚・田川に含まれている。このように石炭採掘地域は広かったが、当時は薪が不足していたこともあり、薪の代用としての利用が浸透していった。薪より廉価であったことから市場が開拓されると、石炭採掘は自家燃料の確保から、商品生産に転化するようになった。やがて石炭採掘地域以外にも積極的に積出されるようになり、産地では価格の高騰を招いた。これには農民の窮乏が関係しているとみられる。石炭の商品化が目立った享保年間は16年から18年（1716～1735）に

かけ空前の飢饉に見舞われ、宝暦5（1755）年の大洪水、明和4（1767）年の洪水、5年の旱魃、安永5（1776）年の洪水、同8年の洪水と大災害が相次ぎ、遠賀川流域に大飢饉の痛手を回復させる暇を与えなかった。田畠を破壊された農民にとって石炭採掘は手っ取り早い賃金獲得の手段となった。

石炭の用途は家庭用燃料にとどまらず、漁労のかがり火、製塩、焼物製造など拡大し、中国地方まで販路が伸びていった。特に19世紀にはいると瀬戸内地域での製塩のための需要が高まった。このため品薄のため石炭価格の高騰を招き、安定供給は社会問題となった。これに対し文化13（1816）年に福岡藩は仕組法を採択、会所を設置し収量の管理を図った。これらは遠賀・鞍手の2群に限定され、整然としたものではなかったが、天保8（1837）年に改めて若松・芦谷に会所を設置し、採掘の厳重な許可制・出炭量調節・販売独占により石炭鉱業を完全に藩のコントロール下においた。

遠賀川流域は米の主産地であり、年貢米の輸送のため水運が発達していたことも筑豊地域の先進を助け、川内陸部の奥深い地域も河口付近と同時期に商品的な石炭の採掘がはじまった。浅い川での運送に便利なように喫水を浅くし、船べりを広く取って造られた「川艤（かわひらた、別名「高瀬舟」）」が遠賀川や黒田氏が140年をかけて開通させた水路である堀川を通じて輸送した。天保11年に堀川を通過したのはのべ5105艘で、うち石炭は2730艘で50%を超えた。さらにその2年後には70%強となった。

嘉永6（1853）年、ペリー率いる米国東印度洋艦隊が浦賀沖に来航し、幕府に対して開国を迫った。その目的として国内市場の開放はもちろんだが、蒸気船による世界的な航路網を完成させるため日本に薪水や食料、そして蒸気船の燃料となる石炭の補給基地を求めるものがあった。安政元（1854）年、日本は日米和親条約を締結、ついでイギリス、ロシア、オランダとも同様の条約を結んだ。これにより下田や函館、長崎には列強の蒸気船が入港し、幕府はこれに薪水・食料・石炭を供給することを要求された。この年、筑前から3000万斤、三池・肥前から7000万斤の石炭が長崎に送られた。しかし、瀬戸内塩田市場には筑前や豊前のほうが近かったが、長崎にはそれまで不利であった三池や高島が有利であり、西国諸炭田の中で肥前が優位性を確立し、筑豊は停滞することとなる。しかも、筑豊が後れを取った要因は距離の問題だけではなかった。幕末の筑豊が直面した最大の問題は、坑内湧水の排水であった。石炭採掘の期間が200年にも及んでいたため露頭に近い石炭層は掘りつくされており、深い石炭層を追って坑道を延ばしていたが、同時に排水を不可避なものにした。筑豊で年間100万斤～200万斤を産出する丁場では人員の30%が採掘を行うのに対し、25パーセントが排水を行う必要があった。一方唐津炭田の中心地では丁場の規模は500万斤～5000万斤に及び、しかも排水にかかるコストはほとんど筑豊と変わらないほどであり、筑豊での採掘条件が厳しかったことがわかる。

筑豊における近代化は、明治5年に仕組法と若松・芦谷の会所が廃止されたことに始まった。6年には他県への石炭の自由移出が認められ、仕組法は解体された。しかし生産者は長期に及ぶ仕組法による規制下で資本を蓄積できず、自立的に発展の道を開いていく状況なく、

また福岡・小倉両県は政策の転換をはかる能力を欠いていたと言わざるを得ない。

小倉藩は隣接する長州藩とは対照的に親幕的傾向を一貫し、第二次長州征討では長州軍に攻め込まれ小倉城に火をつけ田川郡に撤退したが、この間急な軍費調達のため田川郡の石炭1億斤と引き換えに中原屋など3人の特権商人に7万7400両を調達した。しかし中原屋が4年間に受け取った石炭は約束の1割強に過ぎず、債務として小倉県に引き継がれたため、結局小倉県は中原屋に田川郡の石炭販売の独占を認めた。また明治4年には田川郡の全土に波及する一揆が発生した。一方福岡藩は維新の変革に遅れを生じ、明治2年に金札偽造が摘発され、また6年には遠賀川流域で一揆が起こった。このように両県は政治的ハンディキャップを負ったうえ、民衆の抵抗もあった。

前述の規制の撤廃により「自由掘り」の時代が訪れ、明治元年には160坑だったのが12年ごろには600坑までになった。しかし、これらの多くは安定的に稼働させるだけの資産がなく、また小坑では幕末期と同じように露頭した石炭層の枯渇に伴う排水の問題から逃れることはできず、継続的な採掘は困難であった。

明治15年には日本鉱法の中に石炭坑の借区は1万坪以上に限るとの但し書きが加えられ小坑主の排除を図ったが、16年の数字では筑豊で1000坪以下の借区が61.9%を占め、1万坪以上は2.5%に過ぎず、依然として小坑濫立から脱却できずにいた。福岡県はこの状況に鑑み、明治18年、筑豊の坑主150人からなる「筑前国、豊前国石炭坑業組合」を結成し、19年には技術摂取のため組合で技師を招聘し、また小坑をなるべく統合するように示達した。さらに、農商務省は明治21年から22年にかけて「撰定鉱区」と呼ばれる、炭層と山谷の形状に沿った合理的な最小19万坪から最大25万坪、総面積1500万坪に及ぶ借区を設定し、これにより零細借区は激減し、大規模化が進んだ。四大資本（明治37年には四大資本が筑豊全出炭高の52%を占めた）と言われた三井、三菱、貝島太助、安川敬一郎などが鉱区を獲得し、大手資本による石炭産業の機械化・近代化が開始された。このころの出炭高は80万トン弱だったが、日清戦争による需要増大もあり、明治25年に100万トンを、28年には200万トンを突破した。出炭量の全国に占める割合も、明治20年には24%だったのが27年には40%、30年には53%に達した。

一方、このような筑豊の炭鉱業の発展を支えたのが鉄道での輸送である。明治5年、横浜に日本で初めて鉄道が敷かれるとき日本各地で鉄道が建設され、明治24年に北九州には門司を起点に北九州を横断する九州鉄道、遠賀川沿いにも筑豊興業鉄道が直方—若松間（25km）で開業した。初年は輸送量71万5000トンのうち鉄道を利用したのは1万8000トンとわずかだったが、26年には嘉穂郡・田川郡まで線路を延長した。当時の筑豊興業鉄道の路線は現在のJR筑豊本線・平成筑豊鉄道伊田線の一部として残っている。また、田川採炭株式会社を母胎とした豊洲鉄道も明治28年に行橋—伊田間に開通し、翌年後藤寺まで延長され、田川中央部の石炭輸送の道が開かれた。27年に始まった日清戦争による石炭の需要増大により、筑豊興業鉄道による石炭の輸送量が増加し、29年にはほぼ水運と均衡するまでになった。さらに輸送費も川ひらたの6~7割と優位であった。同時に門司港や若松港といった港の整備も

行われ、筑豊の石炭を門司港へ輸送する九州鉄道、遠賀・鞍手・嘉穂の石炭を若松港に輸送する筑豊工業鉄道、嘉穂・田川郡の石炭を宇島・門司港に輸送する豊洲鉄道、田川・嘉穂の石炭を小倉港へ輸送する小倉鉄道など、筑豊炭田と各港湾を結ぶ濃密な輸送網が整備された。反面川ひらたは衰退の一途をたどり、水運の比率は明治40年には17%まで低下、大正14年に消滅した。

明治43年、三菱の方城炭鉱と三井の田川炭鉱で工事が進められていた新豊坑が完成した。この豊坑は煉瓦で壁を築き、鋼鉄製の櫓によって昇降機を支える欧米炭鉱の最新技術を取り入れ、深部炭層の効率的な採掘を可能にした。翌44年には官営八幡製鉄所の原料部門である製鉄所二瀬出張所でも完成した。このような設備は官営や三菱・三井のような巨大資本でなければ投資できないものだった。これをもって筑豊炭田は黄金期に入り、日露戦争期には出炭高580万トンだったのが、大正2年には1000万トンを超え、三菱・三井に集中し、地場資本では安川・貝島が優位で麻生・蔵内・伊藤がこれに次ぎ、その他はおおむね消滅するなど、特定資本への集中が進んだ。大正3年には前年の1000万トンで需給のバランスが崩れ、また第一次世界大戦の勃発により国内需要の減退・外国船の東洋への来航の減少のため出炭高を制限し、出炭高は後退した。しかし大正5年に入ると戦時景気の到来により制限は撤廃された。大戦期間中、炭価は3倍強になり、大正8年には出炭高は1200万トンを超えた。戦時景気により生産を拡大していた筑豊炭田だが、大正9年に戦後恐慌が始まると、石炭需要は減少し炭鉱の休閉山が相次いだ。撫順や北海道、常磐などの新銅勢力の台頭もあり、筑豊では中小炭鉱は閉山、大手も非能率坑を休止するなど合理化が図られた。この結果大正8年には182あった坑は昭和元年には99に、労働者数は3割強減少した。使用する道具も「つるはし」や「のみ」からピックやカッター（載炭機）、オーガー（穿孔機）に移り変わり、排水のためのポンプも蒸気から電力へ、運搬装置としてコンベヤーが導入されるなど人力に依存した工程を排除していく。これにより、出炭高自体はピーク時と同程度の規模を保っていたが、労働者数は昭和6年には元年の半分である5万人に減少し、失業問題を生むなど労働者に大きな負担を敷くものだった。このような状況下で労働運動が高まりを見せ、争議が頻発した。

炭鉱での労働は過酷なだけでなく、大きな危険を伴うものであった。明治32年に発生した豊國炭鉱での210人の死者を出したガス爆発を皮切りに、40年には同炭鉱でガス引火による炭塵爆発で346人が死亡、42年の桐野炭鉱のガス爆発では259人が死亡するなど、大規模な事故が相次いだ。特に、大正3年の三菱方城での事故は日本最大の炭鉱事故で、公式記録で671人が死亡している。ガス爆発の他にも石炭火災、出水などの大規模なものから、小規模ながら最も多発した落盤のようなものまでさまざまな危険と隣り合わせであった。

また、特に大規模な炭鉱では目先の利益を追求する傾向にあったため、経費を惜しんで必要な対策をとらなかったため土地の陥没や不毛化、鉱毒水による汚染などを引き起こした。さらに、これらに対する補償も十分なものではなかった。

昭和6年、満州事変が勃発し、金輸出再禁止が行われ不況から脱出する転機となった。翌年になると軍需が増加し始め、石炭鉱業も炭価が値上がりし回復が始まった。

## 参考文献

永末十四雄『筑豊 石炭の地域史』、NHK ブックス、1973年

田中香子、岩尾詠一郎、苦瀬博仁『筑豊炭田における石炭輸送手段と輸送物資の変遷に関する研究』、第38回土木計画学研究発表会、2008年

<https://zousen-shiryoukan.jasnaoe.or.jp/wp/wp-content/uploads/funeisan/04/08-02.pdf>

畠岡寛、田中邦博、市川紀一、亀田伸裕『筑豊炭の運炭機構の形成に関する史的研究』、土木史研究 第22号、2002年

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalhs1990/22/0/22\\_0\\_149/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalhs1990/22/0/22_0_149/_pdf/-char/ja)

## 筑豊三都：直方・田川市の産業

### ～第二次世界大戦中～戦後の転換 そして現代～

77回生 石戸慎之助

今回は筑豊三都の産業について大きく三つの時代区分に注目して論じていく。

- ( i )満州事変後、戦間期の軍需産業
- ( ii )戦後、変化する需要と高度経済成長期
- ( iii )現代にいたるまでの変化

筑豊炭田が開発され始めた江戸中期から戦前までの変化は大月(77回生)が担当した。

長きにわたり栄えてきた筑豊三都ではあったが大正9年第一次世界大戦の戦後恐慌に見舞われ、中小炭鉱の閉山、大炭鉱の能率化により昭和六年には労働者・坑ともに数を半分以下にまで落とした。また炭鉱での労働は過酷で度々死者が出るほどに危険と隣り合わせであった。また、特に大規模な炭鉱では目先の利益を追求する傾向にあったため、経費を惜しんで必要な対策をとらなかったため土地の陥没や不毛化、鉱毒水による汚染などを引き起こした。さらに、これらに対する補償も十分なものではなかった。結果、失業・労働環境をめぐり労働運動が高まりを見せてきていた。

#### ( i ) 満州事変後、戦間期の軍需産業

ところが昭和6年満州事変が勃発しこの軍事・社会政策費の赤字公債の増加によって政府は金輸出の禁止を決めた。これにより日本国内全体の産業が回復に向かっていった。しかし同

時に軍国主義思想が政治中枢にまで浸透していき産業・資源・労働力の統制がなされた。筑豊石炭工業会もこの流れに従わざるを得なくなっていく。

満州事変以降、日本の石炭政策は増産体制の強化・配炭機構の整備の二つを進めている。日本国内の産業全体が盛り上がり、石炭需要が増加する中、期待されていた外地炭だが樺太炭は輸送上に隘路があり満州炭は現地における重工業の発展により需要が増大し輸出力に欠き日中戦争で接収した華北の炭は炭鉱が整備の段階でありまかないきれなかった。すでに増産をはじめ限界が見えていた筑豊・北海道の炭鉱は基礎物資の統制で資材が不足し昭和14年の炭価引き下げ命令により増産意欲がそがれていた。また日本ではすでに余すことなく労働力が使用されていたにもかかわらず労働力不足に陥っていた。昭和12年日中戦争が勃発すると炭鉱従業員の3.8%筑豊では4%にあたる2401人が応召した。すでに軍需工場の増員の影響を受けていた筑豊石炭鉱業会は福岡県に労働時間の延長緩和と朝鮮人労働者の誘致を陳情した。しかし取られた対策は軍需労務要員募集の停止と就業時間の二時間延長であった。この労働強化に合わせて思想統制を行う準戦時的な労働統制策がすでに始まっており九州鉱夫組合は日本無産党に検挙され筑豊炭田の労働運動は壊滅する。こうして大手炭鉱の能率化は歯止めが利かなくなり勤労報国隊や女子年少労働者の動員が行われた。こうして昭和15年の生産実績は99%の5736万トンを達成したが、その伸び600万トン目標であった大手炭鉱に限れば350万トンと人数に対し少ない。未熟練者の注入による質的な著しい低下が表れている。<sup>1</sup>

また石炭は産業への需要と同時にガス化が進んでも家庭用・浴場用など大衆生活に大きな影響を持っていた。しかし先述の通り国内生産が追い付かず、単価の引き上げと粗悪炭の横行が起きた。

さらに昭和19年記録的渇水に見舞われ火力発電用炭の需要が急増したが供給が追い付かず電力飢餓が生じた。電力会社は検炭をやめやみくもな確保に走ったがボタが混入した「モエン炭」「スフ入り炭」の納炭が社会問題となった。特に若松・直方・飯塚ではひどいものであった。このような無法者が横行したことにより品質の統制・価格の規制が進まずにいた。そこで昭和14年中央物価委員会特別部会は「石炭対策要綱」を答申した。内容は主に三つ

- ・特別会社を設立し石炭の一手買入一手販売による配給の一元化
- ・プール価格制の導入
- ・石炭規格の統一単純化、規格販売制の実施

これに問屋が死活問題である一手買入一手販売に猛反対し、実際の配給を従来の業者が行うことである。

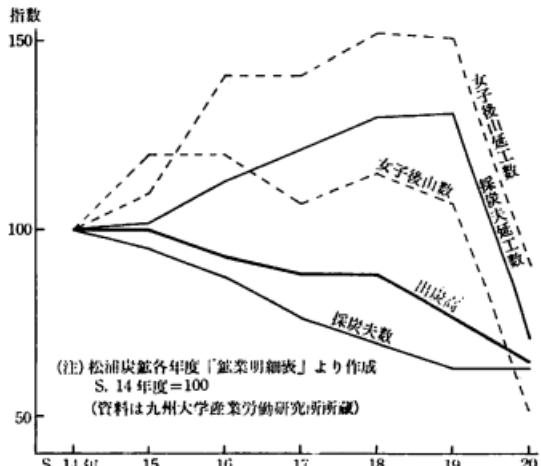
「石炭配給統制法」が施工されることとなった。

こうして筑豊三都は能率と品質を落としながら石炭産業に全てを動員していった。

---

<sup>1</sup> 図1

図 1

第4図 松浦炭鉱における採炭夫、女子後山、  
延工数、出炭高各指數の推移

## (ii) 戦後、変化する需要と高度経済成長期

昭和 20 年日本はポツダム宣言を受諾し、法・経済・大衆のすべてが一変した。筑豊炭田も例外ではなく鉱山の国有化をめぐる問題・労働者組合の運動・失業問題など様々である。まず終戦直後、鉱山経営自体が壊滅的な状況に陥った。抑圧から解放された二万人もの朝鮮人労働者が労務はおろか紛争を起こしだし、また短期労働者は帰郷し一般労働者も退山帰農する者が続出、筑豊を含む九州の鉱山労働者は終戦時の二分の一にまで激減した。さらに 9 月 17, 8 日の枕崎台風により筑豊では 120 坑が水没、これにより出炭量は 11%、能率は 15% にまで低下した。このような事態が北海道や北九州全体で起こっていたが、石炭無くては生産はおろか産業から大衆の生活まで麻痺してしまう。政府は「炭鉱労働者緊急充足実施要綱」を定め特別配給などを行い、占領軍は石炭増産を指針とする。また民主化改革の一環である「労働組合法」が公布され筑豊でも戦前の地盤を中心とし九州地方鉱山労働組合が結成された。インフレ・食料難による生活不安、過酷な弾圧下による労働環境からの解放から団体交渉権・賃金引き上げを求めるストライキが頻発した。そして昭和 22 年業界は日本石炭鉱業会を創設し一応の新たなスタートを切った。食糧問題を GHQ の優先配給により解決しながら全国 200 万トン/月にまで乗ることができた。ただこれは第一次世界大戦前の水準にしか達しておらず生産の全面再開には到底至らなかった。政府は鉄鉱・石炭に集中する「傾斜生産方式」をとる。食糧や住宅を用意し 24 時間作業体制を整備、経営者の手に負えなくなっていた労働組合の対策に能率賃金制を採用・時間や労働環境の就業規則の厳守による職場秩序の回復に徹した。こうして昭和 22 年には目標の全国 3000 万トン/月を達成した。

しかしこうした政府の多額な援助・優遇により成了した炭鉱や主要産業の国有化を掲げる社会党が同年 6 月第一党となる。増産政策のうちどめとはならなかったものの GHQ・保守派との折半案である「石炭非常増産対策要綱」が作成された。これは妥協の産物ではあったが

業界、特に私企業的側面の強い中小企業が猛烈な運動を開始した。中でも筑豊の炭鉱主は代議士を通じ内部から切り崩しを行うなどあらゆる手段を尽くした。結果法案は3年間の期限立法として成立し経済社会化の企図は頓挫した。この件で組合は石炭鉱業の自立性を擁護したと評価され存在感を発揮した。

米ソ冷戦の激化につれ日本を反共をするため経済的自立を目指すGHQは3600万トン/月の増産政策を炭鉱業に示したがこれにも組合は反発した。しかしGHQは反共のための経済促進に関しては強硬な姿勢をみせ特別配給を停止、さらに23年12月の「経済九原則」の賃金安定策を指示した後は炭鉱ストを否認、結果25年には石炭国家統制が廃止され労働者が配置転換されていった。さらに28年には過剰貯炭の増加による価格の下落に加え国内産業に軍需をもたらしていた朝鮮戦争の終結による不況が重なり多くの中小炭鉱が閉山した。筑豊でも動乱ブームであった26年と比べて29年の炭鉱労働者数は12万→3万にまで減少した。

そしてこの当時石炭のエネルギー市場の独占的地位も変化してきていた。石油は戦中戦後の海外市場を閉ざされていた時と違い27年に炭価引き下げの狙いもあり統制を解除した。この石炭危機を打開すべく業界は長年培ってきた政治力を駆使し30年に「石炭鉱業合理化臨時措置法案」「重油ボイラーレギュレーション法」を作成した。前者は大手炭鉱の能率化を進めかつ非能率炭鉱を買い上げ制限し生産コストを20%抑え輸入エネルギーとの競合力を高めるもの後者は原重油関税を復活させ石炭を保護するものである。もちろん中小炭鉱の失業を免れられないこの法案に労働組合は反対したが世論がコストの面とこれまでの電気・石炭ストに対する恐怖から法案を支持し成立に至った。この当時もはや石炭労働工業組合には力はなく大手による炭鉱のスクランプ・アンド・ビルトと「炭主油従」が業界を動かしていった。しかしこれも長くは続かず37年に中東で大規模油田が次々と発見され石油がエネルギー市場の第一党に躍進した「エネルギー革命」が起きる。これには「炭主油従」も持たず石炭鉱業は産業から姿を消していく。

しかし案の定この政策によって失業者大量に現れる。34年には筑豊の炭鉱離職者かつ求職者のものは23706人にのぼり買い上げからほとんどの失業者が放置されていることが分かった。彼らの居住地域は「文明の中の僻地」と呼ばれ、田川郡の閉山地域の中学校では35%の児童が欠食児童であった。その状況下福岡では共同飢餓の赤い羽根に倣い、生活防衛運動「黒い羽根運動」が始まった。この運動は世論の同情を集め「炭鉱離職者臨時措置法」の成立に至った。

---

(iii)今回地理歴史研究部の活動 巡査にて現在の直方・田川市を訪れた。日本の石炭鉱業はいまや北海道の「釧路コールマイン」という炭鉱で100万トン/年の産出のみと産業から姿を消した。そんな現代、筑豊三都の産業や石炭産業からの転換期について巡査でわかったことをまとめておく。

## 参考文献

永末十四雄『筑豊 石炭の地域史』、NHK ブックス、1973年

### 4-2. 直方市石炭記念館



4-3. 田川市石炭・歴史博物館，石炭記念公園，旧三井田川鉱業所，伊田堅坑櫓，伊田堅坑第一・第二煙突

田川市石炭・歴史博物館



石炭記念公園



伊田堅坑櫓



伊田堅坑第一・第二煙突



# 菅原道真 下

七十七回生 佐藤智成

## 一. はじめに

「菅原道真 下」では道真の、左遷され大宰府で過ごす時代についてみていきます。

## 二. 大宰府での生活

### 離ればなれになる父子

左遷を告げる宣命を勅使が読み上げてからというもの、親子は呆気なく離ればなれになってしましました。道真は大宰府、高視は土佐、景行は駿河、兼茂が飛騨で、左遷の除目記されない淳茂は都で学問に励むことになっており、五ヶ所に分かれてしまったのです。

### 齊世親王は出家

また道真が大宰府へ向けて出発した翌日、醍醐天皇の弟で道真の女婿の、齊世親王が仁和寺で出家しました。道真左遷に縁坐したのでしょうか。九二七（延長五）年に四十二歳で没しました。

道真の娘との間に、源 英明（生年未詳～九三九）という男子がいます。英明は、九二七年に蔵人頭に補されるも官職は上がらず、不遇を託しながら四十歳に満たずして没しました。漢詩に優れ、『扶桑集』に残る橘 在列との二十余首の贈答詩は著名です。

## 大宰府への道

道真の道中は詳しくは分かりません。のちに大宰府で詠んだ「らくてん樂天が「ほくきょう北窓の三友」の詩を詠む（後集、四七七）には次のようにあります。

### [白文]

とさま 行きゆ 行きかうさま 雲はるばる	東行西行雲眇眇
きさらぎやよひ うらうら	二月三月日遲遲
ちようくわん はいご ちぶん	重閨警固知聞斷
たんしん しんさん まれ	单寢辛酸夢見稀
はくい したが へだた	山河邈矣隨行隔
あわざん みち あ	風景黯然在路移
たひらか たくしよ いた とも は	平致謫所誰与食
しうふう きだ な	生及秋風定無衣

### [書き下し文]

### [口語訳]

あちらへ行きこちらへ行き 雲は遙か（に流れ）

如月弥生と（春の）日は長閑（に照る）

幾重にも守りを固められ 消息も絶えた

独り寝は辛く 夢を見ることも稀である

（故郷の）山や川は遠く遙かに 進むにつれて離ればなれになる

（道中の）景色は薄暗く 道すがら移り変わる

無事に左遷先に辿り着いても（子供達は）誰と食事を共にするのか

秋風が吹く頃まで生きることが出来ても（彼等に綿の入った）衣装はきっとないだろう

### [解説]

雲があちらこちらに漂い、長閑な二月三月に道真は大宰府へ向かいました。警護が厳しく音信も絶え、独り寝は辛く夢すら見ない。都の景色は遙か遠くに去り、道中の風景も暗然としています。

平穡に大宰府へ到着しましたが、息子を案じようにも、想像に任せるとかありません。「無事

に着いただろうか？」「食事も一人で取るのだろうか？」「元気でいるだろうか？」「冬の衣装は？」手を差し延べるどころか、自分の存在ゆえに苦境に<sup>おちい</sup>陥っているのだと分かっていればいるほど、自責の念が<sup>ざわ</sup>募ります。

## 大宰府に到着

大宰府で人生を振り返り詠んだ二百句にも及ぶ長編・「叙意一百韻（後集、四八四）」でも道中が詠まれていますが、ここでは大宰府に到着した場面を挙げましょう。

### [白文]

税駕南楼下	駕を税く 南樓の下
停車右郭辺	車を停む 右郭の辺
宛然開小閣	宛然も小閣を開くがごとく
覗者満遐阡	覗る者 遐阡に満つ
嘔吐胸猶逆	嘔吐して胸は猶ほ逆ひ
虚労脚且摩	虚労して脚も且摩えにたり

### [口語訳]

馬車から馬を解き放って (大宰府の) 南樓の下 (で休ませる)

馬車を (大宰府の) 右郭 (=大路の西側) の辺に停めて (降りる)

ちょうど小さい門の出入口を開いたように

(何事ぞと) のぞき込む者が遙かに続く南北の道にいっぱいになる

(その度毎に) 嘔吐しても胸はやはりむかむかするし

衰弱して脚もまたよたよたとしてしまった

### [解説]

大宰府に到着した道真を見物するかのように、大勢の人が大宰府の通りに満ちていました。

道真の左遷は、大宰府の人々に恰好の話題を提供したようで、道真是好奇な目に曝され、嘔吐を催すのです。

到着した際に好奇の視線に曝された道真でしたが、九州の地はあまりに都とは違っています

た。「叙意一百韻」にはまた、「殺傷」に軽々しく手を下し、「群盜」が肩を並べている様子、米を商売する「貪婪」者（=欲深な商人）、「行濫」（=偽物）の綿を売る者など、商売のあくどさを描いた部分があります。道真は土地の風俗や習俗に慣れようとしていますが、なかなか難しいようです。

## 道真の親族

官途についていた道真の息子は、道真同様左遷されましたが、幼い子どもたちは道真に従つて大宰府に下っています（「少き男女を慰む」（後集、四八三・『本朝文粹』卷一、一七））。しかし、九〇二（延喜二）年の夏・秋頃、一人が夭折しました（「秋の夜」（後集、五〇三））。

一方、都に留まった道真の親族がどれだけ居たかは不明です。先に触れました、淳茂ものちに都から離れています。都から届いた手紙によると、「妻」（島田宣来子？）と他に「子」が残っていたらしいです（「家書を読む」（後集、四八八））。

## 延喜改元

さて、道真の漢詩・「開元の詔書を読む」（五言）（後集、四七九）をみてみましょう。

### [白文]

読開元詔書（五言）

### [書き下し文]

開元の詔書を読む（五言）

### [口語訳]

改元の詔書を読む（五言）

### [解説]

九〇一（昌泰四）年七月十五日、年号が「延喜」と改められました。その詔書を大宰府の地で読み、感慨を記した古調詩です。

### [白文]

開元黃紙詔

### [書き下し文]

開元の黃紙の詔

延喜及蒼生

延喜は蒼生に及ぶ

一為辛酉歲	一つは辛酉の歳の為になり
一為老人星	一つは老人星の為になり
大辟以下罪	大辟以下の罪
蕩滌天下清	蕩滌して天下清めり
省徭優壯力	徭を省きて壯力を優し
賜物恤頽齡	物を賜ひて頽齡を恤れびたまふ
茫茫恩德海	茫茫たる恩徳の海
独有鯨鯢橫	独り鯨鯢の横る有り
〈具見于詔書。〉	〈眞に詔書に見ゆ。〉
此魚何在此	此の魚 何ぞ此に在らん
人道汝新名	人は道ふ 汝が新しき名なりと
舟非我口	舟を呑むは我が口に非ず
吐浪非我声	浪を吐くは我が声に非ず
哀哉放逐者	哀しきかな 放逐せらるる者
蹉跎喪精靈	蹉跎として精靈を喪へり

### [口語訳]

改元を記した黄色の詔書

延喜の年号が民衆に行き渡る

改元は今年が辛酉の年のためであり

昨年老人星が出現したためである

死刑以下の罪を

洗い清めて国中が清々しい

労役を軽減して若者を勞り

物を与えて老人に情けを掛けなさる

遙かに広がる恩徳の海に

一匹の鯨が泳いでいる

〈これらの言葉はすべて詔書に見える。〉

この魚はどうしてここにいるのだろう

人は言う お前の新しい名前だと

船を飲み込むのは私の口ではない

波を吐き出すのは私の声ではない

悲しいことよ 追放された者は

志こころざしを得ないまま心なみを失くしてしまった

### [解説]

道真が読んだこの詔書は、現在「去歳の秋、老人は寿昌の耀じゅしょうきを垂れ、今年の暦、辛酉しんゆうは革命の符ていを呈す。」(『大日本史料』延喜元年七月十五日条所収『革命』)という部分しか残っていません。つまり、天下安泰てんかあんたいを示す老人星(=竜骨座のアルファ星カノープス)が前年秋に出現し、今年は天命が改まる辛酉かのととりの年だということが、改元の理由として記されていたわけですが、『扶桑略記』は「逆臣並びに辛酉革命に依る」と説明しており、それを裏付けるのがこの詩です。

「辛酉革命」は文章博士もんじょうはかせであった三善清行が積極的に主張した説で、特に道真左遷の約一ヶ月後(=二月二十二日)に朝廷に提出した「革命勘文」(『群書類従』第二十六輯)に詳しく述べられています。これは史料操作まで行って辛酉革命説による改元の必要性を述べたものですが、その理由として「辛酉革命」「彗星」「老人星」を挙げた後、辛酉革命とは無関係な「称徳天皇しょうとくてんのうが天平神護てんびょうじんごと改元した(七六年正月七日)」ことを取り上げます。「逆臣」・藤原仲麻呂ふじわらのなかまろを誅滅ちゅうめつしたことが天平神護改元の理由であると清行は見做しており、道真は反逆者・仲麻呂と同一視みなされていました。左大臣・藤原時平宛ときひらあての書状(『本朝文粹』卷七、一八八「左丞相に奉る書」)の中で、清行が道真を「悪逆の主」と呼んでいるのも、これで納得できます。

結果、清行の意見が採用される形で改元が行われ、左大弁・紀長谷雄の選んだ「延喜」が新年号となりました。

逆臣・仲麻呂を念頭に置いて記された詔書の中で、自らを怪魚・「鯨鯢げいげい」と名指しされた道真是、左思「吳都賦」(『文選』卷五)の「長鯨は航を呑み、脩鯢は浪を吐く」の句によって、「舟を呑むは我が口に非ず 浪を吐くは我が声に非ず」と反論します。「鯨鯢」とは鯨くじらのことで、「鯨」が雄、「鯢」が雌めずです。大魚で、小魚を呑み食べることから、不義の人・大悪人に例えま

す。つまり道真は、逆臣ではないと無実を主張したのです。

しかし改元に伴う恩赦に漏れた身では、「鯨魚は流れを失ひて蹉す」（『文選』卷二・張衡「西京賦」）を意識して詩を結ぶ位のことしかできませんでした。

## 大宰府の生活水準

道真は大宰府で、どの程度の生活水準を保障されていたのでしょうか。

左遷された年に藤原清貫が現状視察に立ち寄った際、実質上のトップであった大宰大式・小野葛絃から「大宰権帥の処遇に相応しくない」という批判の声が出ており、決して満足のゆくものではなかったようです。

加齢とストレスも考慮する必要がありますが、後集、四八四「叙意一百韻」が道真の生活水準を考えるヒントになりそうです。

長雨のために湿気がちで

竈の火も絶えてしまった

釜の中には魚が住み着き

階段の敷瓦では蛙が喧しく鳴いている

百姓の子が野菜を持ってきたので

台所で子供が薄味のおじやを作る

痩せた体は連れ合いを亡くした鶴のようで

飢えた姿は雛鳥を脅かす鳶に似ている

(中略)

世間とはますます隔てられ

家からの手紙も届かない

帶が弛み紫色の上着が色褪せるのに泣き

鏡を見れば白髪頭が嘆かわしい」

この詩から、ろくに炊事もできないので、げっそり巣れた姿が窺えます。

## 仏に救済を求める

今度は、道真の「雨の夜（後集、五〇〇）」という詩を読みましょう。

### [白文]

雨夜 〈十四韻〉

### [口語訳]

雨の夜 〈十四韻〉

### [解説]

九〇二（延喜二）年春、大宰府で暮らし始めてから二年目を迎える時期に作られた詩です。

### [白文]

### [書き下し文]

春夜漏非長	春夜 漏 長きに非ず
春雨氣応暖	春雨 氣 暖かなるべし
自然多愁者	自然に愁へ多き者に
時令如乖狠	時令も乖き狼れるが如し
心寒雨又寒	心寒ければ雨も又寒し
不眠夜不短	眠らざれば夜も短からず
失膏槁我骨	膏を失ひて 我が骨を槁らす
添涙渢吾眼	涙を添へて 吾が眼を渢かす
脚氣与瘡癢	脚氣と瘡癢と
垂陰身遍満	陰を垂りて 身に遍く満つ
不啻取諸身	啻 諸を身に取るのみならず
屋漏無蓋板	屋さへ漏りて 蓋はむ板ぞ無き
架上湿衣裳	架上に 衣裳を湿し
篋中損書簡	篋中に 書簡を損ふ
況復廚児訴	況復んや 廚児の訴へんや
竈頭爨煙断	竈頭に爨煙断えにたりと

農夫喜有餘	農夫 喜び餘り有るに
遷客甚煩惱	遷客 甚 <sup>はなはだ</sup> しく煩惱す
煩惱結胸腸	煩惱 胸と腸に結れ
起飲茶一盞	起きて飲む 茶一盞
飲了未消磨	飲み了れども消磨せざれば
燒石溫胃管	石を燒きて胃管を温む
此治遂無驗	此の治 遂に驗無ければ
強傾酒半盞	強ひて傾く 酒半盞
且念瑠璃光	且つ瑠璃光を念じ
念念投丹款	念念 丹款を投す
天道之運人	天道の人を運すこと
不一其平坦	一に其れ平坦ならず

### [口語訳]

春の夜は 時間が 長いのではない  
 春の雨は 時節柄 暖かいはずだ  
 (だが) おのづと愁いの勝る者には  
 時候も (摂理に) 背を向け拗けてしまったようだ  
 心が寒いと (暖かい春の) 雨もまた寒く (感じられ)  
 眠らないと (短い春の) 夜も短くない (ように思われる)  
 脂肪をなくして わが骨を枯らし  
 涙を加えて わが眼を鈍らせる  
 脚氣とできものと  
 陰の気を齎して (症状が) 体中に満ちあふれる  
 ただ (自分の) 身について (述べる) だけではない  
 屋根まで雨漏りして 覆おうと思ってもしかるべき板も無い  
 衣掛けの上では (雨が) 衣服を濡らし  
 箱の中では (雨が) 手紙を破損する

まして 炊事係の訴えることには

竈の辺りに飯を炊く煙が絶えてしまいました（雨漏りで炊事もできません）と

農民は（雨が降って）大喜びしているのに

左遷された旅人は ひどく煩悶（=思い煩うこと）している

煩悶は胸と腸に凝集し

（苦しいので）起き上がって一杯の茶を飲む

飲み終えても（苦しみが）なくならないので

石を焼いて（懷に入れ）胃を温める

この治療法 結局は効果がないので

無理に呷ったのは 盂 半分の酒

また薬師如来を思い

片時も 真心を尽くす

（それにしても）天の人の動かし方は

本当に平らかではない

### [解説]

短い春の夜、穏やかに雨が降ります。ところが、道真には長い夜に降る冷たい雨としか感じられませんでした。思い悩むあまり疲れぬ日々を過ごす身には、雨、しかも夜中の雨は更に気分を沈ませるだけだったので。しかも五十八年の年月を重ねた身体は衰れ、眼は霞みます。

この時道真が苦しめられた脚氣とできものは、昔からの持病でした。十二年前の八九〇（寛平二）年、讃岐守任期満了に伴って讃岐から帰り、自宅で療養していた時の詩（文草、巻四、三二五「病に依りて閑居し、聊か懐ふ所を述べ、大学士に寄せ奉る」）によれば、足にお灸を据え、頭にできものができていたことが分かりますが、そこでも「地方暮らしの苦勞で持病が悪化した」といっています。さらに大宰府では肉体の衰えと心労が加わり、不眠症・胸焼け・胃のむかつき・手足が思うように動かないなどの身体症状となって現れました。寝返りを打つうちに夜が更け（後集、五〇三「秋の夜」）、燈が消えるまで書を読み耽り（後集、五〇八・五〇九「燈滅ゆ、二絶」）、長い長い夜を過ごしたのです。

雨の被害は身の回りにも及びます。破損した屋根は修理せずに放置されたままなので、掛け

てあった服も仕舞っておいた手紙も濡れてしまいました。鎌倉時代の『北野天神縁起（承久本）』において、その建物は柿葺きの屋根に鶯が延びる姿で描かれるように、道真が住んだ「南館（現在の榎社）」は廃屋同前の荒ら屋であるという暗黙の了解があります。実際、「叙意一百韻（後集、四八四）」でも建物や庭の荒廃ぶりに言及しており、長い間使われていなかつたことだけは確かなようですが、考古学の見地からすれば、メーンストリート沿いで水捌けの良い一等地だったそうですから、文学的誇張まで鶴呑みにすることは避けたいものです。

「雨の寒暖も夜の長短も心次第」「被害を受けたのは体だけではない」「百姓は雨が降って喜んでいるのに」「酒を無理に呷る」といった口振りは、自分の身に降り掛かった悲惨な事態をどこか客観的に見ているように思えます。しかも、炊事ができないのを雨漏りのせいにしていますが、本当は食料事情そのものがあまり良くなかったようなのです（後集、五〇七「風雨」）。その事実を伏せて雨の所為にしたところに、奇妙な明るさがあります。

豊作の源である雨を待ち望む農民を余所に、雨の音を聞きながらひとり苦しむ道真は、消化器の不調に耐えかね、横たえていた体を起こします。そして、茶を飲み、焼いた石を懐炉代わりに懷に入れ、陸に飲めない酒を鬱憤晴らしに呷り、何とか症状を抑えつけようとしていますが、一向に効果がありません。そこで『薬師経』を唱え、薬師如来に救済を求めます。

道真は昔から仏教に帰依していましたが、延喜改元詔書において大罪人と名指しされ、帰京の望みを断たれてからというもの、重陽も正月も関係なく仏道修行を続けていました（後集、四八一「九月九日の口号」・後集、四九四「歳日の感懷」）。次第に精進生活に入っていましたことは「叙意一百韻（後集、四八四）」でも窺えます。

『菅家後集』の詩において、道真は仏に自分の苦しみを除いて欲しいと述べます（四九一「寺鍾を聴く」・五〇六「晩に東山の遠寺を望む」）。災いからの救済を司る觀世音菩薩に帰依していた事を考え合わせると、最期まで生きることに固執した道真が望んだのは、苦しい現実からの脱却だったのでした。最終句の「天は随分人に波乱含みの人生を歩ませるものだ」という苦々しい響きにも、病身を抱えて苦悶する日々からどうにか救われたい気持ちが反映されており、やはり現世での救済を願ったものと思われます。

## 月に自分を重ねる

さて、「秋月に問ふ（後集、五一〇）」をみてみましょう。

### [白文]

### [書き下し文]

問秋月 秋月に問ふ

### [口語訳]

秋の月に尋ねる

### [解説]

九〇二（延喜二）年秋の作です。

### [白文]

### [書き下し文]

度春度夏只今秋 春を度り夏を度り 只今は秋なり

如鏡如環本是鉤 鏡の如く環の如くにして 本は是れ 鉤なり

為問未曾告終始 為に問ふ 會つて終始を告げざるに

被浮雲掩向西流 浮雲に掩はれて西に向かひて流るるかと

### [口語訳]

（秋の月よ）（そなたは）春を渡り夏を過ぎ 只今秋（に辿り着いた）

（秋の月よ）（そなたは）鏡のように輪のように（丸くなるが） 元々は釣り針（のように細かった）

（秋の月よ）ちょっとお聞きするが 今までに一度も進退終始の循環して止まらぬ運行を誤ったことはないはずなのに

（今は）浮き雲に覆われて西に向かって流れているのか

### [解説]

夜空に浮かぶ月は、丸くなったり細くなったり満ち欠けを繰り返し、季節の推移を絶えず私達に告げます。しかしふと上弦の月を見遣ると、黒い薄雲に見え隠れしながら西へ押し流されているではありませんか。道真にしてみればその様子は、予想だにしない嫌疑を掛けられて突如西府へ追いやられた自分の姿と重なるようでした。

不意に問いかけられ、さて明夷の月は何と答えたのでしょうか？

続く「月に代りて答ふ（後集、五一一）」をみてみましょう。

[白文] [書き下し文]

代月答 月に代りて答ふ

[口語訳]

月に代わって答える

[解説]

直前の「秋月に問ふ」で道真が投げかけた問い合わせを受け、月が答えた詩です。無論天体が人間と対話する筈はずがありませんから、道真自身が月に成り代わって答えを返しています。

[白文] [書き下し文]

眞発桂香半且円 薦は発き 桂は香り 半ば円ならんとす

三千世界一周天 三千世界 一たび天を周る

天廻玄鑑雲将霧 天は玄鑑を廻せ 雲將に霧れんとす

唯是西行不左遷 唯 是れ西に行くのみ 左遷ならじ

[口語訳]

(月に呼びかける人よ) (私の世界〈=月〉では) こよみぐさ (=中国の古くから伝わるめでたき草で、生え変わりによって月日の変化を知ることができる。一日に一枚の葉が生じ、月の半ばの十五日で十五枚の葉が揃って、十六日目から毎日一枚ずつ葉が落ち、晦日〈=三十日〉にすべて無くなる。もし日数が少ない月の場合は一枚葉が残り、落ちることがない) が花開き 桂 (=古代中国の伝説で、月の中に生えているという、高さが五〇〇丈〈=約一五〇〇メートル〉の木) が香り 半月になろうとしている

(月に呼びかける人よ) (私は) 数多の世界からなる広大な天を一周する

天は深遠なる鏡を廻らせ (私を覆う) 雲は晴れようとしている

ただ西に行くだけだ 左遷ではない

## [解説]

月には桂の木が立ち、こよみぐさが一日に一枚ずつ葉を生やしながら満月へのカウントダウンを始めています。

そしてもうすぐ半月というところ。仏教では全宇宙は三千もの世界から成ると言いますが、その広大な海を、舟は緩やかに周遊します。

やがて満月を迎えると、月は天の鏡となって、世界を隈なく照らし出します。その時、月に纏わり付く黒雲とて雲散霧消するはず。それにもかかわらず、何度満月が来ようとも、己が背に課せられた「左遷」の名が間違いであったと明らかになる機会は訪れません。月が西へ流れるのはごく有り触れた光景に過ぎず、遷客にとって、同病相憐れむどころか何の救いにもならないことが明らかになっただけでした。

最終句「唯是西行不左遷」の主語は誰か、二種類の説があります。一つは「たまたま西へ向かっただけだ、(この旅は) 左遷ではない」と、道真の叫びと見るもの。もう一つは「たまたま西へ向かっただけだ、(あなたと違って) 左遷ではない」と、月の冷淡な回答と見るもの。月の代返という構成を重視すると、やはり月が発話の主体となるのでしょう。そして「同じく西に行くけれど、君の仲間などではないよ」という冷酷な回答まで見通した上で詠み始めたような気がしてなりません。

## 故郷への思い

「たつきよ謫居の春雪 (後集、五一四)」を読みましょう。

### [白文] [書き下し文]

謫居春雪 謫居の春雪

### [口語訳]

左遷先での春の雪

### [白文] [書き下し文]

盈城溢郭幾梅花 城に盈ち郭に溢るるは 幾ばくの梅花か

猶是風光早歲華 猶ほ是れ風光早歲の華なり

雁足粘將疑繫帛 雁の足に粘り將ては 帛を繋けたるかと疑ひ

鳥頭点著思歸家 鳥の頭に点著じては 家に帰らんと思ふ

### [口語訳]

政府に満ち外壁に咲き溢れるのは どれほど多くの梅の花なのだろう

やはりこれは風に揺られて光る年の初めの花なのだ

雁の足にねばりついている（のを見る）と （漢の蘇武が都への）手紙を結びつけたかと疑われ

鳥の頭に点々とついている（のを見る）と （燕の太子丹のように）家へ帰れるのだと思う

### [解説]

この詩は雪を詠んだものでありながら「雪」や「白」などの文字を使っていないところは驚きです。

雪を白梅に見立て、白色から連想される中国の故事を引き合いに出して帰郷の思いを切々と述べた詩です。「雁の足」の「帛」というのは、匈奴に捕らえられた漢の蘇武が、白い絹に書いた手紙を雁の足に結んで救出された故事を指します。そして「鳥の頭」というのは、秦の人質となった燕の太子丹が、鳥の頭が白くなり馬に角が生えたら帰そうと秦王に言われて祈ったところ、鳥の頭が白くなり馬に角が生え、帰ることができた故事を指します。これらの故事を踏まえ、帰郷を思うのです。

ところでこれは、『北野天神御伝』の

（延喜）三年正月（中略）遺言して曰く、「余、<sup>いは</sup>外國に死を得たる者は骸骨<sup>がいこつ</sup>を故郷に帰すを見る。

思ふところあるによりてこの事願はず（中略）」と。

という記述とはどうも相容れません。

そこで、「帰るなら生きているうちで、死んでしまえば無意味どころか逆効果」であると道真は考えていたのではないでしょうか。この遺言の続きは「代々続く法要を絶やすな」という趣旨になっていますし。

さらに、学界の名門としての菅原家に対する道真の意識の強さは、例えば、「菅原道真 上」でみてきました「博士難（文草、卷二、八七）」に表れている通りですが、それでいくと「生存中に帰京＝名誉回復」、「死亡後に帰京＝罪人のまま先祖代々の墓地に埋葬される」という図式が

浮かんできます。

## 「最後」の漢詩

「偶作（後集、五一三）」をみます。

[白文] [書き下し文]

偶作 偶作

[口語訳]

ふと詩興が湧いて

[解説]

九〇二（延喜二）年冬の作で、道真は五十八歳です。

現行の『菅家後集』の原型となった『西府新詩』には、あともう一首、「謫居の春雪（後集、五一四）」が収録されていますが、おそらく今回の詩が実質的に最後の作品だろうと思われます。といいますのも、「謫居の春雪」は先立って詠んだものを編纂時に末尾に配置したものではないかという指摘がされており、『菅家後集』を通読する限り、「歳日の感懷（後集、四九四）」以降からなる九〇二年の作品群と「謫居の春雪」の間に断絶を認めることは疑いようがありません。

あまりに批判的な内容を含むため、詠んだ途端に他見を憚って燈火にくべたものが九〇一年の作品にはあったようで（後集、四八四「叙意一百韻」）、『西府新詩』に大宰府時代の全作品を収録しているわけではありません。しかしそのようにして淡い期待と深い絶望の入り混じった感情を吐き出した後の残滓がいまだ詩の体をなしているのは驚くべきことであり、菅原道真という人物の存立基盤が詩にあったことを改めて認識させられます。

[白文] [書き下し文]

病追衰老到 病ひは衰老を追ひて到り

愁趁謫居来 憂ひは謫居を趁ひて来る

此賊逃無処 此の賊 逃るるに処無し

觀音念一廻 觀音 念ずること一廻

## [口語訳]

病気は 老衰の後からやって来て

憂愁は 左遷先まで追いかけてくる

この（後に続く死という）<sup>ぞく</sup>賊から 逃れる<sup>すべ</sup>術はない

（生老病死の苦しみをも消すという）觀音經を 唱えること一度

## [解説]

さて、この詩は取り立てて技巧を施していませんので、一読されれば意味を汲むのは容易い  
かと思います。

「衰」「老」の後に来るのは「病」、そして「死」。それなのに愁いまで遷客のもとを訪れる。

この状況からは逃れようがないから、せめて觀音經を一度だけ唱えてみる。

「菅原道真 上」で触れましたように、幼い頃病氣で死に瀕した時、母親が縋ったのが  
觀世音菩薩だったこともあり、道真は生涯を通じて觀音信仰に篤い人でした。しかし事態は菩薩  
とて救いようのないところまで来っていました。翌九〇三年二月二十五日、従二位大宰權帥のま  
ま現地にて薨去。享年五十九歳でした。

## 三. 太宰府天満宮

### 太宰府天満宮の由緒

道真が九〇三（延喜三）年二月二十五日に大宰府淨妙院（俗称・楓社）の地で亡くなり、本  
來なら遺骨を京都に戻すべきところ、先に述べましたように本人がそれを希望しないと遺言し  
たため、鎮西の地に葬られることになりました。そこで京都から大宰府に隨行していた  
味酒安行が葬儀の手配を済ませ、遺体を載せた牛車を東北方向に向かわせたところ、牛が途中  
で座り込みを始めます。一行は道真の遺志と信じ、その場に埋葬しました。これが、太宰府天満  
宮のある地です。

社殿は何度も戦乱で焼けてしまうので、目印として本殿の床下には遺体の場所を示す石柱が  
あるといわれています。

没後二年後に社殿を創建したというのは流石に早過ぎると思いますが、墓所の上に社殿を立てたという特殊性から、お墓の要素を強く持つており、以前は「安楽寺」の別名で通っていました。早くから菅原氏が運営に関与していたことが特徴です。

まず、社殿拡張に功績のあった「北野三位」と曾孫・菅原輔正は、「樓門」を造営しました。その後幾度かの焼失があり、その度に再建され、戦国時代には石田三成の寄進もありました。なお現在の楼門は、一九一四（大正三）年に再建されたものです。

そもそも楼門とは二階建ての門のことをいいますが、太宰府天満宮の楼門は太鼓橋側から見ると屋根が二層、本殿側から見ると一層という珍しい形をしています。この手の込んだ設計は、近代神社建築の重鎮である安藤時蔵によるものです。朱塗りの風格ある入母屋造りの楼門内には、道真を守る隨神の姿も見られます。

そして、親戚筋（菅原氏と同じく古代豪族・土師氏の子孫）の大江匡房は、聞き語り『江談抄』に道真や天神に関する話が多いこともありますが、彼の長篇詩・「安楽寺に参る詩」（『本朝続文粹』卷一）を読むと、天神縁起の成立前にもかかわらず、それに類する記述が見受けられます。

さて、この古調詩は江戸時代に出版された『日本詩紀』にも再録されていますが、そちらでは「板に三十一字があった」という内容を「四十一字」としてしまっておりまして、明治時代に活字化された時も直らず、明治版の復刻に合わせて近年漸く戻りました。

これは平安中期に火事で焼けた内裏の再建工事中、板に鉋掛けをして帰ったはずが、一晩のうちに「造るとも またも焼けなん 菅原や むねのいたまの 合はぬ限りは（造り直そうとも、きっとまた焼けてしまうだろう。棟の板の間が合わない限り直せないように、菅原道真の胸の痛みの傷口が合って治らない限りは）」と読める虫食いの跡が生じていたという虫喰い和歌の話なので、三十一文字でないと話が通らないのです。「棟の板間（=建物の隙間）」と「胸の痛み」を掛けており、「道真の懊惱が収まらないうちは何度も焼くよ」というなかなか不気味な和歌です。

## 飛梅

それはさておき、道真が都を出る前に自宅の庭で「東風吹かば・・・」という歌を詠んだところ、後を追って大宰府まで飛んできたという、かの飛梅は白梅です。どうして紅梅ではないの

でしょうか。

これは道真の作品である「謫居の春雪」からきているのです。詳しくは先にみてきた通りですが、この七言絶句、前半で降り積もる雪を梅の花と見、後半では白色から連想される故事を出して望郷の思いを述べる、という構成をとっています。つまり、「白」抜きでは成り立たない作品なのです。

京都から梅を持ち込んだ人はこのことをちゃんと理解していたと思われますし、江戸時代の「菅原伝授手習鑑」でも白梅と明記されています。

## 仮殿

さて、太宰府天満宮は二〇二二年十一月二十二日、百二十四年ぶりに国の重要文化財である本殿の大改修を実施すると発表しました。二〇二三年五月二十三日から改修が始まり、約三年かけて行われます。つまり、二〇二六年頃に工事が完了される予定です。天満宮は二十五年ごとに式年大祭を行いますが、二〇二七年の「菅原道真公 1125年式年大祭」を前に、令和の大改修を実施することにしたのです。

改修期間中は本殿前に「仮殿」を建設し、引き続き参拝者を迎えます。仮殿とは、祭神の神靈を仮安置するために設けられる社殿のことです。仮殿遷座祭の後、神事や参拝は仮殿で行います。

約三年間限定のこの仮殿は、建築家の藤本壯介氏ふじもとそうすけが代表取締役を務める藤本壯介建築設計事務所（東京都江東区）こうとうくがデザイン・設計を手掛けました。藤本氏は天神の杜もりとの調和を重視し、仮殿の屋根に木を植えるデザインを発案しました。「浮かぶ森」のイメージです。

二〇二三年二月初旬に仮殿建設に着工し、同年五月十二日に完成しました。五月十三日には仮殿遷座祭も執り行われました。

屋根に木を植えるアイデアは、先ほどの飛梅伝説に着想を得たものだそうです。藤本氏は仮殿の屋根に梅の木や天満宮周辺の植物を植えましたが、これは天満宮の周辺に広がる豊かな自然が本殿前に飛翔し、屋根に森が現れるというコンセプトなのです。

きよじょう（=神仏を祀るために、特別に設けられた清浄な場所）の広さは本殿と変わらず、ゆとりがある空間となっています。天窓を設け、空だけでなく、屋根の森が見えます。

さらに、内部を彩る帳と几帳のデザインをファッショングランドのMame Kurogi ouchiが、音響監修をサカナクションの山口一郎氏率いる株式会社N.Fが、照明を面出薫氏率いる株式会社ライティングプランナーズアソシエーツが手掛けるなど、文化芸術の神様として慕われる道真の許に現代のクリエーター達が集い、令和の時代を映した魅力溢れる特別な仮殿となっています。

本殿の改修が完了すると、道真の神靈を本殿に戻す「正遷座祭」斎行の後、仮殿は使命を終え解かれます。屋根の上の木々は天神の杜へと移植する予定で、その後も未来へ向けてこの地に生き続けていくのです。

## 梅ヶ枝餅

今度は、太宰府の名物グルメ・「梅ヶ枝餅」の材料やその由来、太宰府天満宮の祭神・道真との繋がりなど梅ヶ枝餅の彼此をご紹介します。

### 梅ヶ枝餅とは

梅ヶ枝餅は、太宰府の食べ歩き・お土産の定番として知られる焼き餅です。もち米とうるち米の米粉を水で溶かし、餡子を包んで焼いたシンプルな餅で、梅ヶ枝餅とはいっても梅の味や香りがするわけではなく、代わりに梅の花の焼き印が押されます。

天満宮の参道周辺にはおよそ五十件の梅ヶ枝餅販売店があり、全ての店舗が「梅ヶ枝餅協同組合」に加盟しており、梅ヶ枝餅の材料や作り方はある程度決められています。しかし、店によって餡子の粒の具合や甘さ加減、焼き方や焼き加減などが異なり、食べ比べも楽しめます。中には焼き型がついた鉄板で実際に焼いているところを見られるお店や、併設の喫茶スペースで飲み物と一緒に頂けるお店もあります。現地では是非、焼き立てを味わってみてくださいね。

### 梅ヶ枝餅の歴史・由来

梅ヶ枝餅の起源は、大宰府に赴任した道真に、近くに住んでいた老婆が差し入れた餅だといわれています。

道真的大宰府赴任は、政治犯への罰という意味合いもあったため、現地での生活はとても厳しく貧しいものでした。役人たちは、道真に食べ物を与えたり、口を利いたりすることを禁じられ、宛てがわれた住まいも廃屋のような有り様だったといいます。

そんな道真のために、身の回りの世話をしていた淨妙尼<sup>じょうみょうに</sup>という尼僧が度々届けたのが、梅の枝に巻きつけられた餅でした。

また一説には、道真が亡くなった後の葬送の際、餅に梅の枝を添えて供<sup>そな</sup>えたことが梅ヶ枝餅の名前の由来ともいわれています。

餅が太宰府名物になってからは、太宰府天満宮参りの際にはおにぎりを持参し、帰りは梅ヶ枝餅を買って食べるという習慣が広まりました。古くは味噌<sup>みそ</sup>が入っていましたが、砂糖が一般に普及した江戸時代後期からは餡子<sup>えんこ</sup>になったと考えられています。

さてここで登場した淨妙尼<sup>じょうみょうに</sup>という女性は、現在、西鉄二日市駅の近くにある榎社<sup>えのきしゃ</sup>に祀<sup>まつ</sup>られています。毎年九月に催される天満宮の神幸式大祭では、道真の神靈<sup>みたま</sup>を移した神輿<sup>みこし</sup>が、榎社の御旅所<sup>おたびしょ</sup>に一泊し、かつてお世話になった淨妙尼との再会を果たすのです。

## 参考文献

- ・[神戸の空の下で。～街角の歴史発見～ \(goo.ne.jp\)](#)
- ・滝川幸司 著 『菅原道真 学者政治家の栄光と没落』
- ・坂本太郎 著 『人物叢書 菅原道真』
- ・阿部猛 著 『菅原道真 九世紀の政治と社会』
- ・平田耿二 著 『消された政治家 菅原道真』
- ・藤原克己 著 『菅原道真 詩人の運命』
- ・今正秀 著 『敗者の日本史 摂関政治と菅原道真』
- ・藤原克己 著 『菅原道真と平安朝漢文学』
- ・波戸岡旭 著 『宮廷詩人菅原道真—『菅家文草』『菅家後集』の世界』
- ・谷口孝介 著 『菅原道真の詩と学問』
- ・滝川幸司 著 『菅原道真論』
- ・川口久雄 校注 『日本古典文学大系 7 2 菅家文草・菅家後集』

- ・小島憲之・山本登朗 著 『日本漢詩人選集 1 菅原道真』
- ・文草の会 著 『菅家文草注釈 文章篇 第二冊 卷七上、下』
- ・柿村重松 訳 『本朝文粹註釈（新修版） 上下』
- ・大曾根章介・金原理・後藤昭雄 校注 『新日本古典文学大系 27 本朝文粹』
- ・内外書籍株式会社 編 『群書類従：新校』
- ・世界史べーた（仮） - YouTube
- ・後藤昭雄 著 『平安朝文人志』
- ・興膳宏 著 『古代漢詩選』
- ・所功 著 『菅原道真の実像』
- ・森公章 著 『天神様の正体：菅原道真の生涯』
- ・坂本太郎博士古稀記念会 編 『続日本古代史論集 下巻』
- ・和漢比較文学会 編 『菅原道真論集』
- ・瀧浪貞子 著、永原慶二・児玉幸多・林屋辰三郎 編 『平安建都 集英社版 日本の歴史 5』
- ・弥永貞三 著 『日本古代の政治と史料』
- ・後藤昭雄 著 『平安朝漢文学論考 補訂版』
- ・三木雅博 著 『平安朝漢文学鉤沈』
- ・工藤重矩 著 『平安朝律令社会の文学』
- ・滝川幸司 著 『天皇と文壇—平安前期の公的文学』
- ・所功 著 『人物叢書 三善清行』
- ・Wikipedia
- ・コトバンク [ 辞書・百科事典・各種データベースを一度に検索 ] (kotobank.jp)
- ・◆山陰亭◆ ～菅原道真で遊ぼう！～ (michiza.net)
- ・辞典・百科事典の検索サービス - Weblio 辞書
- ・柳川順子研究室 (yanagawa2019.sakura.ne.jp)
- ・やけい (ameblo.jp)
- ・中島信太郎 著 『菅原道真—その人と文学』
- ・今浜通隆 訳 『菅家後集 叙意一百韻全注釈（新典社注釈叢書 26）』

- ・ G L N(GREEN & LUCKY NET)からこんにちは [サイトマップ Site map] (biglobe.ne.jp)
- ・ 例祭・梅風祭を執り行いました - 合格祈願・就職祈願 | 学問の総本宮・静岡天満宮（しづおかてんまんぐう）公式サイト (shizuoka-tenmangu.jp)
- ・ Yahoo!知恵袋 - みんなの知恵共有サービス
- ・ 竹居明男 編著 『天神信仰編年史料集成』
- ・ 歴史じっくり紀行 - YouTube
- ・ tyotto 塾メディア | 塾/予備校をお探しなら大学受験塾の tyotto 塾 | 全国に校舎拡大中 (tyottojuku.com)
- ・ ホトカミ - 参拝者と神社お寺でつくる参拝記録共有サイト (hotokami.jp)
- ・ 京都知新 | MBS 毎日放送
- ・ 京都のご利益のある神社やパワースポット情報満載！ | 京都ご利益.com (kyoto-goriyaku.com)
- ・ myagi.jp/index.html
- ・ ノブちゃんの京都ぶらり散策 (nnakaha.com)
- ・ 不思議な日常の出来事 (ameblo.jp)
- ・ ハナシマ先生の教えて！漢文。 | 漢文を楽しみながら解けるようになるために一共通テスト・大学二次試験対策・教員志望の方へ (oshiete-kanbun.com)
- ・ Yahoo!知恵袋 - みんなの知恵共有サービス
- ・ 太宰府天満宮 | 全国天満宮総本宮 (dazaifutenmangu.or.jp)
- ・ 太宰府天満宮-御朱印 (jinja-tera-gosuin-meguri.com)
- ・ 日経クロステック (xTECH) (nikkei.com)
- ・ TECTURE MAG (テクチャーマガジン)
- ・ Yahoo!ニュース
- ・ PR TIMES | プレスリリース・ニュースリリース No.1 配信サービス

## 5-2. 太宰府天滿宮





## 6. 大宰府政厅跡



## 7. 觀世音寺





## 8-1. 板付遺跡班事前学習資料

# 板付遺跡

77回生 大月遙太郎

### ・概要

板付遺跡（いたづけいせき）は福岡平野の中央やや東側に位置している、主に縄文時代晚期から弥生時代後期までの集落の痕跡が残る遺跡である。平野の東側を北上し博多湾にそぞぐ御笠川（みかさがわ）とその支流である諸岡川（もろおかがわ）に挟まれた標高12mの中位段丘を中心とし、その東西の標高7～9mの沖積地を含む、15万平方メートルの広さがある。特に、縄文時代～弥生時代の移行期につくられた土器である突帯文土器とともに水田の跡や水田で栽培されたと考えられる炭化米が見つかっており、日本でも最初期の農村であると考えられている。

また、御笠川のさらに東側を流れる那珂川との間には、著名なものでは北西に比恵・那珂（ひえ・なか）遺跡群、南西に須玖岡本（すくおかもと）遺跡、南東の福岡国際空港内に雀居（さい）遺跡、南東には金隈（かねのくま）遺跡などがあり、その他にも多数弥生時代の遺跡が集中している。

### ・調査の歴史

遺跡の中心にあった通津（つうしん）寺の過去帳には、1867（慶応3）年1月5日に銅矛が5本出土したことが記されているが、これらは現存せず、過去帳にも細かい記載がなかったので、遺跡の整備前に行われた調査でも場所の特定には至らなかった。

1916年通津寺の南東にある田端で、甕棺6基が出土し、うち3基から計6本の銅矛と銅剣が発見された。

1950年、考古学者の中原志外顕がゴボウ畑での調査中に縄文末期の土器である刻目突帯文土器と弥生土器である遠賀川式土器を同時に採取した。この報告を受けて中原や九州大学の岡崎敬、明治大学の杉原莊介らを中心とした発掘調査が4年間にわたり行われ、大規模な濠状遺跡や貯蔵穴、突帯文土器と共に板付式土器が出土し、また石斧や石剣、包丁などの大陸系磨製石器や炭化米が出土したことから、稻作が行われていたことが分かった。

1968年には日本考古学協会農業部会による濠の両端による調査が、69年には福岡市教育委員会との合同調査が行われ、前期後半の住居と中期の井戸2基が確認され、これらから濠は径90mの環濠になることが確認された。

1970年にも教育委員会による調査が行われ、環濠南側と貯蔵穴2基が見つかった。そして1974年の杉原莊介による調査で環濠が通津寺を中心に橢円形にめぐることを確認し、板付環濠の全貌が明らかになった。

1976年にはその重要性から国の史跡として指定された。

そして1976年に弥生前期初頭とされた板付I式土器の段階より遡った、弥生早期の地層から水田耕作土と考えられる水平に堆積した粘土層が発見された。またその周辺からは幅二メートル程度の水路や、それに沿った畦畔（けいはん）、突堤文土器が出土した。

#### ・弥生時代早期

早期の集落は台地の北部西側の、低い尾根の先端部を含んだ一帯にあったと考えられている。西側にある浅い谷を囲むようにして集落が展開している。

東側の尾根に円形の竪穴住居跡1棟があり、その北側に2\*2間の掘立柱建物1棟、南側には1\*4間の細長い掘立柱建物1棟がある。さらにそこから西側の谷に降りると1\*3間の掘立柱建物1棟がある。谷を挟んだ西側の尾根には幅10cm前後の狭い溝が直径3mの円形にめぐり、そのなかに数本の柱穴がある、家畜小屋とみられる遺構2基が存在している。さらにその南側には貯蔵穴とやや大型の土杭が分布している。また竪穴住居跡の東側には墓とみられる土杭が分布している。

前述の通り、弥生時代早期のものとみられる本格的な水田が発見されている。この水田は台地の西側に水田があり、東側には幅2m、深さ1mの幹線水路が南北に掘られている。またその西側に、並行して幅1~1.6m、深さ30cmの排水路も掘られており、それぞれに多数の井堰が設置されている。この排水路は堰によって排水と用水を切り替える機能があったと考えられている。畔は幹線水路と水田を区切るものと水田間を区画するものの2条が確認され、それぞれ下幅1.4~1.8m、上幅0.9~1.2mと下幅60cm~80cm、上幅40cm~50cmとなっている。水田と水路をつなぐ堰は中央部が取り外しできるようになっており、水の流れをコントロールし、水量を調節することができた。このように弥生時代早期の水田は水路や堰、畦畔が整備された、現代の水田とあまり変わらないようなものであった。水路からは炭化米が見つかったほか、土から検出した雑草の種子は水田に典型的な雑草のものであり、畑のものは検出されなかったことからも、この水田で稻作が行われたことがわかっている。

前期になると、早期の水田の上に開かれ、幹線水路は幅10m、深さ2m以上とかなり大型化した。それに伴い、堰も2段、3段と構造も強度を増すために大型化した。また、前期の水田には人の足跡が残っており、規則性があることから農作業の一端を示していると考えられる。

#### ・弥生時代前期初頭

弥生時代前期初頭になると、集落は大規模なものになる。大きな特徴は台地の中央部に大規模な環濠が掘削されたことである。この環濠は南北110m、東西81mの卵型をしており、南西部に幅4mの掘り残し部分があり、陸橋となっている。また、北西部には直線的な濠（弦状濠）によって半月形に区画されている部分がある。これは北側中央部やや西側から分岐し、南西部で環濠とぶつかる5mほど手前で掘り残し部分があり、これも陸橋になっている。推定では、幅2m~最大6m、深さ1.5m~最高3mであった。さらに、濠を掘った際に出た土は両側に土壠として盛り上げられていると考えられている。陸橋から直進すると井堰に出、その下流は水田へと続く。井堰のすぐ下流には井堰に関係のない杭や用材が散乱しており、これらは幅2m程度の橋を構築していたと考えられる。

また、北台地、中央台地北端、弦状濠で区画された半月形の部分、環濠の南、南台地の南西斜面にそれぞれ貯蔵穴とみられる一群が分布している。環濠の外にある貯蔵穴からは埋土に交じって炭化米が多く出土し、またうち3基からは完全な形の土器が使用当初の状態で出土していることから、芒の長い稻穂に火をつけて脱穀する「焼き落とし法」がその場所で行われていたと推測される。

また、南台地への関与もこの時期に始まったとされ、貯蔵穴が10基集中しているほか、この時代のものと考えられる木棺墓1基も見つかっている。

#### ・弥生中期の集落

環濠内から中期の土器が出土しないこと、中期後半の井戸が環濠内の埋土につくられている

ことから、前期につくられた環濠は中期には埋まっていたと推測される。

環濠北側の西斜面に2棟、東斜面に1棟の保存状態の比較的良好な竪穴住居址が見つかっているが、台地の中央部は緩やかな谷となっており、ほとんど遺構は存在しない。一方環濠の南側では西斜面に4棟、東斜面に2棟の竪穴住居址が見つかっている。しかしこれらは中央土杭と周りの柱穴を残すのみである。南側の住居址は径6m前後であるのに対し、北側の住居址は径9mを超える大型の円形住居址である。

井戸は計15基確認されており、環濠南の西住居址に隣接して4基、同じ西斜面の環濠中央部に5基、その他環濠の内外に6基である。

#### ・弥生後期の集落

環濠北側に16棟以上が確認されている。南側にはほとんど存在しなかったようで、遺構や遺物もほとんどない。環濠北側の尾根のうち、西側の尾根に中期の住居址と重なりながら9棟が、東側には8棟が互いに重なりながら集中している。井戸も環濠北側の東斜面に9基が集中し、中央台地における後期の集落は東西の2グループからなり、これらのグループは井戸を共有していたと考えられている。板付遺跡が拠点集落的な様相であるのは弥生中期までで、後期以降は一般的な農村の様相を見せていている。

中期の井戸からは、赤く塗られた土器が完全形または破片の形で例外なく出土する。袋状口縁をもった長頸壺が大部分であり、その他口の広い壺や壺と甕を組み合わせた瓢型土器、高坏がある。また後期の井戸でも赤くは塗られていないものの、完全形または破片の土器が出土する。これらは祭事に使われたとみられ、特に気象異変による渴水時に行われた可能性が高い。

また、住居址の中に掘られた20cm\*40cmの土杭の中から小銅鐸が発見されている。

#### 参考文献

山崎純男「最古の農村・板付遺跡（シリーズ「遺跡を学ぶ」）」、新泉社、2018年  
「図説日本の古墳・古代遺跡—決定版（歴史群像シリーズ）」、学研プラス、2018年  
福岡市博物館公式HP

<https://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/438/index.html>

## 8-2. 板付遺跡





## 9. 多々良浜古戦場班事前学習資料

### 多々良浜古戦場について

80回生 田中康太郎

#### 1.はじめに

多々良浜古戦場は 1336(建武 8 )年に菊池氏、阿蘇氏擁する建武政権と足利尊氏、直義、少弐氏擁する足利軍で行われた多々良浜の戦いの古戦場です。

多々良浜の戦いで勝利した足利尊氏は九州を足掛かりとして上洛し、光厳天皇の院宣を獲得し湊川で楠木正成を破って京都を制圧します。その後光厳天皇の弟光明天皇から征夷大将軍に命じられ室町幕府を開きました。

このように、室町幕府を開く機転となった多々良浜の戦いおよび多々良浜について深く

みていきましょう。

## 2. 足利尊氏の反乱

### 足利尊氏と後醍醐天皇の敵対

1335年鎌倉幕府9代執権北条高時の子時行が、鎌倉幕府再興のために中先代の乱を起こします。この時、尊氏は征夷大將軍と諸国惣追捕使の役職を与えるよう要請するが拒否されます。しかし、後醍醐天皇の許可を取らずに出陣し、乱を鎮圧。勝手に恩賞を与え始めます。そこで尊氏の勝手な動きに怒った後醍醐天皇は京都に帰ってくるように要求するも、尊氏は拒絶します。そこに尊氏が西国に軍の催促を行っていたことが発覚する。これらの経緯から後醍醐天皇と尊氏は完全な敵対関係となる。

### 足利尊氏挙兵

1335年11月8日朝議は足利尊氏と弟足利直義を追討する宣旨を発し、新田義貞を大将として尊氏討伐軍を発した。しかし、尊氏は後醍醐天皇に恭順の意を示すため、鎌倉の浄光明寺にこもってしまう。直義が出陣するも矢作川の戦い、手越河原の戦いで大敗する。これを受け尊氏は挙兵する。尊氏は箱根・竹ノ下の戦いで新田軍を破り、新田軍は東海道を敗走する。尊氏は新田軍を激しく追撃し、翌年の1月11日に京都を制圧する。後醍醐天皇方は比叡山の東側の東坂本に逃れる。

### 尊氏の都落ち

1336年正月後醍醐天皇方は三井寺を包囲。三井寺はおよそ300年前から延暦寺と敵対しており足利方についていた。

三井寺には足利方の細川定禅がいたものの足利尊氏の援軍はなく後醍醐天皇方が制圧。その勢いのまま京都に進軍。兵の差も有りながら勝利し、足利軍を京都から追い出した。という雰囲気のとき、夜の中細川定禅が京都に突撃。戦う気のない後醍醐天皇方は京都を放棄する。その13日後2度目の京都での戦いでは北畠顕家の活躍もあり、粟田口の合戦で後醍醐天皇方が勝利し、足利方から京都を奪い返した。

### 足利尊氏再起へ

尊氏は京都での戦いで負けた原因を自身が朝敵であるからだと考え、後醍醐天皇と対立している持明院統の光厳上皇側についた。これにより、大覚寺統の後醍醐天皇と持明院統の光厳上皇との朝廷間の争いを武士が代理戦争しているという構図を持って行った。また、朝敵になることを恐れて尊氏の味方をしなかった武士が参戦することも期待できた。

1336年2月には元寇没収地返付令を発令し、鎌倉幕府が滅亡したときに後醍醐天皇に没収さ

れた土地を返すことを約束した。これにより、後醍醐天皇に冷遇されていた武士の加勢や後醍醐天皇方からの寝返りや士気の向上が期待できた。

### 豊島河原の戦い

こうして士気を取り戻した尊氏は神戸に到着。それを知った後醍醐天皇方も西へ進軍し豊島河原で合戦となる。

後醍醐天皇方の新田義貞、北畠顕家と足利直義が一進一退の攻防を繰り広げるも夜になり楠木正成が奇襲し、直義は撤退。直義は湊川に布陣し、後醍醐天皇方は西宮に布陣。ここでの戦いも後醍醐天皇方が足利方を押し勝ち、敵を後退させた。連戦連敗の尊氏は戦う気力をなくし、九州に落ち延びることを決意した。

## 3. 多々良浜の戦い

### 尊氏九州へ

尊氏は九州に行く際、播磨に赤松、備前に石橋、備後に今川、安芸に桃井、周防に大島、長門に斯波、四国に細川を配置し、自身が九州で態勢を立て直している間の敵の足止めの防衛線を作った。また、九州に到着した尊氏に宗像大社が食事や寝床を用意し尊氏は宗像氏を味方につけた。

九州の有力武将であった少弐氏、大友氏、菊池氏は打倒鎌倉幕府を誓って朝廷の味方をしていたが少弐氏、大友氏が裏切り菊池氏の菊池武時を戦死させていたので、少弐氏、大友氏は足利側で菊池氏は後醍醐天皇側であった。

尊氏は九州で少弐貞常に救援を要請。息子の少弐頼尚を派遣するも、主戦力を頼尚に渡しており菊池氏に居城である有智山城を攻められ落城する。その勢いのまま菊池氏は尊氏を倒すべく多々良浜に向かった。

### 多々良浜の戦い

1336年3月2日尊氏は香椎宮に陣を置き菊池氏と戦おうとするも足利軍300に対し菊池氏ら3万であり、足利軍は落ち延びてきたので馬も鎧もなく戦う前から敗戦を悟り自害しようとするも弟の直義がそれを止め、まず直義が出陣していき、相手から馬と鎧を奪いながら戦っていった。

直義は敵より兵力の少ない時の一点突破に有効な陣形である三角形の形をした魚鱗の陣を敷いて菊池軍に突撃していった。菊池側は菊池のほうが有利そうと考えて参戦した兵が多いので戦いの士気が低く、包囲したら壊滅する魚鱗の陣を敷いた敵に対して前に出ず、菊池軍は少しずつ後退していくだけだった。さらに足利が有利になってくると菊池軍は足利軍に寝返っていき、その勢いのまま足利軍は菊池の本陣を攻撃。菊池は撤退していった。その後尊氏は菊池を

滅ぼし、九州の支配を固めて中央に戻っていった。

## 参考文献

伊藤喜良「南北朝の動乱」(集英社、1992年)

村松剛 「帝王後醍醐」(三晃印刷、1978年)

「梅松論」

「太平記」

YouTube 高校/日本史 [https://youtube.com/@Y\\_Eschool](https://youtube.com/@Y_Eschool)

## 10-1. 福岡城址・舞鶴公園、鴻臚館跡班事前学習資料

### 福岡城～概要・歴史・黒田騒動・構造～

79回生 青木凱人

#### ・概要

福岡城は国の史跡に指定されており、現在は舞鶴公園と大濠公園になっています。城は1,601年（慶長6年）に築城が開始され、1607年（慶長12年）に竣工しました。また鴻臚館がある三の丸は二重史跡となっています。また毎年春には「福岡城さくらまつり」や「おほりまつり」が開催されています。

#### ・歴史

1600年（慶長5年）に黒田長政が豊前中津16万石から加増され筑前名島52万石で入封しました。これは関ヶ原の戦いでの戦功によるもので、長政の父である黒田官兵衛の働き（九州の西軍を攻撃した）も大きかったと考えられます。城は1,601年（慶長6年）に築城が開始され、1607年（慶長12年）に竣工されました。因みに福岡の名前の由来は黒田家にゆかりのあった備前国福岡から名付けられました。江戸期には城は何度か改修されました。福岡藩は外様藩ながら藩主は幕末まで黒田家のままでした。この間三大お家騒動の一つに数えられる黒田騒動など藩の存続が危ぶまれるお家騒動に度々見舞われました。その後明治になると福岡県庁などが置かれました。

#### ・黒田騒動

黒田長政の嫡男であり2代藩主の黒田忠之は長政の危篤の際も別邸で謹慎処分を受けてい

たほどの問題児でした。忠之の余りの専横を見兼ねた筆頭家老の栗山大膳が対立します。そして大膳は忠之に叛心ありと幕府に訴えました。結局は忠之が勝利し、大膳は盛岡藩預かりとなりましたが、福岡藩の幕府の監視は強化されました。

#### ・構造

城は本丸・南丸・東二の丸・二の丸・三の丸で構成されています。また当時は47の櫓と10の城門が設置されていました。しかし明治以降に大半の建物が解体や払い下げによって失われました。

#### 本丸

本丸には大天守台・中天守台・小天守台の3つからなる連立式の天守台がありますが、その上に天守が建てられていたか不明です。従来天守は建てられていなかったと考えられていましたが、近年天守があったと考えられる内容の手紙が出てきました。

#### 南丸

南丸には江戸時代から現在位置を保っている唯一の櫓である多門櫓があります。

参考：【公式】福岡城・鴻臚館 <https://fukuokajyo.com/walking/>

江戸三百藩全史 standards 株式会社

考古学から探る日本の城郭 宝島社

## 福岡城～黒田孝高（官兵衛）・黒田長政～

79回生 小西櫂世

#### 黒田孝高（官兵衛）

黒田孝高は、天文15年(1546)11月29日に黒田（小寺）職隆の嫡子として播磨姫路城で生まれた。幼名は万吉。なお、その後元服して祐隆、孝隆、孝高と名乗りを変えるが、ここではややこしいので最も有名な「孝高」で統一する。

孝高は永禄4年(1561)に政職の近習として出仕し、永禄10年(1567)に播磨志方城主櫛橋伊定の娘、光を妻に迎えた。櫛橋氏は赤松氏に古くから仕える重臣で、播磨国では有力な存在であったとされている。二人の間には翌年、嫡子松寿丸（後の長政）が誕生している。永禄12年(1569)、播磨龍野城の赤松政秀が三木城の別所安治と組み、姫路城に侵攻してきた際に孝高は、姫路城の西に位置する土器山に布陣し、政秀の本陣に夜襲をかけて撃退し、武功をあげた（青山・土器山の戦い）。その後、永禄11年に上洛した織田信長の影響力が中国方面にも及んでくると、小寺政職は信長に従属した。この際、信長に与することを進言したのは、孝高であったと

されている。ただ、政職は信長との面会を嫌がり、孝高を名代として信長に面会させている。

天正 7 年(1577)、政職と孝高は英賀合戦において 500 の兵で小早川水軍の浦宗勝率いる 5000 の毛利軍を打ち破った。毛利家中においても実力のあった浦宗勝がわずか 10 分の 1 の兵に敗北を喫したことは、毛利氏に大きな動搖を与えた。同年には羽柴秀吉が信長对中国方面の攻略を命じられたことにより、孝高は秀吉に与力として従うこととなった。なお、これに際し孝高は秀吉に姫路城を譲ったといわれている。同年の上月城の戦いでは孝高は竹中半兵衛重治とともに出陣し、毛利・宇喜多連合軍を播磨から駆逐し、信長から感情をもらっている。これによって孝高は秀吉から厚い信頼を得たが、孝高と秀吉が急接近したことにより、面白くないのが政職である。そして翌年、摂津有岡城主荒木村重が信長に反旗を翻した際に、それに呼応して政職も離反した。また、この村重の離反を受け、信長は孝高に村重の説得を命じたが、孝高は村重によって有岡城内の土牢に幽閉されてしまった。さらに信長は孝高がなかなか帰ってこないために裏切ったと思い、竹中半兵衛重治に孝高の嫡子松寿丸の殺害を命じた。重治は信長の説得を試るも、受け入れられることはなかった。しかし、重治は孝高を信じ、松寿丸を自身の居城、美濃菩提山城下の家臣の屋敷に隠し、偽の首を信長に差し出した。そして翌年の 9 月、荒木村重が有岡城から退去し、翌月に開城。孝高は救出されたが、一説には頭が禿げ、膝が生涯曲がったままになったとされている（直後に有馬温泉に湯治にいって回復したという説も）。

天正 10 年(1582)、孝高は羽柴秀吉の備中高松城攻めに参陣。蜂須賀正勝とともに備前、備中、美作の地元領主たちの調略に奔走し、さらに備中高松城の水攻めに際して堤防を築いたことも有名である（堤防の建築には土木工事に実績のあった蜂須賀正勝が主導したとの見解もある）。しかし同年 6 月 2 日、京の本能寺において信長が重臣・明智光秀の謀反によって殺害され、翌日には備中高松城の秀吉にも一報がもたらされる。秀吉はすぐに毛利方の外交僧安国寺恵瓊と孝高を交渉させ、城将清水宗治の切腹を条件に講和し、「中国大返し」を開始。孝高もそれを補佐した。羽柴軍は驚異的な速さで東へ進軍、12 日には山崎まで進出し、明智光秀と対峙した。翌 13 日、羽柴軍は山崎の合戦において光秀を撃破し、27 日の清須会議天下人への名乗りを上げる。翌年の賤ヶ岳の戦いで織田家重臣の柴田勝家を破り、そのまま勝家の居城、北ノ庄城を落城させ、織田家を乗っ取った秀吉は天下人への道をひた走っていく。

天正 13 年(1585)、秀吉は前年の小牧・長久手の戦いの際に敵対した根来・雑賀を攻め、続いて土佐の長宗我部元親を討伐し、四国を平定する。その際に孝高も蜂須賀正勝とともに宇喜多秀家のもと軍監として出陣している。また、この頃、高山右近、蒲生氏郷らの勧めによりキリスト教に入信し、「シメオン」の洗礼名を与えられた。翌年の天正 14 年(1586)に秀吉は豊後の大友義鎮の救援要請を受け、薩摩の島津義久・義弘の討伐を決定する。孝高は毛利輝元・吉川元春・小早川隆景らの軍監を務め、8 月に豊前に上陸した毛利勢の後を追い、10 月に上陸。孝高は豊前・豊後の国衆らに、秀吉の大軍が九州に上陸する前に帰順すれば本領を安堵すると告げ、島津方から次々と離反させることに成功。翌年に秀吉は島津軍を降伏させた。孝高はこの功により秀吉から豊前 6 郡 12 万石（京都・築城・仲津・上毛・下毛・宇佐）を与えられた。

孝高は初め馬ヶ岳城に入ったが、不便なこともあります、海上・河川交通に利便性のある中津に

新しい城を築いた。しかし、孝高の豊前6郡への入部は、多大な困難が伴う。天正14年に孝高が検地に着手した際、国人や領民の反乱に遭う。孝高は毛利氏の助力を得て一揆を鎮圧したが、半年もの時間を要したという。翌年には仲津郡に勢力を持っていたが、孝高の入部により父祖伝来の地を離れざるを得なくなった宇都宮（城井）鎮房の反乱が勃発した。秀吉はこの宇都宮氏を軽く見ていたが、実際には逆に馬ヶ岳城に攻め込まれる始末であった。さらに、嫡男長政が出撃し宇都宮勢を蹴散らしたもの、追撃戦の最中に城井谷の山中に引き込まれ、ゲリラ戦による反撃を受け、敗走の憂き目を見る（城井谷崩れ）。なんとか孝高は反乱を鎮圧したのち、長政に命じ、鎮房を中津城におびき出し、だまし討ちにした。

天正17年に孝高は早くも長政に家督を譲り、後見人として長政を指導する。天正18年(1590)の北条氏攻めでは、孝高が小田原城の開城の交渉を担当した。そして文禄元年(1592)に始まった文禄・慶長の役にも出陣した。

慶長3年(1598)、秀吉が死去する。秀吉は死に際し、五大老に子息秀頼の行く末を託し、「無断で婚姻してはならない」などの掟を定めたが、それを最初に破ったのが徳川家康である。これによって石田三成をはじめとする五奉行らと家康の関係が悪化した。こうした状況で、長政は早々と家康に味方することを決断し、毛利輝元や小早川秀秋を説得して味方に引き入れようとしていたが、孝高は吉川広家などと連絡を取り、情勢を見極めてぎりぎりまで決断を延ばしていたようである。

慶長5年(1600)9月15日、関ヶ原の戦いにおいて、家康率いる東軍が半日で勝利したことは言うまでもないが、この時孝高は豊前中津にいた。この頃、豊臣秀頼の命により、文禄・慶長の役での失態で秀吉に改易された大友吉統が旧領を取り戻しに、豊前から豊後に入国しようとしていた。この動きを察知した孝高は、家康に交戦の許可をとった。そして自らの切り取った地を欲しいと望んだ。こうして孝高は、石垣原の戦いで吉統を打ち破り、さらに筑後久留米の小早川秀包、同柳川の立花宗茂らを下し、加藤清正、鍋島直茂、降伏した立花宗茂らを軍に加え、ついに九州最後の敵勢力である薩摩の島津氏のもとへ攻め込み、肥後水俣まで進軍。九州制覇まであと一步に迫った。しかし、ここで家康と島津義久との和議が結ばれたことによる停戦命令を受け、軍を解散。九州制覇の夢はここで碎け散った。

関ヶ原の戦い後、長政には福岡藩52万石が与えられたが、切り取り自由を許されていたはずの孝高は新たな所領は与えられなかった。以後、孝高は長政とともに福岡藩の礎を築き、慶長9年(1604)、滞在先の京都伏見で亡くなった。享年は59。孝高の遺骸は後に黒田家の菩提寺となる崇福寺(福岡市博多区)に葬られた。

## 黒田長政

黒田長政は、永禄11年(1568)年12月3日に黒田孝高の嫡子として播磨姫路城で生まれた。なお、天正17年(1598)の家督継承までのおもな出来事は前述の黒田孝高の項にあるのでそちらを見てほしい。さて、父孝高の隠居により家督を継いだ長政は、文禄元年(1592)より始まった文禄の役においては、5000の兵を率い三番隊として出陣した。翌年の京城近郊の碧蹄館の戦い

では小早川隆景隊の先鋒の指揮を任せられ、勝利に貢献した。続く慶長の役でも長政は戦功をあげた。

慶長3年(1598)に天下人・豊臣秀吉が死去すると、早くから次の天下人は徳川家康であると目し接近し、協力するようになる。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いまでの一連の流れにおいても福島正則や小早川秀秋らを調略するなど、外交手腕を発揮した。この功により筑前名島52万3000石に加増転封された長政は、名島城に変えて日本有数の商業都市、博多の隣の福崎丘陵に新城を築く。7年間の大工事を経て新城を完成させ、黒田家ゆかりの地である備前福岡にちなみ福岡城と名付けた。慶長7年(1602)には嫡子忠之が誕生している。慶長20年(1615)には最後の戦いとなる大坂夏の陣に出陣し、8年後の元和9年(1623)、長政は京都の報恩寺で56歳の生涯を閉じた。

## 参考文献

【公式】福岡城・鴻臚館

「戦国王」黒田孝高、黒田長政

# 大宰府鴻臚館について

77回生 佐藤智成

## 1. はじめに

鴻臚館は古代の大和朝廷の迎賓館、そして官営の貿易商館でした。

大体、奈良・平安時代の官制は唐の模倣です。唐で、来朝の番人(=外国人)を接待する役所が鴻臚寺で、6世紀の北齊の頃からありました。「鴻臚館」の名は、この「鴻臚寺」からきているのです。

「鴻臚」の意味は諸説ありますが、「鴻」は「洪」で「ひろく」の意で、「臚」は「伝える」の意です。よって、「鴻臚」は「大きな声で客人を案内し触れてまわる、伝声引導」という意味でしょう。ちなみに文字自体のもともとの意味は、「鴻」は「大きな鳥」の意で、「臚」は「その鳥の腹の部分、つまり声を出すところ」の意です。

今から鴻臚館の中でも特に、大宰府鴻臚館についてみていきましょう。

## 2. 大宰府鴻臚館の変遷

### 大宰府鴻臚館の役目

大宰府鴻臚館は、大宰府(=九州の総監府)に所属していて、中国の唐や宋、朝鮮の新羅からの使節や渡来人、そして前後 17 次にわたった遣唐使や、遣新羅使を接待する客館でした。

空海や最澄も、ここに泊って唐へ行ったのです。秀才を集めて、唐の政治・宗教・文化の一切を吸収してくる大プロジェクトが、遣唐使でした。100 人から 500 人もの人数が、2 艘から 4 艘の船で出航しました。それまで北東の風を待って、何十日も鴻臚館で過ごしたのです。帰りも、唐の制度や文物を沢山お土産に、鴻臚館に泊ったのでしょう。

838(承和 5)年の最後の遣唐使以降は、もっぱら大陸の商客を受け入れました。官営の貿易で、民間の交易は禁制でした。700 年後の長崎の出島と同じです。

また、迎賓と交易だけではなく、情報蒐集の役目も大きかったのです。

日本は、新羅に攻められている百濟を支援して、663(天智 2)年に白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗します。その後は非常に神経を尖らせていたでしょうし、世界国家だった唐の情報は、どんなことでも貴重で、鴻臚館は唯一の「レーダー基地」だったのです。菅原道真が遣唐使停止を献言したのも、膨大な国費をかけて出向いても、今更得るものなしという正確な情報を、鴻臚館ラインで攔んでいたからでしょう。

能登や敦賀から入京していた渤海使節も、渤海が 10 世紀の中頃に滅亡して来なくなります。もう大宰府鴻臚館しか、外国との接点はなかったのです。

鴻臚館の記録は、平安初期の 833(天長 10)年に作成された、『令義解』に載っていますが、これは平安京の鴻臚館です。これは主として渤海の国使の応接機関で、外交の役目を担っていました。838(承和 5)年の最後の遣唐使も、ここを出発地として、大宰府へ向かっています。

鴻臚館の管轄は玄蕃寮で、蕃客の接待が役目です。「蕃客」とは新羅と唐の使節で、使節の辞見・饗宴・送迎が役目でした。

### 大率、那津官家

大陸と交渉する役所は、以前にもありました。

古くは邪馬台国の時の、大率というのがあり、これは外交専門でした。その次には、現在の JR 博多駅近くに設置されていた、那津官家というのがあり、これは軍事が主です。

ここまで古墳時代です。

### 筑紫館

大化改新(645 年)で、律令制が設けられました。ついで 664(天智 3)年、白村江の戦いで大敗したことを受け、筑紫に水城が造られ、大宰府が設置されて筑紫館が設けられます。これは飛鳥時代後半のことです。これが大宰府鴻臚館の前身です。都は藤原京で、持統天皇の時代です。大伴旅人や山上憶良もここに泊ったのでしょうかね。

筑紫館が記録に初めて出るのは、『日本書紀』の 688(持統 3)年に、新羅使節を筑紫館で応待したことが、「霜林らを筑紫館に饗える」と記されています。筑紫館で応対し、必要に応じて大宰府政庁や平城京に上らせています。

民間交易はできず、唐物使からものつかいという役人が先買権行使し、残りを民間が買うという、典型的な国家管理貿易でした。

唐商人は 1 船 100 人ぐらいの大人数で、それに取引も煩雑な仕組だったようで、商人たちは 3 ヶ月から半年ぐらい、滞在しているのです。その間の滞在費は全部役所持ちで、中国の商客を「安置供給」させたとあります。ただで泊め、ただで食事を給したということです。

博多以外で接することは、原則としてはありませんでした。「風の関係で能登半島についたが、大宰府へ行け」と、回航を命じられた記録もあるのです。

### 「筑紫館」から「鴻臚館」へ

そして、「筑紫館」が「鴻臚館」と言われるようになったのは、史料の上では、838(承和 5)年の記述が初出です。これは、円仁えんにんが加わった第 17 次遣唐使の副使であった小野篁おののたか篁が、「大宰鴻臚館」で唐人の沈道古と漢詩を和詠するという内容です。なぜ名が変わったのかは分かりませんが、興味を惹かれるのは、「筑紫館」から「鴻臚館」へ名前が変った頃、その機能も变っていて、妙に符合しているのです。

鴻臚館時代になると、遣新羅使・遣唐使も廃止され、唐の国使も 779(宝亀 10)年が最後で来なくなりました。代わって登場するのが、唐・宋・新羅の商人たちで、鴻臚館が貿易商人を接待する宿泊場と、市場に変るのです。

### 大宋国商客宿坊

11 世紀になると、「大宋国商客宿坊」と呼ばれるようになります。しかし、1047(永承 2)年大宰府が、「大宋国商客宿房」に放火した犯人 4 人を捕縛したという記録を最後に、歴史の舞台から姿を消します。ですから、688(持統 2)年から数えて 359 年は、確実に存続したわけです。ずいぶん長命でした。

なお、1091(寛治 5)年に宋の商客・李居簡りきょかんが写経をしたという記事に見える鴻臚館は、最近の研究で平安京の鴻臚館を指すものとの説が有力になっています。

## 3. 大宰府の他にも置かれた鴻臚館

鴻臚館は大宰府の他にも置かれ、難波鴻臚館なにわこうろかんが一番古く、ついで大宰府、平安京の 3 つでした。

難波鴻臚館は、『日本書紀』の 608(推古 16)年に、「唐客のために高麗館の上に新館を造る」とあり、大阪の四天王寺の周辺だろうといわれています。瀬戸内海のつきあたりですから、外

客の終着地になっていたのです。大宰府鴻臚館が設置されると、急速に衰え、844(承和11)年に廃止されています。それでも、ほぼ236年は続いています。

平安京鴻臚館は、主に渤海の使節を接待しました。渤海は、中国の北東部で旧・満洲地区の所にあった国ですが、10世紀に契丹に滅ぼされてしまいます。それで自然と、957(天徳元)年頃に廃止されます。こちらは、163年は続いています。場所は朱雀の七条で、京都駅の北の所あたりです。

## 4. 大宰府鴻臚館はなぜ無くなった？

このように、大宰府鴻臚館が一番長命でした。いちばん重要だったのです。「諸蕃通交の関門」として403年以上続きました。

では、大宰府鴻臚館はどうして無くなつたのでしょうか。

後半の役目は国家管理の貿易でした。貿易が拡大してくると、官僚機構で次第に融通が利かなくなり、商人はそれに対応して、博多の町を創っていきます。藤原氏の摂関政治が衰退し、大宰府政庁の弱体化ということもあったでしょうが、大宰府の役人が私腹を肥すために、商品を横流したり、書類を改竄したりするようになってしまい、鴻臚館の役目が終ったのです。

その後は、聖福寺・承天寺の2つの寺が主体となった私貿易で、キャップには宋人を雇っていました。

## 5. 大宰府鴻臚館はどこに？

### 1987年12月の発掘調査

1987(昭和62)年12月、球場外野席改修工事による発掘調査で、破壊されたとみなされていた鴻臚館の遺構の一部が、良好な状態で発見され、残る遺構も同様に残存している可能性が急浮上しました。

経緯は色々ありますが、基礎<sup>そせき</sup>が出てきて、福岡城敷地内(福岡県福岡市中央区城内)に鴻臚館があったと分かったのです。瓦溜まり(=当時のゴミ捨て場)から、出土品が続々出てきて・・・という感じです。

### 江戸時代からの通説

大正時代からこの辺りだといわれていましたが、それ以前は、鴻臚館は博多部にあるというのが、江戸時代からの通説でした。『続日本紀』や平安時代の文献にも、博多がよく出てくるのです。博多部が福岡部よりも古いという思い込みがある上、さらに決定打を与えたのが、江戸時代の学者たちが、鴻臚館は博多の官内町だといったことです。

福岡藩の著名な学者・青柳種信とその子息の長野種正、地理学者の伊藤常足が官内町説を主張しました。このように、鴻臚館は博多官内町にあったというのは、江戸時代から大正初期までの定説だったので。

## 中山氏による指摘

その通説を、九州大学の医学部教授だった中山平次郎氏が、誤っていると指摘。鴻臚館は福岡部の城内だとする論文・「古代の博多」を、1926年から1927年にかけて、『考古学雑誌』に発表しました。これが学界に衝撃を与え、論争を巻き起こすのです。

本業は医学博士で、考古学は専門外です。それにもかかわらず、発掘調査で鴻臚館の位置がその通りと分かり、実に卓見でした。

## 『万葉集』が根拠

中山氏は、『万葉集』の歌を根拠に推理しました。その歌とはまず、736(天平8)年「遣新羅使の一行が筑紫の館に至りて、はるかに本郷を望みて懐愴みて作る歌」のことです。

志賀の海人の一日もおちず焼く塩のからき恋をも吾れはするかも  
志賀の浦に漁りする海人家の待ち恋ふらむに明かし釣る魚  
かしふ江に鶴鳴き渡る志賀の浦に沖つ白波立ちし来らしも  
今よりは秋づきぬらしあしひきの山松かげにひぐらし鳴きぬ

これらの歌は、新羅へ派遣される国使が出発にあたり、はるかに故郷を懇んで詠った歌です。

また、「海辺にて月を望みて作る歌二首」も挙げています。

神さぶる荒津の崎に寄する波間無くや妹に恋ひ渡りなむ  
志賀の浦に漁りする海人明ければ浦回漕ぐらし楫の音聞ゆ

これらの歌も筑紫館で詠んだに違いないと、中山氏は考えました。そうだとすれば、官内町はおかしいです。

その第1は、志賀島や、志賀海人がみえる。第2は、「神さぶる」の歌で、荒津の潮の音が聞こえている。第3は、「今よりは」の歌で、裏の松山に蟬の声が聞こえている。この3点で、官内町(蓮池)からは志賀島は見えない。潮の音も聞こえない。裏に松山もおかしい。

それではということで、それに合う所を考えて、築城以前の福崎の地以外にはないと論考しました。「筑紫館は博多湾を隔てて志賀島を望むべく、また西公園をみるべき海岸の山地にあつたことになる。この条件を容るべき地点は、(旧)博多にあらずして、福岡城の位置より他には之を索むる能はず」と、述べてあります。

## 万全の論証

しかし、このように中山氏は『万葉集』から疑問点を挙げて推論しているのですが、実はこれは傍証で、別にその基になるものを検証していました。

戦前はこの城内に24聯隊がありました。招魂祭で當内が開いている時に中を調べ、奈良時代

の瓦が埋まっていることを確かめて、ここに瓦葺きの樓閣があった、それが鴻臚館だと確信したのです。

さらに 869(貞觀 11)年に、新羅の海賊が博多を襲ったことがあるのですが、その時、博多警固所の前身が鴻臚館に付属して設けられています。ちなみに、ここは今の警固町ではありません。実は天神の警固神社は、今の城内にあったのを築城のため遷座しているのです。鴻臚館時代の警固所は城内にありました。

また 11世紀に、沿海州の女真族・刀伊が博多に来襲しているのですが、この時の記録からも、鴻臚館は福岡城方面の山地を背にした地だと考えられます。

このように、万全の論証だったのです。説得力があるので、中山説が学界の定説と認められました。

## 出土品から例証

さらに戦後になって、中山説の正しさが出土品から例証されるのです。

1948年、第3回国体が福岡県開催と決まり、その時、平和台に総合運動場を造り、翌1949年に平和台球場に改造されます。そして1957年には球場の大改造工事があり、その時に大量の陶片がでてきました。高野孤鹿氏、大場憲郎氏が3000点ほど集め、高野氏のものは福岡市歴史資料館、大場氏のものは九州歴史資料館に保存されています。

中山氏はこの陶片に注目し、1952年に来福した文化財保護委員の小山富士夫氏に見せると、それが中国の越州窯だということが分かりました。その陶片が沢山出たので、ここが新羅・唐・宋の使節や商人が来泊した鴻臚館に違いないとなったのです。

## その後の調査

その後、福岡市教育委員会が、その全容解明のための本格調査を継続しています。

現在までに確認されている遺構は、奈良時代以前(筑紫館)の堀と門、奈良時代(筑紫館)の堀と掘立柱建物、平安時代の大型礎石建物・土壙・溝などです。

1995(平成7)年には展示館が完成し、遺構の出土状態と復元建物、また出土遺物を見ることができます。

## 6. 渡来使へのアピール

### 建物の規模

さて、大宰府鴻臚館の建物の規模についての記録をみてみると、858(天安2)年に、僧・円珍が唐の商人・李延孝の船で帰国し、鴻臚北館門楼で歓迎宴が催され、唐人が円珍に詩を贈っています。この記録から、北館に門楼がある大きな建物ということが分かります。ちなみに861(貞觀3)年に、李延孝がまたここに泊まっています。

## 鴻臚中島館

また、鴻臚中島館の記録もあります。869(貞觀 11)年に新羅の海賊船が来ます。今後の警備に鴻臚中島館を設け、大宰府の兵を派遣しました。

鴻臚中島館については、朱塗りに窓は緑と、ギンギラギンだったようです。瓦も当時は1色には焼けないので斑まだらです。国威を見せるためにと、門も壯麗そうれいに、唐人が目を見張る色彩にしていましたのでしょう。

## 北面していた鴻臚館

面白いのは、鴻臚館が北の海に向っていたことです。官衙や寺は「天子南面す」で、全て南向きが原則です。法隆寺の南大門が良い例です。ところが鴻臚館だけは、渡来使が海から来るので北面していたと考えられています。

## 7. 大宰府鴻臚館の出土品

古代の交易拠点だった大宰府鴻臚館跡からは、国際色豊かな遺物が出土しています。

まず、中国・越州窯の青磁の碗です。青磁の最初の頃ですから、黄緑色の肌色をしています。越州窯は、東は日本、西は8世紀にエジプトやヨーロッパまで渡っています。また長沙窯磁器、邢州窯白磁、朝鮮半島の新羅・高麗産の陶器も出ています。

また、新の古銭・大泉五十も出了ました。これは9年の铸造ですから、日本はまだ弥生時代です。それが9世紀に出現したのです。中国人が持ってきたのでしょう。古銭は、唐初の物が、日本では1400年の室町時代でも通用していました。古銭は輸入品の1つの目玉だったのです。

そして、磚です。これは今の煉瓦の古名です。床材や壁材に利用しました。

それから、各地から送られた物資に付けられていた木簡や、その木簡を転用した、いわゆるトイレットペーパーとして使用された籌木ちゅうぎもトイレ状遺構より出土しています。

最後にご紹介するのは、瑠璃杯と瑠璃碗です。この断片はイスラムの物でないかと言われています。陸のシルクロードと対比される、海の道を通ってきたのでしょう。ペルシャやイスラム、エジプトから、インド、マラッカ、広州、明州(今の寧波)、新羅を経て、はるか博多の鴻臚館へ来たのです。

このように鴻臚館は、世界に向かって大きく手を広げた、文明情報の国際交流センターだったのです。鴻臚館と周辺の人たちとの生活ギャップは、大きかったでしょう。その頃の人は須恵器や土師器で質素な生活をしていて、豪華な鴻臚館の饗宴きょうえんとは大違いでした。まことに国際交流の別世界だったのです。

## 8. 「大宰府鴻臚館」関係年表

西暦(年)	和暦(年)	出来事
9	—	新の王莽、大泉五十を鋳造(大宰府鴻臚館跡出土)。
56	—	奴国王、後漢の光武帝から「漢委奴国王」の金印をもらう。
239	—	卑弥呼、使を魏に派遣。皇帝から「親魏倭王」の金印と紫綬をもらう(このころ伊都国に一大率を置き対外交渉にあたらせる)。
536	宣化 1	那の津に那津官家を造る。
600	推古 8	倭国の使者、隋に至る(『隋書』)。
601	推古 9	来自皇子、新羅征討のため筑紫に来る。
607	推古 15	遣隋使・小野妹子、隋へ。翌年、隋使・裴世清を伴い筑紫に帰着。再び隋へ。高向玄理ら、同行して留学する。
609	推古 17	「筑紫大宰」の官名が初めて正史にみえる。
621	推古 29	新羅使、筑紫に来る。
630	舒明2	遣唐使、那の津に泊まる(最初の派遣)。
653	白雉4	遣唐使、2隻で出発。1隻遭難。
654	白雉5	遣唐使、2隻で新羅を経て唐に向かう。
659	齊明5	遣唐使、2隻で出発。1隻遭難。
661	齊明7	百濟救援のため齐明天皇、那の大津に。朝倉宮にて死去。
663	天智2	日本軍、白村江で唐・新羅軍に大敗。
664	天智3	対馬・壱岐・筑紫に防人と烽を置き、筑紫に水城を築く(大宰府を設置)。
665	天智4	唐使の帰国に遣唐使が同行。大野・豫の2城を築く。
669	天智8	遣唐使を派遣。
672	天武1	新羅使、白村江の戦後初めて筑紫にくる。
688	持統2	新羅使を筑紫館でもてなす。
701	大宝1	遣唐使・粟田真人ら、出発する。
716	霊龜2	遣唐使・多治比県守ら、4隻で出発。玄昉・吉備真備・阿部仲麻呂、随行。
727	神龜4	渤海使、出羽に漂着し入京。
733	天平5	遣唐使・多治比広成ら、4隻で出発。
736	天平8	遣新羅使、筑紫館で歌を詠む(『万葉集』)。
746	天平18	石上乙麻呂、遣唐使に任命される(中止)。觀世音寺竣工。
752	天平勝宝4	藤原清河・大伴古麻呂・吉備真備ら、4船に分乗出発。
754	天平勝宝6	大伴古麻呂、唐僧・鑑真を伴って帰国。

776	宝亀 7	遣唐使・佐伯今毛人ら、便風を得ず延期。翌年、佐伯が病気を訴え、副使・小野石根が入唐。
804	宝亀 23	遣唐使、4隻で出発。最澄・空海が同行。
836	承和 3	遣唐使・藤原常嗣ら、逆風に遭い肥前漂着。
838	承和 5	藤原常嗣ら、出発。円仁・円載が同行。この時の記事に「鴻臚館」の名がみえる。
847	承和 14	円仁ら、新羅船で帰国。鴻臚館に入る。
858	天安 2	入唐僧・円珍、帰国。鴻臚館で作った詩に「鴻臚北館門樓」の表現がみえる。
869	貞觀 11	新羅海賊、博多湾に侵入。鴻臚中島館を置き防備を固める。
894	寛平 6	遣唐大使・菅原道真の奏により遣唐使を中止する。
923	延長 1	筥崎八幡宮創建。
931	承平 1	大宰府に命じて新羅に備える。「警固所」の名前が正史に出る。このころ、博多大津に唐商が群集。
986	寛和 2	宋商人、大宰府にくる。
1005	寛弘 2	大宰府に命じて宋商の居留を許す。
1019	寛仁 3	刀伊の賊船、怡土・志摩を侵す。
1047	永承 2	大宰府、鴻臚館に放火した犯人4人を捕縛。以後、鴻臚館の記録はない。
1161	応保 1	平清盛、日榮貿易のため袖の湊を築く。博多の街はこれを中心としに発達する。

## 参考文献

- ・岡本顕實 著 『鴻臚館：大発見！九百年“幻の遺跡”』
- ・鈴木靖民 監修 高久健二, 田中史生, 浜田久美子 編 『古代日本対外交流史事典』
- ・廣瀬憲雄 著 『古代日本外交史』
- ・榎本淳一 著 『唐王朝と古代日本』
- ・渡邊誠 著 『平安時代貿易管理制度史の研究』
- ・中山平次郎 著 岡崎敬 編 『古代の博多』
- ・エンサイクロペディア空海 ([mikkyo21f.gr.jp](http://mikkyo21f.gr.jp))
- ・【公式】福岡城・鴻臚館 ([fukuokajyo.com](http://fukuokajyo.com))
- ・福岡市の文化財 ([fukuoka.lg.jp](http://fukuoka.lg.jp))
- ・太宰府魅力発見塾 ([dazaifumiryoku.com](http://dazaifumiryoku.com))

・[西日本シティ銀行 \(ncbank.co.jp\)](#)

・[Wikipedia](#)

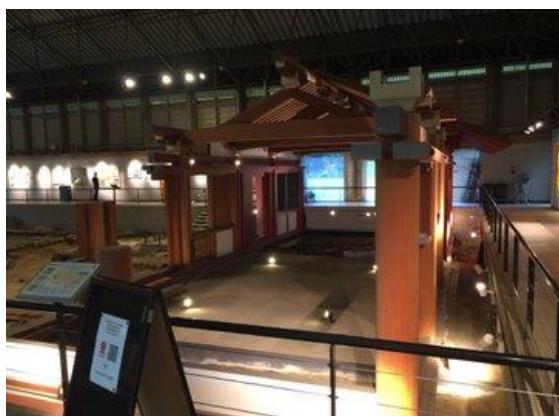
## 10-2. 福岡城址・舞鶴公園，鴻臚館跡

福岡城址・舞鶴公園





鴻臚館跡



## 11. 元寇防塁班事前学習資料

### 元寇防塁について

77回生 羽根田達英, 80回生 竹市拓真

元寇防塁とは、文永11年(1274年)に元による侵攻(文永の役)を受けた鎌倉幕府が、建治2年(1276年)から博多湾の海岸線に築造を開始させた石築地のことである。今津(福岡市西区)から香椎(福岡県東区)にかけて建設され、その総延長は20kmに達した。現在、11か所の現存する防塁跡が国指定史跡に指定されている。弘安の役における防塁が果たした役割は周知の通りであるので、ここでは、石塁の建設の経緯と進行について説明する。

文永の役にて元軍との戦闘で苦戦を強いられた鎌倉幕府は、元軍撤退以後、沿岸防備に力を注ぐようになった。文永12年(1275年)2月には、筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の九ヵ国を、春夏秋冬の四期に二ヵ国ないしは三ヵ国ずつ割り当て、各國の御家人を三か月ずつ警固番役に就かせることが決められた。具体的には、春の担当が筑前と肥後、夏の担当が肥前と豊前、秋の担当が筑後と豊後、冬の担当が日向、大隅、薩摩であった。

同年4月、元の使者が長門国に訪れた。しかし、この使者らは鎌倉に送られた後、9月に竜口(たつのくち)で処刑された。このようにして外交交渉を放棄した幕府は、西国御家人の京都での警固番役(大番役)を停止して北九州沿岸の警固番役に専念させることを決め、さらに12月には、翌年3月に高麗征伐を行うことを西国の守護たちに通知し、その準備を開始させた。九州と瀬戸内海では水夫と船舶が集められた。

しかし、この高麗征伐の計画は立ち消えとなってしまった。この理由について、新井孝重氏は、当時の日本には外洋に出て戦闘を行えるような兵船が存在していなかったことを挙げている<sup>2</sup>。

一方、この高麗征伐計画と並行して、博多湾岸の石築地の構築が開始されていた。この石築地は、文永の役で博多湾から上陸した元軍に陸上戦で苦戦を強いられた教訓から、元軍の上陸を阻止するために造られたものだった。当初は、高麗征伐に参加しない御家人に造築が命じられていたが、高麗征伐計画が中止された後は石築地の造築に力がそそがれていくこととなった。

石築地を造築する場所は、各国ごとに決められていた。そして、それぞれの御家人に割り当てられた造築すべき石築地の長さは、所領の面積に応じて決められており、一反(約1000平方メートル)につき一寸(約3センチメートル)築くことが義務付けられていた。石築地の高さは場所によって異なっているが、現存する防塁では、石築地の基盤部の高さを合わせた上面の高さ

<sup>2</sup> 新井孝重「蒙古襲来」84~94ページ

は、どの場所でも海面から 5~7m 程度になるように築かれている。各地に造築された石築地の構造は、その石築地の基盤となった土地や工事を担当した国によって異なっている。

例えば、最も西にある今津地区の防壘は、海岸砂丘の傾斜面に造られており、横から見て台形状に石を積み、内部の隙間に砂を入れた構造となっていた。石材としては、西側では花崗岩、東側では玄武岩の使用が多く、中央では両者が交互に使用された。この違いは造築を担当したのが日向なのか大隅なのかを反映しているらしい。<sup>3</sup>

一方、中央部の生の松原地区や西新地区の防壘では、防壘の造築にあたって粘土が使用された。生の松原地区では、石を積み上げた後ろを粘土で補強して強度が高められていた。石材としては、西側では花崗岩、東側では砂岩の使用が多く、この違いは今津地区と同様に造築を担当した国の違いを反映しているようだ。<sup>4</sup>一方西新では、砂丘の上に粘土を敷いて基盤を安定させ、前面と後面に石積みをし間隙を砂と粘土で詰める独特の方法により石材を節約する独特な工法が採用されていた。

石築地の工事を担当した国と、その場所での警固を担当した国は、現在判明している限り一致している。具体的には、今津(今津地区)は日向と大隅、今宿(長垂地区)は豊前、生の松原(生の松原地区の西側)は肥後、姪浜(生の松原地区の東側、向浜地区、脇地区)は肥前、博多(西新地区、百道地区など)は筑前と筑後、箱崎(地蔵松原地区)は薩摩、香椎は豊後、という分担になつており、九州の九国全てが工事と警固を割り当てられていた(上の括弧内は各地の防壘のうち現存している防壘の国指定史跡としての地区名)。

また、それまで各国一律 3 か月と定められていた警固番役の期間は、工事を担当した石築地の場所で警固を行う仕組みが採られたことで変更された。これにより各国は、自分の担当する場所のみを通年で防備することになった。各御家の警固番役の期間に着目すると、北九州の防壘から遠く、繰り返し所領と防壘を往復するのが難しい薩摩と大隅では、年に 1 回 3 か月の警固番役を務める方式が継続された一方、防壘に近い国々では、年に複数回、より短い期間の警固番役を務める新しい方式が採られた。

幕府は元による再度の攻撃を恐れていたため、防壘は約半年という短い期間のうちに造築されたが、造築当初は比較的簡素なつくりだったらしい。<sup>5</sup>その後、元の攻撃に備えて防壘は徐々

<sup>3</sup> 福岡市経済観光文化局 Web サイト「福岡市の文化財」>「元寇防壘（今津地区）」

<sup>4</sup> 福岡市経済観光文化局 Web サイト「福岡市の文化財」>「元寇防壘（生の松原地区）」

<sup>5</sup> 服部英雄「蒙古襲来」483 ページ

## 参考文献一覧

新井孝重「蒙古襲来」(吉川弘文館、2007 年)

服部英雄「蒙古襲来」(山川出版社、2014 年)

福岡市経済観光文化局 Web サイト「福岡市の文化財」>「元寇防壘（今津地区）」

([https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural\\_properties/detail/item\\_id:101060](https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural_properties/detail/item_id:101060))

に強化されていった。弘安の役で元軍を撃退した後も防壁の修築と警固番役は続けられ、最終的に南北朝時代まで継続した。このため、現存する防壁の姿は、造築当初や弘安の役当時の姿とは異なっていると考えられる。

## 12-1. 三重津海軍所跡班事前学習資料

### 三重津海軍所

79回生 青木凱人, 80回生 竹市拓真

三重津海軍所は筑後川の支流である早津江川河口に位置します。

安政5年(1858)に佐賀藩は佐賀藩所属の和船を管理していた「御舟屋」に「御船手稽古所」を設置しました。これは洋式海軍の訓練を藩が独自に行うためでした。

安政6年(1859)2月、幕府が長崎に置いていた「長崎海軍伝習所」での海軍伝習を中止にしました。そのため幕府から佐賀藩預かりとなった蒸気船「観光丸」等を使い三重津海軍所で伝習を継続するようになり、また所有する西洋船の修理や製造をするために稽古場や修復場などさまざまな施設が整備されていきました。

その後次第に拡張整備を行い、海軍所としての機能を整えていきました。慶応元年(1865)には日本初の蒸気船「凌風丸」を完成させています。佐賀藩は並行して艦船の購入も進め、国内屈指の海軍力を有していました。

慶応4年(1868)、討幕軍として戊辰戦争に参加した三重津の佐賀藩兵は函館の五稜郭攻撃にも出陣してその優れた海軍力と近代兵器で大きな活躍を見せました。

三重津海軍所は明治4年(1871)以後に閉鎖されたと考えられていますが、その時期についてはわかっていません。少なくとも一部は明治7年頃まで機能していたと考えられています。

---

同Webサイト「元寇防壁（生の松原地区）」

([https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural\\_properties/detail/item\\_id:101055](https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural_properties/detail/item_id:101055))

同Webサイト「元寇防壁（西新地区）」

([https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural\\_properties/detail/36](https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/cultural_properties/detail/36))

同Webサイト「刊行物」>PDFファイル「元寇防壁リーフレット」

同Webサイト「刊行物」>PDFファイル「史跡 元寇防壁リーフレット」

(<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/publications/>)

(Webサイトは全て2023/8/18に参照)

海軍所閉鎖の後は、海員養成のため明治 35 年（1902）に「佐賀群立海員養成学校（後の「佐賀県立佐賀商船学校」）」が設立されました（1933 年に閉校）。

2000 年代前後より佐賀市教育委員会などの支援のもと、三重津海軍所を遺跡・文献の両面から調査を進めていきました。

最近では平成 13～15 年度にかけて発掘調査が行われ遺構が明らかになりました。

遺構の一つにドライドックが挙げられます。これはドック内に船を入れた後、ポンプ等を利用してドック内の水を排水することで、船底があらわになり、検査や修理を行うことを可能にするものです。洋式船は、「大きい」ことに加え「機械を積んでいた」ため横に倒して修理をすることができず、船底の修理を行うには、専用の修理施設であるドライドックをつくる必要がありました。また、同時期の横須賀のドックが外国人主導であるのに対し三重津海軍所のドライドックは日本人主導で、また情報も少なかったこともあり、他に類を見ないものです

また、平成 21～25 年にかけて継続的に行われた発掘調査において、様々な規格の金属製品や金属加工関連の遺構が発見されました。これらの一一部は蒸気缶ボイラーを組み立てるための物であるとされています。また、当時イギリス等で使用されたものと同じ規格であるボルトなどが出土しており、これらはイギリス蒸気船の部品である可能性があります。

このように、海外の技術や部品などを取り込み修船作業や造船を実施していたことが見て取れます。

そして三重津海軍所は 2013 年に国史跡指定がされ、2015 年には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の一つとして世界文化遺産に登録されました。

参考：アジア铸造技术史学会「三重津海軍所跡—幕末佐賀藩の洋式艦船根拠地—」

<http://www.asiacast.sakura.ne.jp/pdf/mietsu-site.pdf>

佐賀市公式ホームページ 三重津海軍所跡

<https://www.city.saga.lg.jp/main/3852.html>

九州の世界遺産 三重津海軍所跡

[https://www.welcomekyushu.jp/world\\_heritage/spots/detail/12](https://www.welcomekyushu.jp/world_heritage/spots/detail/12)

佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

[https://sano-mietsu-historymuseum.city.saga.lg.jp/mietsu\\_03/#mietsu\\_tab03](https://sano-mietsu-historymuseum.city.saga.lg.jp/mietsu_03/#mietsu_tab03)

## 12-2. 三重津海軍所跡



## 13-1. 三池炭鉱班事前学習資料

# 三池炭鉱

79回生 小西櫂世, 80回生 田中康太郎

## 1. はじめに

三池炭鉱は1469年に石炭があることが発見され、1873年に官営で採炭が始められた炭坑で、1898年に三井に払い下げられ、三井の責任者となった團琢磨によって宮原坑を完成させ、揚炭・入気・排水・人員昇降その他を兼ねる主力坑として当初年3万トンだった採炭量を年40～50万トンにまで改善させ明治日本の富国強兵政策に大きく貢献した。

この三池炭鉱についてどのようなものかみていきましょう。

## 2. 宮浦坑

宮浦坑は1887年8月17日に着炭、1883年3月に竣工、1888年4月より操業が開始された。排気と排水は七浦坑から(排水は後に宮原坑)から行われ、この間に約4000万トンの石炭を算出した。炭層に沿って西南方向に採掘して行ったが、年ごろ落差180mの断層に突き当たった。当初、断層を越えた先には炭層がないのではないか、と危ぶまれていた。しかしボーリング調査の結果、それまで採掘していた本層が確認され、更にはこれに匹敵する上層の存在も確認された。そこで1912年に、断層の先に向けての掘進が開始されることになる。1913年に上層に着炭、1916年に本層に着炭した。しかしこの新しい区域も坑道の延長によって、輸送限界を越えてしまった。そのため、直接新しい区域に通じる坑口を開鑿することになった。これが大斜坑である。これは、日本で初めてベルトコンベアによる連続揚炭を実用化した坑口として知られている。

現在は、宮浦石炭公園として高さ31.2mの豊坑捲揚機の動力源であったボイラーの排煙に使われていた煙突が残されている。

### 3. 宮原坑

宮原坑は、七浦坑および宮浦坑の採炭が深部に至ったことで、坑内排水の効率が悪化したことから、七浦坑の南 870m の採炭区域内に設定した試錐の場所に、新豊坑を開坑することになります。当初は、明治初期から官営三池炭鉱の操業開始以来、旧来の主力坑であった大浦坑、七浦坑、宮浦坑等の命脈を伸ばすべく、排水の用を兼ねる坑口としての役目が開たくの計画でした。操業後は揚炭・入気・排水・人員昇降その他を兼ねる主力坑として年間 40~50 万トンの出炭を維持した。

第一豊坑は、明治 1895 年 2 月に着工した。地下水の湧水により困難を極めましたが、1897 年 3 月に深度 141m で着炭、1898 年 3 月 21 日には、排水・揚炭のための坑外諸施設が完成し、出炭を開始した。第二豊坑は、1899 年 6 月 11 日から開さくに着手し、1900 年 10 月に着炭（豊坑の深さ 160m）、1901 年 11 月には設備が完成した。宮原坑はこの 2 つの坑口からなる。

1898 年の出炭開始からすでに年間 27 万トンの出炭量を記録し、1908 年には三池炭鉱（大浦坑、宮浦坑、万田坑、宮原坑）の中で、宮原坑がもっとも出炭量が多く、三池炭鉱全体の 28%（431,618 トン）であり、次いで万田坑が 377,440 トンだった。大正期には最大で出炭量 51 万トンを超えるまでになり、明治から大正期を通じて平均して年間 40 万トンの出炭を維持した。

しかし、昭和初期の恐慌、不況下において、各炭鉱が坑口と稼行地域の整理統合などの合理化を進めていくことになり、三池炭鉱でも、新たに四山坑、宮浦大斜坑からの採炭を中心に移り、それまでの主力坑であった大浦坑、勝立坑、七浦坑とともに、宮原坑も 1931 年に閉坑となつた。

現在は第二豊坑の櫓とデビーポンプ室の壁の一部が残されている。

### 4. 万田坑

第一豊坑櫓は 1899（明治 32）年、第二豊坑櫓は 1908（明治 41）年に完成しました。これらの坑口施設の完成に伴い、巻揚機室、汽罐場、選炭場、事務所等の諸施設が完成し、1902（明治 35）年から出炭を開始した。荒尾市内と大牟田市内に散在する三池炭鉱の主要な坑口は、馬蹄形状に敷設された炭鉱鉄道により繋がり、三池港から石炭を運搬するインフラ整備が既に明治後半に出来上がっている。

万田坑は、施設とそれに伴う設備関係が良好に残っていることが、大きな特徴です。第二豊坑巻揚機室には、外国製の機械（ジャックエンジン、ウインチ）や三池製作所製の機械（巻揚機）がほぼ当初の状態で残っている。また、坑内で使用する機械類は日本製のほか、多くの外国製（イギリス、ドイツ、アメリカ、スイス）の機械が導入されていることが文献資料でわかる。

第二堅坑櫓は鋼鉄製で、巻揚機室、倉庫及びポンプ室、安全灯室及び浴室、事務所はイギリス積みの煉瓦造り、また、山ノ神祭祀施設は砂岩、溶結凝灰岩製です。最近の調査で、第二堅坑櫓の鋼鉄はイギリス製であることが分かっている。

万田坑は、戦後の日本の復興には大いに寄与したが、石油等へのエネルギーの転換や石炭の内外炭価格差等により経営環境が悪化し、1951年閉山した。三井三池炭鉱の閉山後、万田坑を石炭産業と共に発展してきた炭鉱施設のシンボルとして保存し、現在に至っている。

## 5. 三池港

有明海は遠浅で干満の潮位差が最大5.5mと大きく、干潮時には沖あい数kmにわたり干潟が出現する所もある。このため大型船の来航が難しく、三池炭の搬出は大牟田川河口から小型運搬船と艤により、対岸の長崎県島原半島南端の口之津港まで約70kmを海上運送し、ここで最大1500人超の積み替え人夫の手で大型船に積み込んでいた。

こうした課題を解決するため、大型船に直積みできる港を大牟田に構築することになった。大牟田に港を築港する計画は古くは官営三池炭鉱時代からありましたが、築港と炭鉱鉄道敷設との構想は、コスト面で実現が難しく、官営期では大牟田川河口の横須浜が基点とされていた。1898年5月、團琢磨らは、欧米各地で港湾施設や積込方式を視察し、翌年帰国後、築港適地の選定調査にとりかかった。

同年10月、当時の三井家事業グループの本社に当る三井商店理事会に築港計画案が出され基本方針が決定され、1902年5月着工が承認された。同年11月3日、潮止めのための堤防構築工事から開始、1904年5月に防波堤工事完成、1905年に閘門工事開始、1908年3月末に渠内に入水して竣工された。4月1日、新港は「三池港」と命名され、6日には開港場に指定された。

團琢磨は三池港築港の際、「石炭山の永久などという事はありはせぬ。無くなると今この人たちが市となっているのがまた野になってしまう。これはどうも何か救済の法を考えて置かぬと実に始末につかぬことになるというところから、自分は一層この築港について集中した。築港をやれば、築港のためにそこにまた産業を起こすことができる。石炭が無くなても他処の石炭を持ってきて事業をしてもよろしい。その土地が一の都会になるから、都市としてメンテーンするについて築港をしておけば、何年もつかれぬけれども、いくらか百年の基礎になる」と述べ、現在まで115年稼働され国際コンテナ定期航路が就航し、国際物流拠点としての役割を果たしている三池港、大牟田の現在の礎を開港当初から考えられていた。

## 6. 集治監外堀

集治監とは地方監獄とは別に、国が管理する重刑者を収容するための監獄施設で、三池集治監は1883年に設置された。西日本では三池にのみ設置され、当初西日本各県の監獄より刑期12年以上の囚徒が集められた。三池に集治監が設置されたのは、当時国が管理していた三池炭鉱での安定的な労働力を確保するためである。2000人の囚人が収容され、主に三池炭鉱での採炭作業に従事していた。その後三池監獄、三池刑務所と改称され、宮原坑の閉坑に伴って1931年に閉鎖した。三池集治監は、三池炭鉱の労働力不足を補うために、全国的にも早い段階に設置された刑務所であった。

現在は1895年に作られたレンガ堀と270mある石垣が残っている。

## 参考文献

- 児玉清臣(2000)『石炭の技術史 摘録』上巻  
新藤東洋男(2000)『大牟田の歴史散歩物語－大牟田近現代史を中心に－』下巻  
『大牟田の歴史散歩物語』下巻,  
高野江基太郎(1908)『日本炭坑誌』  
本木栄(1939)「三池炭坑誌」『大牟田市史』  
津村光仁(2002)「宮浦石炭記念公園」『大牟田の宝物100選』  
三井鉱山株式会社(1990)『男たちの世紀－三井鉱山の百年』  
『大牟田市史』中巻  
西日本文化協会編(1982)『福岡県史 近代史料編 三池鉱山年報』  
石川保(1997)『集治監物語』  
平島勇夫(1993)「県立三池工業高等学校 外堀」『福岡県の近代化遺産』西日本文化協会  
山田元樹(2002)「旧三池集治監」『大牟田の宝物100選』海鳥社  
重松一義(1985)『図鑑 日本の監獄史』雄山閣出版  
中田平「明治の監獄」『明治村の文化遺産』  
[\(http://anny.kinjo-u.ac.jp/~nakata/Nakata/Data/Tsusin/Prison/Prison.htm\)](http://anny.kinjo-u.ac.jp/~nakata/Nakata/Data/Tsusin/Prison/Prison.htm)  
二村一夫「1880年代の鉱山労働者数」『二村一夫著作集』  
[\(http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/nk/kozanrodoshasu2a.html\)](http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/nk/kozanrodoshasu2a.html)  
大牟田市近代化産業遺産ホームページ  
[大牟田の近代化産業遺産ホームページ \(miike-coalmines.jp\)](http://miike-coalmines.jp)

## 13-2. 大牟田市石炭産業科学館



## 13-3. 三池炭山創業碑, 宮浦坑跡, 三池炭鉱宮原坑, 旧三池集治監外塀, 三池炭鉱 万田坑

三池炭山創業碑



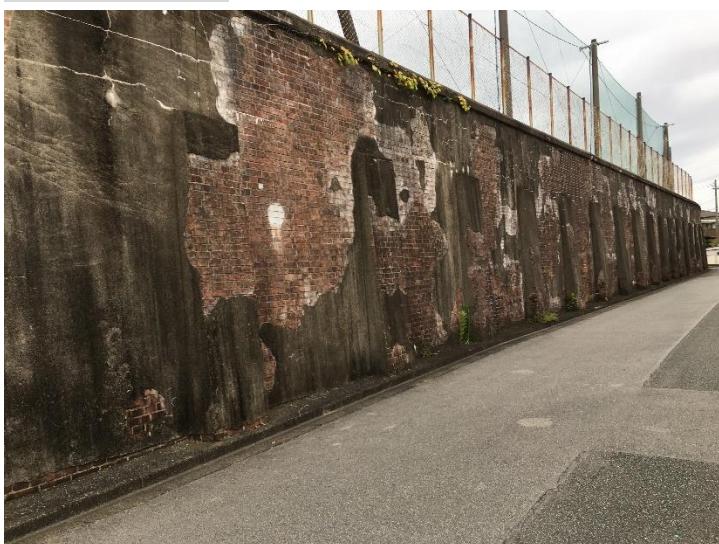
## 宮浦坑跡



三池炭鉱宮原坑



旧三池集治監外堀



## 三池炭鉱万田坑









